

令和7年度

# 植物防疫事業年報

令和8年(2026年)3月

滋賀県病害虫防除所

# 目次

第1	病虫害防除所事務分掌表	1
第2	病虫害発生予察事業	
1	事業の目的	3
2	事業の実施概要	3
3	気象概況	6
4	普通作物病虫害発生予察事業	
(1)	イネ	7
(2)	ムギ	34
(3)	ばれいしょ	37
(4)	ダイズ	38
5	野菜（露地）病虫害発生予察事業	41
6	果樹等作物病虫害発生予察事業	
(1)	果樹	57
(2)	チャ	63
(3)	花き（キク）	76
7	病虫害防除推進員の設置	77
8	滋賀県病虫害防除所ホームページ	85
9	本年度新たに発生が確認された病虫害	86
10	病虫害の診断および生態調査	87
11	発生が目立った病虫害	89
第3	侵入調査事業	96
第4	農薬安全使用等総合推進事業	97
第5	病虫害発生予察情報発表内容	
1	予報	98
2	注意報および警報	108
3	特殊報	115
4	防除情報	119
5	その他情報・発表・広報・研修会等	123
第6	試験成績	
1	効率的な予察手法の検討	124
2	効果的な病虫害の防除技術の検討	131
3	新たな診断技術の検討	139

注：本文中の「平年値」とは、特に記載のない限り平成27年から令和6年の平均値を指す。  
表中の「－」は、データの欠測または該当なしを示す。

# 第1 病虫害防除所事務分掌表

(令和7年4月1日)

所次 長 蓮川 博之  
長 有元 倫子

分 掌 事 務	主 任	副 主 任
1. CO <sub>2</sub> ネットゼロに向けた事務事業の推進に関する事	全 職 員	
1. 病虫害防除所業務の総括に関する事	蓮 川 所 長	
1. 所事務の総括に関する事 2. 関係機関および団体との連絡調整に関する事	有 元 次 長	近 藤 副主幹
3. 植物防疫事業に関する事 4. 予察情報作成会議に関する事		角 主 査
1. 公印の管理に関する事 2. その他庶務に関する事	片 桐 副主幹 平 居 副主幹	村 田 主 査 田 代 主 事
1. 予算の執行および決算に関する事 2. 文書の收受編さんに関する事 3. 諸給与・その他経理に関する事	村 田 主 査 伊 藤 主 事	平 居 副主幹 田 代 主 事
1. 病虫害防除推進員に関する事 2. 農薬取締法に関する事 3. 総合的病虫害管理(IPM)の推進に関する事	近 藤 副主幹	角 主 査 岡 本 主 査 松 本 主任技師
1. 病虫害雑草防除基準に関する事 2. 作物の発生予察に関する事	角 主 査	近 藤 副主幹 松 本 主任技師
1. 新たな水稻病虫害に対する発生予察・防除技術の開発に関する事 2. 薬剤抵抗性害虫検定に関する事	岡 本 主 査	近 藤 副主幹 山 口 技 師
1. 病虫害発生予察の計画および情報作成に関する事 (病害) 2. 病害の診断に関する事 3. いもち病発生予察システムに関する事	松 本 主任技師	有 元 次 長 角 主 査 松 本 技 師
1. 病虫害発生予察の計画および情報作成に関する事 (虫害) 2. ホームページ等による情報提供に関する事 3. 虫害の診断に関する事	山 口 技 師	有 元 次 長 近 藤 副主幹 岡 本 主 査

1. 病害虫発生量の調査報告に関すること 2. 侵入調査、予察灯およびトラップ調査等に関すること 3. 薬剤耐性菌検定に関すること	松本技師	岡本主査 松本主任技師 山口技師
1. 果樹の発生予察事業および防除、侵入調査に関すること	近藤主任技師	山口技師
1. 茶の発生予察事業および防除、侵入調査に関すること	樋口技師	近藤副主幹
1. 県南部地域における発生予察事業に関すること	近藤副主幹	山口技師
1. 大津・南部地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	北川技師	近藤副主幹 山口技師
2. 甲賀地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	小林技師	
1. 県中部地域における発生予察事業に関すること	角主査	岡本主査
1. 東近江地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	西川主任技師	角主査 岡本主査
2. 湖東地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	河村主任技師	
1. 県北部地域における発生予察事業に関すること	松本主任技師	松本技師
1. 湖北地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	小幡主任技師	松本主任技師 松本技師
2. 高島地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関すること	大角技師	

## 第2 病害虫発生予察事業

### 1 事業の目的

農作物の生産安定と品質の向上を図ると同時に環境に優しい病害虫防除を推進するためには、病害虫の防除を適時かつ効率的に行う必要がある。

このため、発生予察事業は広域に発生し、急激にまん延して農作物に重大な被害を与える病害虫について、その発生動向等を調査し、防除を要する病害虫や防除対策に関する情報を農業者等に提供することにより、病害虫の防除を効果的かつ効率的に適期に行い、その被害を防止して農業生産の安定と助長を図ることを目的とする。

### 2 事業の実施概要

#### (1) 事業対象作物および病害虫（指定有害動植物は交付金の対象）

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
普通作物	イネ	指定	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、もみ枯細菌病（苗腐敗病）、ばか苗病、縞葉枯病、白葉枯病、ごま葉枯病	イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイガ、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、トビロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ）、コブノメイガ、フタオビコヤガ
		指定外	黄萎病	イチモンジセセリ、コバネイナゴ、イネクロカメムシ
	ムギ	指定	うどんこ病、赤かび病、さび病類	-
		指定外	黒節病、縞萎縮病	-
	ダイズ	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、吸蜜性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ）、フタスジヒメハムシ、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※
		指定外	べと病、葉焼病	ハダニ類
野菜	トマト	指定	灰色かび病、疫病、葉かび病、うどんこ病、黄化葉巻病、すすかび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、アザミウマ類、オオタバコガ※
		指定外	-	タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ナス	指定	うどんこ病、灰色かび病、すすかび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）、オオタバコガ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類、タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ばれいしょ	指定	疫病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類
	キュウリ	指定	うどんこ病、灰色かび病、べと病、褐斑病、炭疽病、斑点細菌病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、ハダニ類、ハスモンヨトウ※
		指定外	-	-

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
野菜	キャベツ	指定	黒腐病、菌核病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ）、モンシロチョウ、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、カブラヤガ（ネキリムシ類）、ハイマダラノメイガ
	はくさい	指定	-	-
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、モンシロチョウ
	だいこん	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）
		指定外	-	ハイマダラノメイガ
	ブロッコリー	指定	-	ハスモンヨトウ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	黒腐病	-
	ねぎ	指定	さび病、黒斑病、べと病	アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ネギコガ、ネギハモグリバエ、ハスモンヨトウ※、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、シロイチモジヨトウ※
		指定外	-	-
たまねぎ	指定	べと病、白色疫病	アザミウマ類（ネギアザミウマ）	
	指定外	-	-	
サトイモ	指定	-	アブラムシ類、ハスモンヨトウ※	
	指定外	-	ハダニ類	
花き	キク	指定	白さび病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ）、ハダニ類
		指定外	-	-
果樹	ナシ	指定	黒星病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ナシミドリアブラムシ）
		指定外	-	-
	ブドウ	指定	べと病、灰色かび病、晩腐病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）
		指定外	-	-
	カキ	指定	炭疽病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、カキノヘタムシガ、アザミウマ類（カキクダアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）
		指定外	-	-
茶樹	チャ	指定	炭疽病	ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ）、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（クワシロカイガラムシ）、チャトゲコナジラミ
		指定外	もち病、新梢枯死症、輪斑病	カメムシ類（ツマグロアオカスカメ）

※ 作物共通の指定有害動植物については、本県での対象作物ごとに示した。

## (2) 調査ほ場の設置状況

耕種	対象作物	調査地点数		設置場所	
		区分	地点数		
普通作物	イネ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	35	大津市(2)、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市(3)、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市(6)、彦根市、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市(3)、長浜市(5)、高島市(4)	
	ムギ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	38	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市(2)、湖南市、甲賀市(2)、近江八幡市(5)、日野町、竜王町(2)、東近江市(6)、彦根市(2)、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市(3)、長浜市(4)、高島市(2)	
	ダイズ	定点	1	近江八幡市	
		巡回	22	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市(2)、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、米原市、長浜市(3)、高島市	
	野菜類	-	定点	0	-
		-	巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	花き	キク	定点	0	-
			巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
	果樹	ナシ	定点	1	栗東市
			巡回	2	東近江市、彦根市
ブドウ		定点	1	栗東市	
		巡回	2	東近江市、長浜市	
カキ		定点	1	栗東市	
		巡回	2	東近江市、米原市	
茶樹	チャ	定点	1	甲賀市水口町	
		巡回	7	甲賀市土山町(3)、信楽町(3)、日野町	

## (3) 予察灯およびフェロモントラップの設置

設置場所	種類	対象害虫名
大津市 里	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
守山市 矢島町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
栗東市 荒張	乾式日別予察灯 (高圧水銀灯)	果樹カメムシ類、ガ類
	フェロモントラップ	果樹カメムシ類、ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ
甲賀市 水口町 水口	予察灯(水盤)	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
	フェロモントラップ	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
近江八幡市 安土町大中	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	スマート害虫モニタ リングシステム	カメムシ類
	フェロモントラップ	ニカメイガ、コナガ、カブラヤガ、タバコガ、オオタバコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	黄色水盤	アブラムシ類
長浜市 難波町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ
高島市 今津町日置前	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ

### 3 気象概況

#### (1) 年間の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：16.3℃（平年値15.0℃※、R6年16.6℃）
  - ・降水量：平年比88%
  - ・日照時間：平年比110%
  - ・年平均気温は全般に平年よりかなり高く、特に6～9月は記録的な暑さとなった。また、降水量は全般に平年より少ないか、かなり少なく、日照時間は全般に平年よりかなり多かった。
- ※平年値は1991年～2020年の平均

#### (2) 稲作期間(4月～10月)の概況〔彦根アメダス観測値〕 (図)

- ・平均気温：23.0℃（平年値21.0℃※、R6年23.0℃）
  - ・降水量：平年比93%
  - ・日照時間：平年比113%
  - ・水稻の生育に影響を及ぼした特筆すべき気象としては、4～9月までの各月の平均気温が平年より0.8～3.5℃高く、特に期間後半の7～9月は平年よりかなり高かったことが挙げられる。また、7月の降水量は平年より153.9mm少なく、日照時間は平年より127.2時間多かったことも挙げられる。
  - ・梅雨入り：5月17日ごろ（平年値6月6日）、梅雨明け：6月27日ごろ（平年値7月19日）
- ※平年値は1991年～2020年の平均

2025年気象表(彦根アメダス)

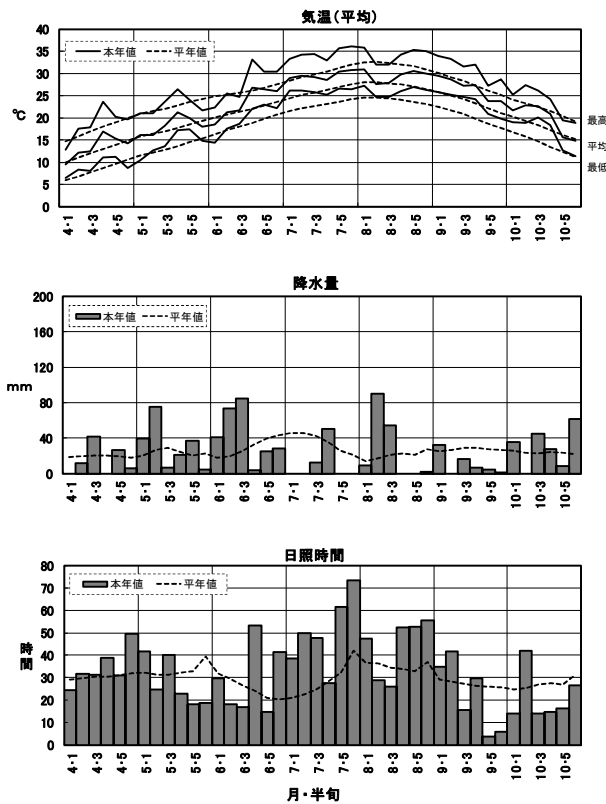


図 2025年4～10月における彦根市の気温、降水量および日照時間

## 4 普通作物病害虫発生予察事業

イネ、ムギおよびダイズを対象として、主要病害虫を重点的に調査した。その結果に基づき病害虫発生予察情報として、発生予報9回、注意報5回（麦類赤かび病、オオタバコガ、斑点米カメムシ類、ミナミアオカメムシ、ハスモンヨトウ）、防除情報2回（ハスモンヨトウ、斑点米カメムシ類）を発表した。

### (1) イネ

#### ア 概況

##### (ア) 生育の概要

- ・ 4月～5月は気温の変動が大きく、移植直後に低温や強風に遭遇した一部のほ場では植え傷みが見られた。5月17日に平年より20日早く梅雨入りし、5月下旬～6月前半は概ね低温、多雨、日照不足で推移したため、草丈が長く、茎数が少ない徒長気味の生育となり、特に移植の遅いほ場を中心に分けつが抑制された。
- ・ 梅雨明けは平年より22日早い6月27日となり、6月後半～8月始めは気温が平年よりかなり高く、日照は多く、降水量は少なく推移した。高温多照の影響で茎数は回復傾向となり、6月下旬～7月上旬の葉色は平年並～やや濃く推移した。急激な気温上昇により一部のほ場で還元障害が見られた。
- ・ 8月第2半旬～第3半旬は一転して気温は平年並、多雨、日照不足となったが、8月後半～9月中旬は再び高温、多照、寡雨となった。これらのことから、幼穂形成期は平年並～やや早であったが、出穂期、成熟期はやや早くなった。
- ・ 平年と比べて穂もちや紋枯病の発生は少なく、縞葉枯病はやや少なかったが、ごま葉枯病が多くみられた。また、斑点米カメムシ類の発生量が多かった。

##### (イ) 収量および品質

- ・ 単収はいずれの品種においても平年並～やや多とみられるが、くず米が多い傾向であり、生産者やほ場によるばらつきが大きい。
- ・ 玄米外観品質は、例年に比べて白未熟粒やカメムシによる斑点米が多く発生し、1等比率は低い（県内の1等比率：うるち玄米平均 51.7%（農林水産省、令和7年8月31日現在））。
- ・ 6月後半からの高温で幼穂形成期頃の葉色が平年並～やや濃く推移し、一穂粒数が多くなったことから、㎡あたり粒数が多くなり、乳白粒などの白未熟粒が多発した。
- ・ 6月後半～9月の高温の影響によって稲体の窒素代謝が増加したことや、地力や施肥窒素の溶出が早まったことによる登熟後期の栄養凋落により登熟不良となり、基白粒や背白粒などの白未熟粒が多発するとともに、くず米が増加した。特に8月後半は干ばつ傾向であったため、用水の確保が十分にできなかつたり、収穫前に早めに入水を切り上げたほ場では、過乾燥となり蒸散が十分に行えず高温障害を助長したと考えられる。
- ・ 7月から8月にかけて、受粉障害の発生が多くなるとされる35℃を超える日が続いたことでほ場によっては不稔粒が発生したと考えられる。
- ・ 斑点米カメムシ類の発生量が多く、吸汁害による斑点米が発生し、玄米品質が低下した。
- ・ 一部地域では、イネカメムシの発生量が多く、出穂期の吸汁害による不稔粒が発生し、収量減少の要因となったと考えられる。
- ・ ごま葉枯病が多発したほ場では、収量減少を助長したと考えられる。

## イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
葉いもち	遅	並	ほ場での初発確認は7月4日で、発生時期は遅かった。7月上旬までの発生量はやや少なかったが、7月下旬ごろの発生量は平年並となった。	6月下旬に、BLASTAMによる準感染好適条件が多く出現していたことから、発生量が増加した。	移植時の育苗箱施薬が普及している。葉いもち多発ほ場では防除が実施された。
穂いもち	並	少	ほ場での初発確認は7月29日で、発生時期は平年並であった。発生ほ場率は少なかった。	県内の主要な早生品種の出穂期前後である7月下旬の降水量が少なく、気温は高く推移したため、穂いもちの発生は抑制された。	出穂期前後に、地域一斉防除や無人ヘリなどによる防除の実施。ドリフト対策として、粒剤による防除が普及している。葉いもち多発ほ場や穂いもち発生ほ場では穂いもち防除が実施された。
紋枯病	やや遅	少	ほ場での初発確認は6月25日で、発生時期はやや遅かった。初発時期から継続して、発生量はやや少～少で推移した。	伝染源となる紋枯病の前年の発生量は少なかった。また、水稻の差数が少なく推移し、7月に気温は高かったが、降水量が少なく推移したことから、紋枯病の発病は抑制された。一方で、8月上旬は降水量が多く気温も高かったことから垂直伸展が急激に進行したため、中～多発生ほ場が見られた。	移植時の箱粒剤による防除及び本田防除が常発地を中心に導入されている。
白菜枯病	遅	やや少	ほ場での初発確認は9月11日で、発生時期は遅かった。発生は常発地に限られていたため、発生量はやや少なかった。	強風雨を伴う台風の接近もなく、前年の発生量がやや少なく、残存する細菌密度が低かったことから、発生量はやや少なくなった。	本病に効果のある育苗箱施薬剤が導入（他の病害と同時防除）。
ばか苗病	遅	やや少	ほ場での初発確認は6月11日で、発生時期は遅かった。一部の常発地で発生が認められた。	温湯消毒を中心に生物農薬、化学農薬による種子消毒が普及しているため、発生は一部常発地にとどまった。	種子消毒による防除の実施。
もみ枯細菌病	遅	並	ほ場での初発確認は9月9日で、発生時期は遅かった。発生地は限られた。	主要な早生品種では影響を受ける台風の襲来もなかったことから、発病が少なかった。発生年が少なく、平年値が低いため、平年比は並となった。	種子消毒と移植時の育苗箱施薬剤による防除の実施。
ごま葉枯病	早	多	ほ場での初発確認は7月9日と、発生時期は早かった。成熟期の発生ほ場率は35.0%と過去10年で1番高く、平年値（9.8%）の約3.5倍であった。一部ほ場で穂枯れに至るほ場が確認された。	前年の発生量は多く、伝染源が多いと考えられる。また、出穂期以降の気温が高く推移したことから、生育後期の栄養凋落の影響が強いと考えられる。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
縞葉枯病	並	やや少	ほ場での初発確認は6月23日で、発生時期は平年並であった。ほ場での発生量はやや少なかった。なお刈株再生芽での発生は全域で見られ、10月の調査の発生量は平年並であった。	RSV保毒虫率はやや高かったが、ヒメトビウカの越冬世代の発生量はやや少なかったことから、8月上旬以降、立毛中の本病の発生量もやや少なくなった。8月以降のヒメトビウカの発生量はやや少なかった。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除、秋季の耕起の徹底により、媒介虫のヒメトビウカの発生が抑制されている。
黄萎病	-	少	立毛中および刈株再生芽での発生は認められなかった。	近年、本病の発生はほとんど見られない。箱粒剤の施用や共同防除が実施されており、媒介虫であるツマグロヨコバエの発生量は平年並に抑えられた。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除で、媒介虫のツマグロヨコバエの発生が抑制されている。
稲こうじ病	遅	並	ほ場での初発確認は9月8日で、発生時期は遅かった。発生量は平年並となった。	7月までは降水量が少なかったが、8月上旬～中旬にかけて適度な降水があったため、主に前年も発生していた地域で発生が見られた。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。

病害虫名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
ニカメイガ 第1世代	並	やや少	温量により推定した越冬世代成虫の発 が最盛期は平年並であった。予察灯で の誘殺時期はやや遅かったが、50%誘 殺日は平年並であった。ほ場での発生 時期はやや遅く、発生量はやや少な かった。	前年の第2世代幼虫の発生はやや少な かった。育苗箱施薬剤の使用の有無に よって全体の発生量は少なく抑えられ た。	移植時の育苗箱施薬剤が普及している。
ニカメイガ 第2世代	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は7月29日で、発生 時期はやや遅く、発生量はやや少な かった。予察灯全調査地点で第2世代 の成虫と思われる発生のピークが確認 された。	第1世代成虫の発最盛期は平年並で あったが、第1世代幼虫の発生時期は やや遅かった。第1世代成虫の発生量 は多かったが、第2世代幼虫はやや少 なかった。第2世代成虫の発生は高温 が続いたため、世代数が増加したと考 えられる。	第1世代幼虫が多発したほ場では、主 に粒剤を用いた防除がされている。近 年、被害ほ場は減少しており、防除面 積も減少している。
セジロウンカ	遅	やや少	予察灯への初飛来は7月9日で平年より 遅かった。ほ場での発生量は7月上 旬は平年並、8月中下旬はやや少な かった。	予察灯への飛来量が平年並であった。	育苗箱施薬剤の利用や、斑点米カメム シ類と併せて出穂期の薬剤散布により 防除されることが多い。
トビロウンカ	-	少	予察灯では誘殺されなかった。7月～9 月にかけ複数回、本田すくい取り・払 い落とし調査を実施したが、本種は捕 獲されず、本種による坪枯れ症状の発 生も確認されなかった。	本県へは多数の飛来は無く、ほ場内増 殖も起こらなかったと判断された。	出穂期の防除により、斑点米カメムシ 類と併せて防除されることが多い。
ヒメトビウンカ	並	やや少	予察灯への初飛来は4月8日で平年並 で、越冬世代の発生量はやや少な かった。ほ場での発生量は7月上旬、8月 中下旬ともにやや少なかった。	越冬量はやや少なかつたため、ほ場内 での発生量がやや少なくなったと思わ れる。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制 される。また、出穂期の防除により、斑 点米カメムシ類と併せて防除されるこ とが多い。
ツマグロヨコバイ	並	並	予察灯への初飛来は6月4日と遅かった が発生ピークの出現時期は平年並で あった。越冬世代の発生量はやや少な かった。ほ場での7月上旬の発生量は やや少なく、8月中下旬の発生量は平 年並であった。	昨年の発生量は平年並で、越冬量は やや少なかった。育苗箱施薬剤の使用 および出穂期防除の有無により、地域・ ほ場間差が大きい。	育苗箱施薬剤の利用により発生が抑制 される。また、出穂期の防除により、 斑点米カメムシ類と併せて防除される ことが多い。
イネドロオウムシ	早	やや多	ほ場での初発確認は5月23日で、発生 時期は早かった。6月下旬の食害程度 はやや多かったが、中発生以上の食害 は認められなかった。	前年の発生量は平年並であったが、6 月上旬は本種の増殖に好適な曇り や雨の日が多く、中山間地では食害が 目立つほ場が見られた。	育苗箱施薬剤による防除が実施されて いる。発生が多いほ場では本田施用の 粒剤による防除が実施されている。
斑点米カメムシ類	並	多	予察灯ではアサスジカミカメの発生 ピークの出現時期は平年並であった。 7月上旬の畦畔のすくい取り調査で は、アサスジカミカメの発生量が多 かった。出穂期以降の本田での発生量 はやや多く、イネカメムシやミナミア オカメムシの発生量が多かった。	6月の気温が高く、特にアサスジカ ミカメの越冬世代が繁殖する6月下旬 の降水量が少なかつたため、密度増加 に好適な条件がそろった。その影響か ら、年間を通しての発生量は多くな り、出穂期以降の本田への飛び込みが 増加した。出穂期の薬剤防除が実施さ れたが、その後飛来するミナミアオ カメムシや防除前に侵入したイネカメ ムシによる被害が発生した。	畦畔のイネ科雑草が出穂しないよう、 多くのほ場で適正に除草作業が実施さ れ、本田への侵入抑制が図られてい る。また、出穂後に一斉防除がされて いる。使用薬剤は液剤や粉剤が主であ るが、ドリフト対策として粒剤が使用 されている地域もある。畦畔での発生 量が多く、7月17日に注意報を発表 した。また、本田での発生量がやや多 かつたため、8月7日に防除情報を発表 した。山間地域を中心とした一部ほ場 では、本田内にイネカメムシが多くみ られた。
イチモンジセセリ	早	やや少	ほ場での初発確認は5月23日で、発生 時期は早く、発生量はやや少なかつ た。	前年の発生は平年並であったが、6月 中旬の降水量が多く、成虫の飛来が 抑制されたために、発生量が平年並に なつたと考えられる。	ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤 が使用されているほ場では、同時防除 されている。
フタオビコヤガ	遅	やや少	ほ場での初発確認は7月10日で、発生 時期は遅く、発生量はやや少なかつ た。	近年、少発生傾向にある。昨年の発生 量は少なく、ニカメイガに効果の高い 育苗箱施薬剤の導入により同時に防除 され、発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗箱施薬剤 が使用されているほ場では、同時防除 されている。
コブノメイガ	早	やや少	ほ場での初発確認は7月9日で、発生時 期は早く、発生量はやや少なかつた。	飛来時期が平年より早かつたが、セジ ロウンカと同様に飛来量が少ないと考 えられ、発生量がやや少なくなった。	多発した年のみ、本田での防除が実施 されている。
イネミズゾウムシ	遅	平年並	本田への飛び込み時期は遅かつた。5月 下旬の食害程度は平年並であった。	育苗箱施薬剤の使用の有無により、被害 のほ場間差が顕著である。多発生ほ場 では、効果のある育苗箱施薬剤が使用 されていない。	育苗箱施薬剤による防除が実施されて いる。
コバネイナゴ	並	やや少	ほ場での初発確認は5月19日で、発生 時期は平年並であった。ほ場での発生 量はやや少なかつた。	前年の発生量はやや少なかつた。出穂 期のカメムシ類対象の薬剤散布で、同 時防除されたと考えられる。	斑点米カメムシ類と併せて防除される ことが多い。

ウ 定点における調査  
(ア) いもち病発生予察システム

a 判定結果(JPP-NET版BLASTAMの判定結果)

令和7年(2025年) BLASTAM 結果										
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	○4
6月5日	木	-	-	-	-	-	?	-	-	-
6月6日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月10日	火	-	-	-	●	●	-	-	-	-
6月11日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	日	●	●	-	-	●	-	-	-	-
6月16日	月	-	-	-	-	-	-	-	●	-
6月17日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	?
6月19日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	月	○2	-	-	-	○3	○2	-	-	-
6月24日	火	○2	○2	○2	○2	○2	○2	○2	-	-
6月25日	水	○2	○2	○2	-	○2	○2	○2	-	-
6月26日	木	-	-	-	-	-	-	○3	-	-
6月27日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月3日	木	-	-	-	-	-	-	○2	-	-
7月4日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月7日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	水	-	-	-	-	-	-	?	-	-
7月10日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月11日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月13日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月16日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月17日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月19日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月20日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[判定結果の指標]

●=感染好適条件

湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めた前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。

○=準好適条件

- 1：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満。
- 2：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上。
- 3：湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外。
- 4：湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い。

-：好適条件なし。

?：判定不能。

b 情報提供

病害虫防除所のホームページ上にて、感染好適条件の出現状況（上記）を随時公開した。

(イ) 予察灯による調査

ニカメイガ発生型一覧

事項		大津市里			守山市矢島町			近江八幡市安土町大中		
		地点	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年
越冬世代	初飛来日(月日)	5/20	5/13	+6	6/7	5/4	+34	4/27	4/26	+1
	最盛日(月日)	5/19	5/19	-	6/11	5/19	+22	5/18	5/19	-1
	50%誘殺日(月日)	5/21	5/21	-	6/13	5/20	+23	5/19	5/19	±0
	終息日(月日)	7/3	5/22	+42	6/29	6/26	+3	7/5	6/26	+9
	誘殺日数(日)	3	3	±0	12	25	-13	30	22	+8
	誘殺数(頭)	6	3	+3	67	157	-90	102	60	+42
第1世代	初飛来日(月日)	7/11	7/17	-6	7/6	7/11	-5	7/7	7/12	-6
	最盛日(月日)	7/29	8/1	-4	7/27	7/26	+1	7/26	7/27	-1
	50%誘殺日(月日)	7/25	8/4	-10	7/27	7/29	-2	7/24	7/31	-7
	終息日(月日)	8/10	8/19	-9	8/9	9/7	-29	8/4	9/5	-33
	誘殺日数(日)	11	6	+5	31	37	-6	23	28	-5
	誘殺数(頭)	15	7	+8	598	319	+279	93	71	+22
第2世代	初飛来日(月日)	8/23			8/7			8/14		
	最盛日(月日)	8/31			8/23			8/28		
	50%誘殺日(月日)	8/31			8/24			8/27		
	終息日(月日)	9/2			9/17			8/5		
	誘殺日数(日)	9			34			24		
	誘殺数(頭)	16			434			87		

事項		長浜市難波町			高島市今津町日置前		
		地点	本年	平年	差	本年	平年
越冬世代	初飛来日(月日)	5/5	5/7	-2	5/1	5/3	-2
	最盛日(月日)	5/21	5/25	-4	5/20	5/19	+1
	50%誘殺日(月日)	5/29	5/26	+3	5/21	5/20	+1
	終息日(月日)	6/24	6/17	+7	6/14	6/21	-7
	誘殺日数(日)	22	16	+6	23	21	+2
	誘殺数(頭)	50	44	+6	93	85	+8
第1世代	初飛来日(月日)	7/25	7/16	+8	7/15	7/16	-2
	最盛日(月日)	7/29	7/28	+1	7/21	7/30	-9
	50%誘殺日(月日)	7/28	7/30	-2	7/23	7/30	-7
	終息日(月日)	8/4	8/20	-17	8/7	9/5	-29
	誘殺日数(日)	9	15	-6	16	21	-5
	誘殺数(頭)	19	39	-20	90	78	+12
第2世代	初飛来日(月日)	8/20			8/15		
	最盛日(月日)	8/26			8/22		
	50%誘殺日(月日)	8/26			8/24		
	終息日(月日)	9/14			9/8		
	誘殺日数(日)	10			18		
	誘殺数(頭)	19			46		

本年から各地で第2世代のピークが確認されたため、各地点ごとに越冬世代、第1世代、第2世代と区別して算出を行った。なお第1世代の平年値は7月第2半旬から調査終了時(10/31)を第1世代とした値であるため、差については参考値である。

ニカメイガ半旬別誘殺状況(予察灯)

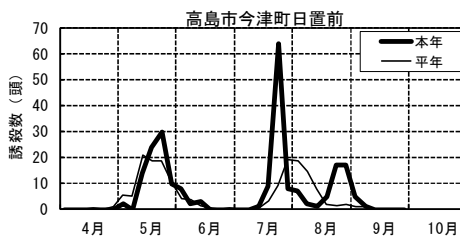
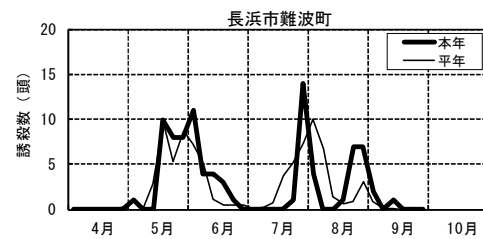
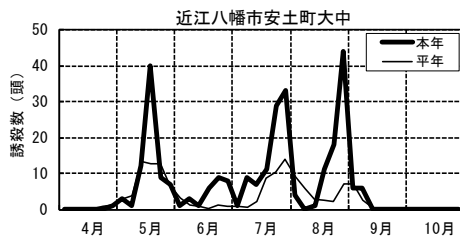
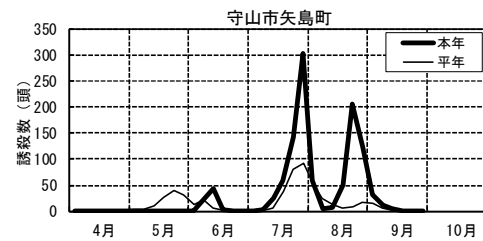
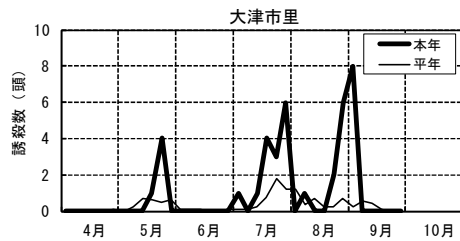
(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	5	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0.7	0.9	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.4	
4	6	0	0	0.1	0.1	0	0.6	0.9	1	1	1.1	2.0	0	0	0.2	0.3	0	0	0.9	1.3	
5	1	0	0	0	0.1	0	0	3.1	4.0	3	4	2.7	4.7	1	1	0.8	1.1	2	2	5.3	6.7
5	2	0	0	0.2	0.3	0	0	3.0	7.0	1	5	3.7	8.4	0	1	0.2	1.3	0	2	4.9	11.6
5	3	0	0	0.7	1.0	0	0	9.6	16.6	12	17	13.2	21.6	0	1	2.8	4.1	14	16	20.9	32.4
5	4	1	1	0.6	1.6	0	0	26.3	42.9	40	57	12.5	34.1	10	11	9.7	13.8	24	40	18.4	50.9
5	5	4	5	0.5	2.1	0	0	39.4	82.3	9	66	12.7	46.8	8	19	5.3	19.1	30	70	18.7	69.6
5	6	0	5	0.6	2.7	0	0	31.4	113.7	7	73	6.6	53.4	8	27	8.7	27.8	10	80	10.9	80.4
6	1	0	5	0.1	2.8	0	0	12.7	126.4	1	74	3.2	56.6	11	38	7.3	35.1	8	88	4.3	84.8
6	2	0	5	0.1	2.9	20	20	21.6	148.0	3	77	1.1	57.7	4	42	5.0	40.1	2	90	3.8	88.6
6	3	0	5	0.1	3.0	43	63	5.5	153.5	1	78	0.7	58.4	4	46	1.1	41.2	3	93	1.5	90.1
6	4	0	5	0	3.0	3	66	1.6	155.1	6	84	0.3	58.7	3	49	0.5	41.7	0	93	0.5	90.6
6	5	0	5	0	3.0	0	66	0.4	155.5	9	93	1.3	60.0	1	50	0.4	42.1	0	93	0.2	90.8
6	6	0	5	0.1	3.1	1	67	0.7	156.2	8	101	1	60.7	0	50	0.4	42.5	0	93	0.3	91.1
7	1	1	6	0.1	3.2	0	67	0.9	157.1	1	102	0.8	61.5	0	50	0.1	42.6	0	93	0.2	91.3
7	2	0	0	0.1	0.1	2	2	1.0	1.0	9	9	0.5	0.5	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0
7	3	1	1	0.2	0.3	25	27	6.1	7.1	7	16	2.1	2.6	0	0	0.7	0.9	1	1	0.3	0.3
7	4	4	5	0.8	1.1	59	86	37.5	44.6	11	27	8.6	11.2	0	0	3.7	4.6	9	10	3.3	3.6
7	5	3	8	1.8	2.9	143	229	80.2	124.8	29	56	10.5	21.7	1	1	5.2	9.8	64	74	9.1	12.7
7	6	6	14	1.2	4.1	305	534	92.8	217.6	33	89	14.0	35.7	14	15	7.4	17.2	8	82	19.0	31.7
8	1	0	14	1.2	5.3	59	593	53.2	270.8	4	93	9.1	44.8	4	19	10.0	27.2	7	89	18.6	50.3
8	2	1	15	0.3	5.7	5	598	24.4	295.2	0	93	5.8	50.6	0	19	6.8	34.0	2	91	14.5	64.8
8	3	0	0	0.7	0.7	6	6	11.5	11.5	1	1	2.8	2.8	0	0	1.4	1.4	1	1	7.9	7.9
8	4	0	0	0.2	0.9	49	55	5.6	17.1	11	12	2.4	5.2	1	1	0.6	2.0	5	6	1.7	9.6
8	5	2	2	0.2	1.1	206	261	8.9	26.0	18	30	2.3	7.5	7	8	0.8	2.8	17	23	1.6	11.2
8	6	6	8	1	1.8	123	384	16.7	42.7	44	74	7.2	14.7	7	15	3.1	5.9	17	40	1.8	13.0
9	1	8	16	0.2	2.0	32	416	14.5	57.2	6	80	6.9	21.6	2	17	0.8	6.7	5	45	1.0	14.0
9	2	0	16	0.6	2.6	12	428	5.6	62.8	6	86	2.6	24.2	0	17	0	6.8	1	46	0.8	14.8
9	3	0	16	0.4	3.0	5	433	2.0	64.8	0	86	0.4	24.6	1	18	0	6.9	0	46	0.1	14.9
9	4	0	16	0	3.1	1	434	0.2	65.0	0	86	0	24.6	0	18	0	6.9	0	46	0	14.9
9	5	0	16	0	3.1	0	434	0	65.0	0	86	0	24.6	0	18	0	7.0	0	46	0	14.9
9	6	0	16	0	3.1	0	434	0.1	65.1	0	86	0	24.7	0	18	0	7.0	0	46	0	15.0
10	1									0	86	0	24.7								
10	2									0	86	0	24.7								
10	3									0	86	0	24.7								
10	4									0	86	0	24.7								
10	5									0	86	0	24.7								
10	6									0	86	0	24.7								

越冬世代

第1世代

第2世代



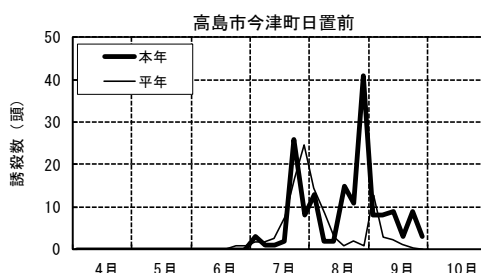
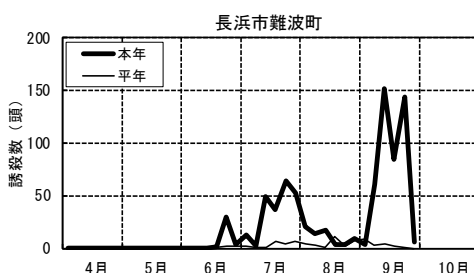
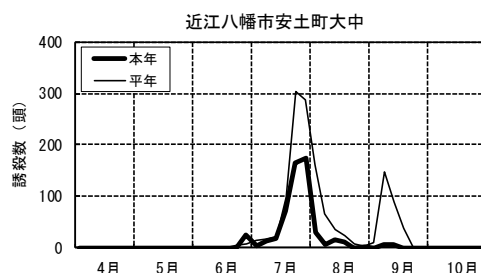
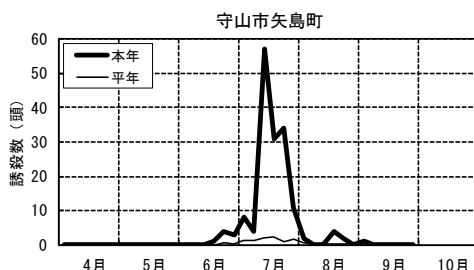
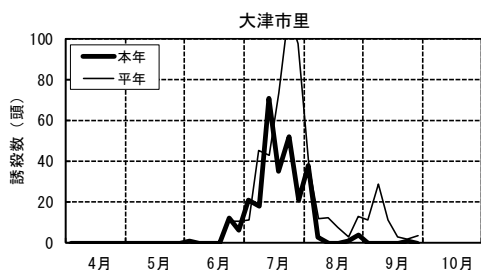
○表中の累積誘殺頭数は、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～8月第2半旬を第1世代、8月第3半旬～調査終了時を第2世代として積算している。

○平年値は過去10年間(H27～R6)の平均値である。ただしR7の7月1日～3日、8月9日～11日は欠測(安土町大中)

ツマグロヨコバイ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
初飛来																					
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
5 1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0
2	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
3	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
4	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
5	0	0	0	0.2	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0
6 1	1	1	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0.1	0.1
2	0	1	0.2	0.4	0	0	0	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0.1
3	0	1	0.1	0.5	0	0	0	0.1	0	0	0	0.6	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0.1	0.1
4	0	1	0.6	1.1	1	1	0	0.1	1	1	1	2.3	1	1	0.3	0.6	0	0	0.1	0.2	0.2
5	12	13	10.4	11.5	4	5	0.5	0.6	0	1	4.6	6.9	30	31	2.3	2.9	0	0	0.8	1.0	1.0
6	6	19	10.6	22.1	3	8	0.4	1.0	25	26	7	14.0	3	34	1.8	4.7	0	0	0.8	1.8	1.8
7 1	21	40	11.6	33.6	8	16	1.4	2.4	5	31	13.9	27.9	13	47	2.1	6.8	3	3	1.7	3.5	3.5
2	18	58	45.4	79.1	4	20	1.3	3.7	15	46	18.9	46.2	2	49	1.0	7.8	1	4	1.7	5.2	5.2
3	71	129	43.2	122.3	57	77	2.0	5.7	19	65	21	67.3	49	98	0.6	8.4	1	5	2.7	7.9	7.9
4	35	164	73.9	196.2	31	108	2.5	8.2	71	136	99.6	166.9	37	135	6.2	14.6	2	7	7.8	15.7	15.7
5	52	216	112.4	308.6	34	142	1.0	9.2	166	302	302.8	469.7	64	199	4.2	18.8	26	33	16.7	32.4	32.4
6	21	237	97.6	406.2	11	153	1.6	10.8	174	476	286	755.8	53	252	6.7	25.5	8	41	24.7	57.1	57.1
8 1	38	275	37.6	443.8	2	155	0.6	11.4	29	505	162.0	917.8	21	273	3.5	29.0	13	54	14.6	71.7	71.7
2	3	278	11.7	455.4	0	155	0.2	11.6	7	512	65.6	983.4	14	287	3.0	32.0	2	56	8.5	80.2	80.2
3	0	278	12.4	467.9	0	155	0.2	11.8	16	528	36.9	1019.7	17	304	0.5	32.5	2	58	3.0	83.2	83.2
4	0	278	7.7	475.5	4	159	0.1	11.9	12	540	25.4	1045.1	3	307	10.6	43.1	15	73	0.8	84.0	84.0
5	1	279	2.9	478.4	2	161	0.4	12.3	1	541	8.9	1053.8	3	310	1.9	45.0	11	84	2.1	86.1	86.1
6	4	283	13.0	491.4	0	161	0.2	12.5	2	543	4.2	1058.0	9	319	7.1	52.1	41	125	0.9	87.0	87.0
9 1	0	283	11.2	502.6	1	162	0.0	12.5	0	543	10.1	1068.1	4	323	8.1	60.2	8	133	12.9	99.9	99.9
2	0	283	28.9	531.5	0	162	0.2	12.7	7	550	146.8	1214.9	60	383	3.4	63.6	8	141	2.9	102.8	102.8
3	0	283	11.3	542.9	0	162	0	12.7	6	556	88.4	1303.3	152	535	4.0	67.6	9	150	2.4	105.2	105.2
4	0	283	3.1	546.0	0	162	0	12.7	0	556	37.9	1341.2	84	619	2.3	69.9	3	153	1.1	106.3	106.3
5	1	284	1.8	547.8	0	162	0.1	12.8	0	556	0	1342.1	144	763	0.6	70.5	9	162	0.4	106.7	106.7
6	0	284	3.4	551.2	0	162	0	12.8	0	556	0	1342.8	6	769	0	70.5	3	165	0.1	106.8	106.8
10 1									0	556	0	1343.1									
2									0	556	0	1343.6									
3									0	556	0	1343.7									
4									0	556	0	1343.7									
5									0	556	0	1343.8									
6									0	556	0	1343.8									

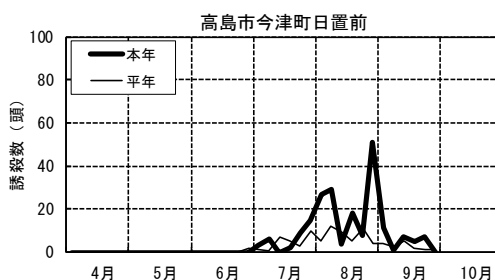
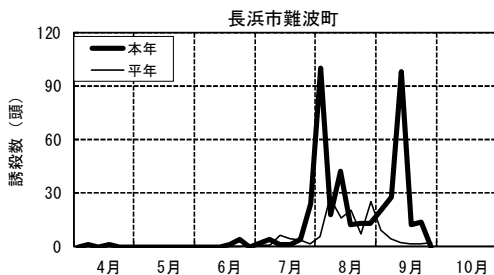
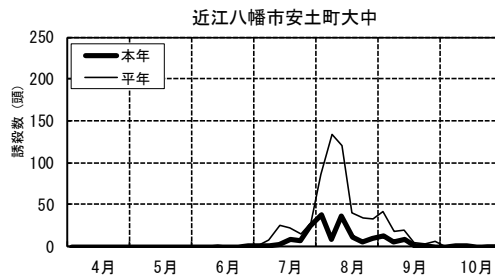
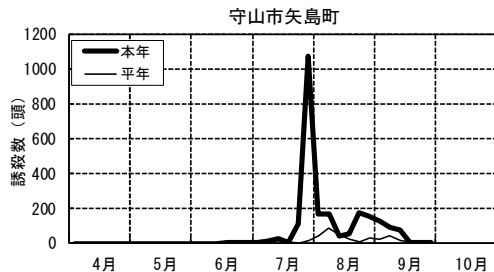
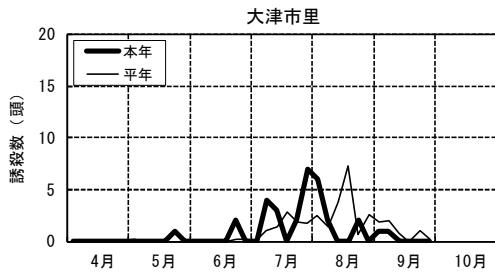


○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

ヒメビウナ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0.5	1	1	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	1.1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	1.5	1	2	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	1.7	0	2	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0.0	1.7	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0	0	0	0.2	1.9	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0.1	2.0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
5	3	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	2.0	0	2	0	0	0	0	0	0.1	0.1
5	4	0	0	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	2.0	0	2	0	0	0	0	0	0	0.1
5	5	1	1	0	0.3	1	1	0	0	0	0	0	2.0	0	2	0	0	0	0	0	0	0.1
5	6	0	1	0	0.3	0	1	0.1	0.1	0	0	0	2.0	0	2	0.2	0.2	0	0	0	0	0.1
6	1	0	1	0	0.3	0	1	0.0	0.1	0	0	0.1	2.1	0	2	0.1	0.3	0	0	0	0	0.1
6	2	0	1	0	0.3	0	1	0.1	0.2	0	0	0	2.1	0	2	0.1	0.4	0	0	0	0.1	0.2
6	3	0	1	0	0.3	1	2	0.1	0.3	0	0	1.8	3.9	0	2	0.4	0.8	0	0	0	0	0.2
6	4	0	1	0	0.3	2	4	0.4	0.7	0	0	0.6	4.5	1	3	0.3	1.1	0	0	0	0	0.2
6	5	2	3	0.2	0.5	2	6	0.1	0.8	0	0	0.5	5.0	4	7	0.0	1.1	0	0	0	0.1	0.3
6	6	0	3	0.2	0.7	2	8	0.4	1.2	1	1	1.0	6.0	0	7	1.0	2.1	0	0	1.6	1.9	1.9
7	1	0	3	0.1	0.9	4	12	0.9	2.1	1	2	1.6	7.6	2	9	0.5	2.6	3	3	1.2	3.1	3.1
7	2	4	7	1	1.9	14	26	7.2	9.3	1	3	8.2	15.8	4	13	0.8	3.4	6	9	0.7	3.8	3.8
7	3	3	10	1.4	3.3	28	54	12.7	22.0	2	5	26.0	41.8	1	14	6.6	10.0	0	9	6.8	10.5	10.5
7	4	0	10	2.8	6.1	4	58	4.9	26.9	9	14	22.1	63.9	1	15	4.2	14.2	2	11	5.2	15.7	15.7
7	5	2	12	1.9	8.0	110	168	4.1	31.0	7	21	14.6	78.5	4	19	3.9	18.1	9	20	3.0	18.7	18.7
7	6	7	19	1.8	9.7	1073	1241	12.4	43.4	24	45	27.9	106.4	24	43	1.5	19.6	15	35	9.9	28.6	28.6
8	1	6	25	2.4	12.2	171	1412	43.9	87.3	38	83	86.5	192.9	100	143	5.7	25.3	27	62	5.2	33.8	33.8
8	2	2	27	1.3	13.5	168	1580	86.4	173.7	8	91	133.6	326.5	18	161	27.2	52.5	29	91	12.3	46.1	46.1
8	3	0	27	3.8	17.3	43	1623	47.7	221.4	37	128	119.9	446.4	42	203	16.0	68.5	4	95	9.4	55.5	55.5
8	4	0	27	7.2	24.5	52	1675	25.2	246.6	11	139	40.0	486.4	12	215	20.4	88.9	18	113	5.4	60.9	60.9
8	5	2	29	0.7	25.2	177	1852	10.9	257.5	6	145	34.4	520.8	13	228	7.4	96.3	8	121	11.1	72.0	72.0
8	6	0	29	2.6	27.7	157	2009	29.1	286.6	10	155	32.1	552.9	13	241	25.2	121.5	51	172	3.8	75.8	75.8
9	1	1	30	1.9	29.6	125	2134	23.1	309.7	13	168	41.1	594.0	21	262	9.3	130.8	11	183	3.8	79.6	79.6
9	2	1	31	2.0	31.6	89	2223	40.5	350.2	6	174	18.5	612.5	28	290	4.6	135.4	1	184	2.5	82.1	82.1
9	3	0	31	0.8	32.4	78	2301	16.2	366.4	8	182	19.6	632.1	98	388	2.2	137.6	7	191	5.3	87.4	87.4
9	4	0	31	0.0	32.4	5	2306	5.5	371.9	1	183	4.8	636.9	12	400	1.8	139.4	5	196	1.8	89.2	89.2
9	5	0	31	1.0	33.4	8	2314	3.0	374.9	1	184	3.1	640.0	14	414	1.3	140.7	7	203	1.0	90.2	90.2
9	6	0	31	0.2	33.6	4	2318	0.5	375.4	0	184	5.5	645.5	0	414	2.0	142.7	0	203	1.0	91.2	91.2
10	1									0	184	0.8	646.3									
10	2									0	185	1.1	647.4									
10	3									0	186	0.4	647.8									
10	4									0	186	0.2	648.0									
10	5									0	186	1.0	649.0									
10	6									0	186	1.4	650.4									

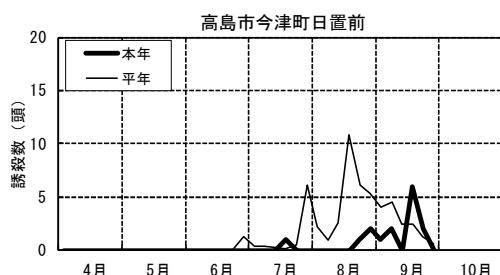
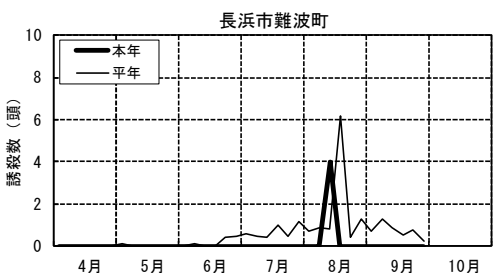
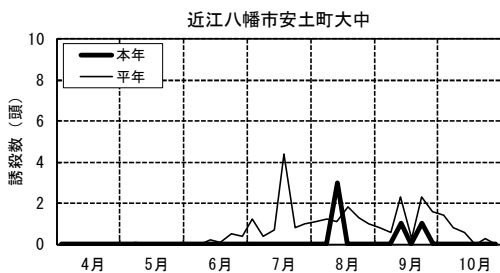
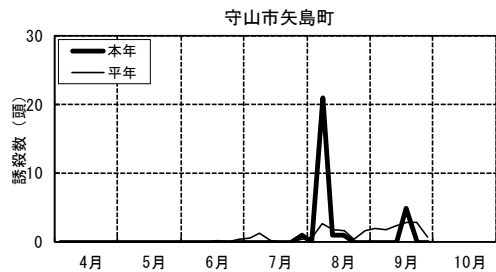
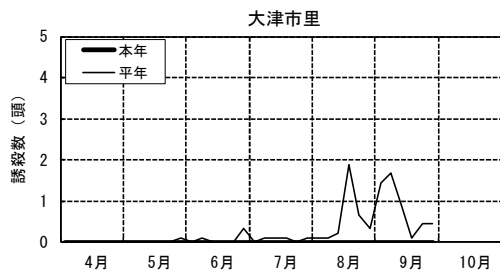


○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

セジロウンカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
5	6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
6	2	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0
6	3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0
6	4	0	0	0	0.2	0	0	0.2	0.2	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0.2	0	0	0	0
6	5	0	0	0	0.2	0	0	0	0.2	0	0	0.5	0.9	0	0	0.4	0.6	0	0	0	0
6	6	0	0	0.3	0.5	0	0	0.3	0.5	0	0	0.4	1.3	0	0	0.5	1.1	0	0	1.3	1.3
7	1	0	0	0	0.5	0	0	0.5	1.0	0	0	1.2	2.5	0	0	0.6	1.7	0	0	0.4	1.7
7	2	0	0	0.1	0.7	0	0	1.2	2.2	0	0	0.4	2.9	0	0	0.5	2.2	0	0	0.4	2.1
7	3	0	0	0.1	0.8	0	0	0.2	2.4	0	0	0.7	3.6	0	0	0.4	2.6	0	0	0.2	2.3
7	4	0	0	0.1	0.9	0	0	0	2.4	0	0	4.4	8.0	0	0	1.0	3.6	1	1	0.1	2.4
7	5	0	0	0	0.9	0	0	0	2.4	0	0	0.8	8.8	0	0	0.5	4.1	0	1	0.5	2.9
7	6	0	0	0.1	1.0	1	1	0.4	2.8	0	0	1.0	9.8	0	0	1.2	5.3	0	1	6.1	9.0
8	1	0	0	0.1	1.1	0	1	0.7	3.5	0	0	1.1	10.9	0	0	0.7	6.0	0	1	2.2	11.2
8	2	0	0	0.1	1.2	21	22	2.7	6.2	0	0	1.2	12.1	0	0	0.9	6.9	0	1	0.9	12.1
8	3	0	0	0.2	1.4	1	23	1.8	8.0	3	3	1.1	13.2	4	4	0.8	7.7	0	1	2.6	14.7
8	4	0	0	1.9	3.3	1	24	1.7	9.7	0	3	1.8	15.0	0	4	6.2	13.9	0	1	10.9	25.6
8	5	0	0	0.7	4.0	0	24	0.3	10.0	0	3	1.3	16.3	0	4	0.4	14.3	1	2	6.1	31.7
8	6	0	0	0.3	4.3	0	24	1.7	11.7	0	3	1.0	17.3	0	4	1.3	15.6	2	4	5.3	37.0
9	1	0	0	1.4	5.8	0	24	2.0	13.7	0	3	0.8	18.1	0	4	0.7	16.3	1	5	4.0	41.0
9	2	0	0	1.7	7.4	0	24	1.8	15.5	0	3	0.6	18.7	0	4	1.3	17.6	2	7	4.5	45.5
9	3	0	0	0.9	8.3	0	24	2.3	17.8	1	4	2.3	21.0	0	4	0.9	18.5	0	7	2.4	47.9
9	4	0	0	0.1	8.4	5	29	2.8	20.6	0	4	0.3	21.3	0	4	0.6	19.0	6	13	2.4	50.3
9	5	0	0	0.4	8.9	0	29	2.8	23.4	1	5	2.3	23.6	0	4	0.8	19.8	2	15	1.3	51.6
9	6	0	0	0.4	9.3	0	29	0.7	24.1	0	5	1.6	25.2	0	4	0.2	20.0	0	15	0.6	52.2
10	1									0	5	1.4	26.6								
10	2									0	5	0.8	27.4								
10	3									0	5	0.6	28.0								
10	4									0	5	0	28.0								
10	5									0	5	0.3	28.3								
10	6									0	5	0	28.3								

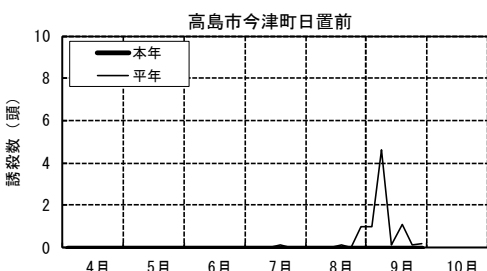
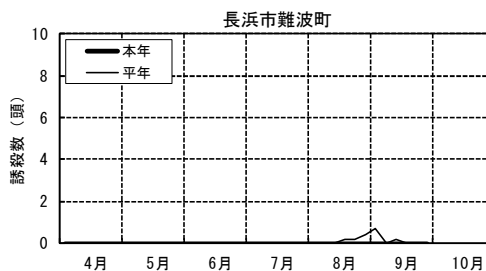
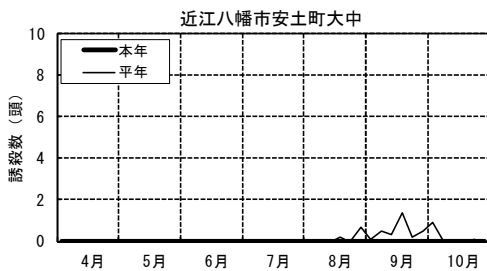
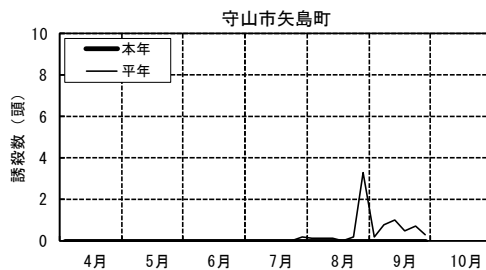
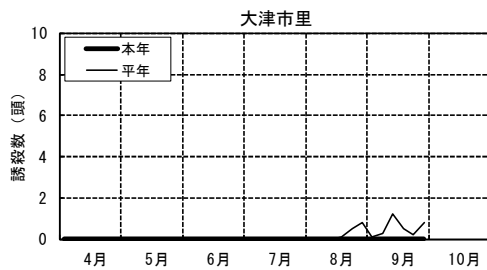


○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

トビイロウカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1
7	6	0	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
8	1	0	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
8	2	0	0	0	0	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
8	3	0	0	0	0	0	0	0.1	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
8	4	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.5	0	0	0.2	0.2	0	0	0.2	0.2	0	0	0.1	0.2
8	5	0	0	0.5	0.6	0	0	0.2	0.7	0	0	0.0	0.2	0	0	0.2	0.4	0	0	0	0.2
8	6	0	0	0.8	1.4	0	0	3.3	4.0	0	0	0.7	0.9	0	0	0.4	0.8	0	0	1.0	1.2
9	1	0	0	0.1	1.5	0	0	0.2	4.2	0	0	0.1	1.0	0	0	0.7	1.5	0	0	1.0	2.2
9	2	0	0	0.3	1.8	0	0	0.8	5.0	0	0	0.5	1.5	0	0	0	1.5	0	0	4.6	6.8
9	3	0	0	1.2	3.0	0	0	1.0	6.0	0	0	0.3	1.8	0	0	0.2	1.7	0	0	0.1	6.9
9	4	0	0	0.5	3.5	0	0	0.5	6.5	0	0	1.4	3.2	0	0	0	1.7	0	0	1.1	8.0
9	5	0	0	0.2	3.7	0	0	0.7	7.2	0	0	0.2	3.4	0	0	0	1.7	0	0	0.1	8.1
9	6	0	0	0.8	4.5	0	0	0.3	7.5	0	0	0.5	3.9	0	0	0	1.7	0	0	0.2	8.3
10	1											0.9	4.8								
10	2											0	4.8								
10	3											0	4.8								
10	4											0	4.8								
10	5											0.1	4.9								
10	6											0	4.9								

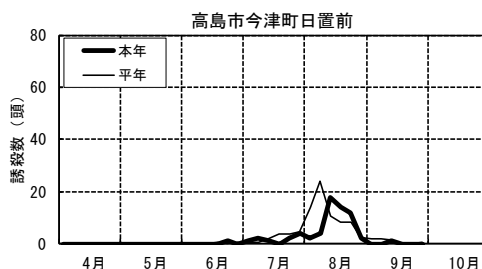
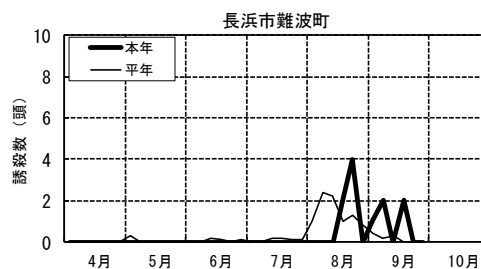
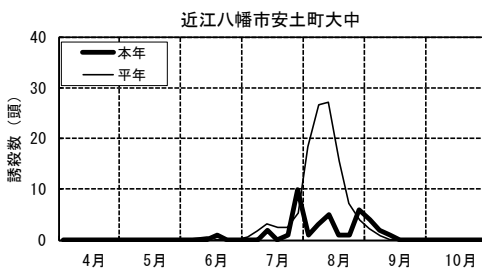
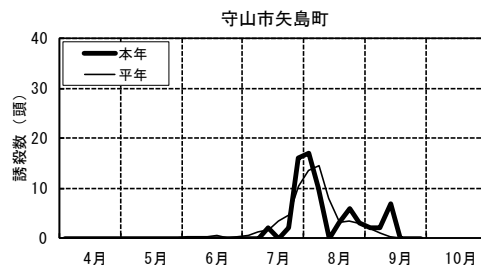
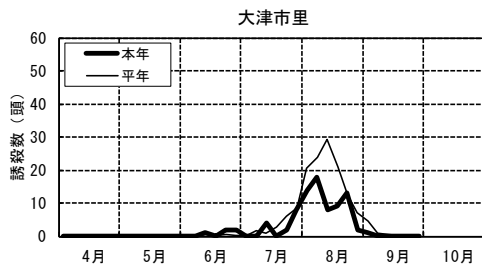


○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

フタオビコヤガ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0.1	0.1	0
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0
5	4	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0
5	5	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0
5	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.2
6	1	0	0	0	0.1	0	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2
6	2	0	0	0	0.1	0	0	0.4	0.7	0	0	0.4	0.7	0	0	0	0.3	0	0	0	0.2
6	3	1	1	0.7	0.8	0	0	0.2	0.9	0	0	0.7	1.4	0	0	0.2	0.5	0	0	0	0.2
6	4	0	1	0.1	0.9	0	0	0.5	1.4	1	1	0.2	1.6	0	0	0.1	0.6	0	0	0.7	0.9
6	5	2	3	0.4	1.3	0	0	0.0	1.4	0	1	0.1	1.7	0	0	0	0.6	1	1	0.2	1.1
6	6	2	5	0.2	1.5	0	0	0.4	1.8	0	1	0.1	1.8	0	0	0.1	0.7	0	1	0.4	1.5
7	1	0	5	0.2	1.8	0	0	0.5	2.3	0	1	0.7	2.5	0	0	0	0.7	1	2	0.7	2.2
7	2	0	5	1.7	3.4	0	0	1.3	3.6	0	1	1.7	4.2	0	0	0	0.7	2	4	0.5	2.7
7	3	4	9	1.1	4.5	2	2	1.7	5.3	2	3	3.3	7.5	0	0	0.2	0.9	1	5	2.1	4.8
7	4	0	9	2.9	7.4	0	2	3.4	8.7	0	3	2.6	10.1	0	0	0.2	1.1	0	5	3.7	8.5
7	5	2	11	6.0	13.4	2	4	4.5	13.2	1	4	2.4	12.5	0	0	0.1	1.2	2	7	3.6	12.1
7	6	8	19	8.7	22.1	16	20	10.4	23.6	10	14	5.3	17.8	0	0	0.1	1.3	4	11	4.5	16.6
8	1	14	33	20.8	42.9	17	37	13.5	37.1	1	15	18.4	36.2	0	0	1.0	2.3	2	13	13.8	30.4
8	2	18	51	23.8	66.7	10	47	14.4	51.5	3	18	26.7	62.9	0	0	2.4	4.7	4	17	24.0	54.4
8	3	8	59	29.3	96.0	0	47	7.9	59.4	5	23	27.1	90.0	0	0	2.2	6.9	18	35	10.6	65.0
8	4	9	68	20.9	116.9	3	50	3.2	62.6	1	24	15.6	105.6	2	2	1.0	7.9	14	49	8.2	73.2
8	5	13	81	12.8	129.7	6	56	3.5	66.1	1	25	7.2	112.8	4	6	1.3	9.2	12	61	8.4	81.6
8	6	2	83	7.0	136.7	3	59	3.0	69.1	6	31	3.9	116.7	0	6	0.8	10.0	2	63	2.3	83.9
9	1	1	84	4.4	141.1	2	61	2.0	71.1	4	35	2.3	119.0	1	7	0.4	10.4	0	63	1.7	85.6
9	2	0	84	0.8	141.9	2	63	1.1	72.2	2	37	0.8	119.8	2	9	0.2	10.6	0	63	1.8	87.4
9	3	0	84	0.7	142.5	7	70	0.3	72.5	1	38	0.2	120.0	0	9	0.3	10.9	1	64	1.2	88.6
9	4	0	84	0.1	142.7	0	70	0.1	72.6	0	38	0.1	120.1	2	11	0	10.9	0	64	0	88.6
9	5	0	84	0.2	142.9	0	70	0	72.6	0	38	0	120.1	0	11	0	10.9	0	64	0.1	88.7
9	6	0	84	0	142.9	0	70	0.1	72.7	0	38	0	120.1	0	11	0	10.9	0	64	0.3	89.0
10	1									0	38	0	120.1								
10	2									0	38	0	120.1								
10	3									0	38	0	120.1								
10	4									0	38	0	120.1								
10	5									0	38	0	120.1								
10	6									0	38	0	120.1								

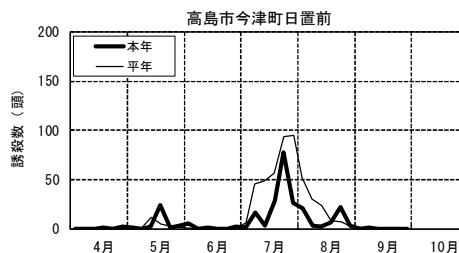
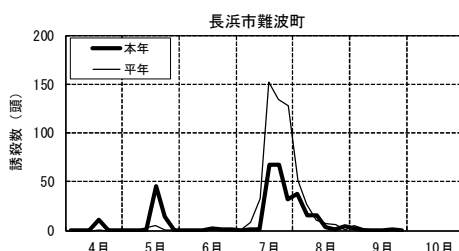
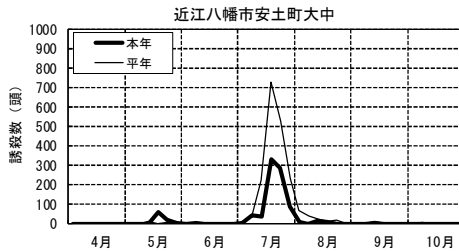
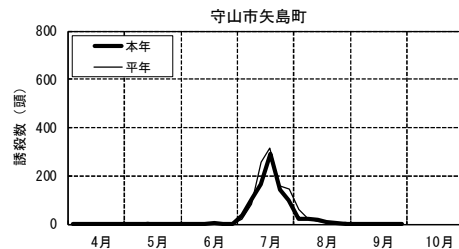
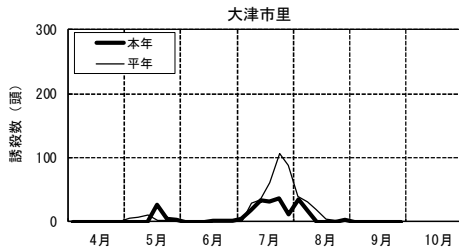


○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

イネミズソウムシ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0.2	0.2	0	0	0.1	0.1	0	0	0.5	11	11	0.1	0.1	1	1	0.2	0.3	0
4	5	0	0	0.1	0.3	0	0	0.1	0.2	0	0	0.5	11	11	0	0.1	0	1	0.2	0.6	0
4	6	0	0	1.5	1.8	0	0	0.1	0.3	0	0.5	1.0	0	11	0.2	0.3	2	3	0.3	0.9	0
5	1	0	0	5.4	7.2	0	0	0	0.3	0	2.5	3.5	0	11	1.1	1.4	1	4	0.2	1.1	0
5	2	0	0	7.6	14.8	0	0	0.1	0.4	0	0.5	4.0	0	11	0.3	1.7	0	4	0.3	1.4	0
5	3	0	0	10.3	25.1	0	0	5.0	5.4	0	14.4	18.4	0	11	2.3	4.0	2	6	12.1	13.6	0
5	4	27	27	2.2	27.3	0	0	0.6	6.0	63	63	4.7	23.1	45	56	4.5	8.5	24	30	5.1	18.7
5	5	32	32	1.9	29.2	0	0	0.2	6.2	23	86	7.3	30.4	14	70	0.3	8.8	1	31	3.1	21.8
5	6	3	35	0.9	30.1	0	0	0	6.2	3	89	4.8	35.2	0	70	0.8	9.6	3	34	1.7	23.4
6	1	0	35	0.7	30.8	0	0	0	6.2	1	90	2.9	38.1	0	70	0.5	10.1	6	40	0.6	24.0
6	2	0	35	0.4	31.2	0	0	0.2	6.4	3	93	0.2	38.3	0	70	0.6	10.7	0	40	1.0	25.0
6	3	0	35	0.2	31.5	1	1	0	6.4	1	94	1.1	39.4	0	70	0.1	10.8	1	41	1.0	26.0
6	4	1	36	0.3	31.8	3	4	0.1	6.5	0	94	0.2	39.6	2	72	0	11.0	0	41	0.8	26.8
6	5	1	37	0.3	32.1	1	5	0	6.5	1	95	0.6	40.2	1	73	0.2	11.2	0	41	0.7	27.5
6	6	2	39	0.3	32.5	1	6	0.3	6.8	0	95	0.8	41.0	1	74	0.7	11.9	2	43	0.9	28.4
7	1	5	44	1.0	33.5	35	41	20.8	27.6	6	101	2.9	43.9	0	74	0.6	12.5	1	44	6.0	34.4
7	2	18	62	28.6	62.0	108	149	83.6	111.2	43	144	53.8	97.7	1	75	8.0	20.5	17	61	45.9	80.3
7	3	33	95	33.7	95.7	165	314	257.7	368.9	41	185	222.0	319.7	1	76	32.9	53.4	3	64	49.0	129.3
7	4	32	127	61.7	157.4	289	603	315.0	683.9	330	515	729.4	1049.1	67	143	151.9	205.3	29	93	56.7	186.0
7	5	37	164	107.0	264.4	141	744	160.5	844.4	287	802	531.2	1580.3	68	211	134.7	340.0	78	171	93.6	279.6
7	6	11	175	87.7	352.0	99	843	143.7	988.1	91	893	237.0	1817.3	32	243	128.3	468.3	27	198	95.5	375.1
8	1	36	211	39.8	391.8	23	866	62.4	1050.5	9	902	69.0	1886.3	38	281	51.9	520.2	21	219	51.8	426.9
8	2	18	229	30.8	422.6	21	887	24.5	1075.0	1	903	40.0	1926.3	15	296	26.6	546.8	3	222	30.0	456.9
8	3	0	229	18.6	441.1	18	905	11.9	1086.9	19	922	24.9	1951.2	16	312	10.8	557.6	2	224	24.1	481.0
8	4	0	229	3.9	445.0	9	914	7.9	1094.8	8	930	14.7	1965.9	3	315	7.7	565.3	7	231	8.5	489.5
8	5	0	229	2.4	447.5	3	917	4.5	1099.3	1	931	17.8	1983.7	1	316	6.3	571.6	22	253	6.9	496.4
8	6	3	232	0.9	448.4	1	918	5.4	1104.7	2	933	4.0	1987.7	5	321	1.1	572.7	3	256	3.4	499.8
9	1	0	232	0.7	449.0	0	918	1.0	1105.7	0	933	2.8	1990.5	2	323	4.7	577.4	0	256	2.0	501.8
9	2	0	232	0.1	449.1	0	918	0.5	1106.2	0	933	2.0	1992.5	0	323	1.7	579.1	1	257	0.9	502.7
9	3	0	232	0.8	449.9	1	919	0.2	1106.4	3	936	13.3	2005.8	0	323	0.7	579.8	0	257	0.5	503.2
9	4	0	232	0	449.9	0	919	1.0	1107.4	0	936	0.9	2006.7	0	323	0.6	580.4	0	257	0.5	503.7
9	5	0	232	0.3	450.2	0	919	0.6	1108.0	0	936	0.8	2007.5	1	324	1.0	581.4	0	257	0.4	504.1
9	6	0	232	0.4	450.7	0	919	0.2	1108.2	0	936	1.1	2008.6	0	324	1.0	582.4	0	257	0.6	504.7
10	1									0	936	0.1	2008.7								
10	2									0	936	7.2	2015.9								
10	3									0	936	0	2015.9								
10	4									0	936	0	2015.9								
10	5									0	936	0.5	2016.4								
10	6									0	936	0	2016.4								



○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

(ウ) フェロモントラップによる調査

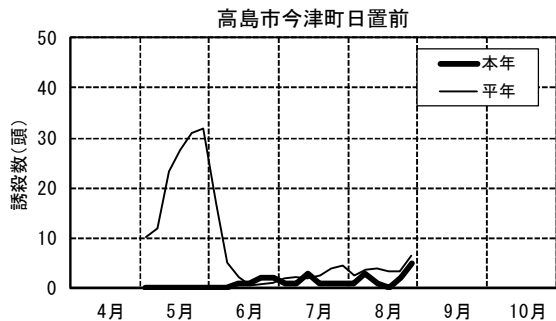
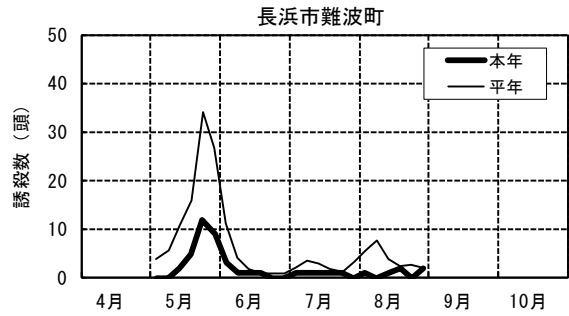
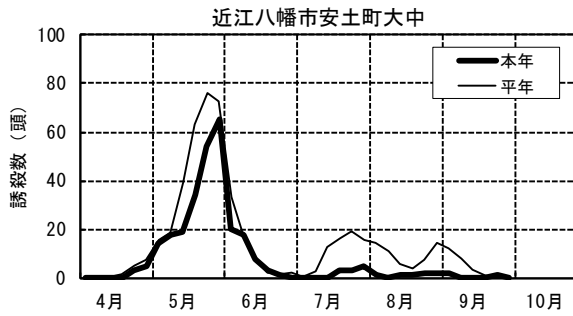
ニカメイガ半旬別誘殺数 (フェロモントラップ)

月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
	2	0	0	0.1	0.2								
	3	0	0	0.3	0.5								
	4	0	0	1.8	2.3								
	5	3	3	5.1	7.4								
	6	5	8	7.4	14.8								
5	1	14	22	15.6	30.4	0	0	3.8	3.8	0	0	10.1	10.1
	2	18	40	18.4	48.8	0	0	5.7	9.4	0	0	12.0	22.1
	3	19	59	39.2	88.0	2	2	10.9	20.3	0	0	23.2	45.3
	4	34	93	63.2	151.2	5	7	15.9	36.2	0	0	27.6	72.9
	5	54	147	75.9	227.1	12	19	34.1	70.3	0	0	31.0	103.9
	6	65	212	72.5	299.6	9	28	26.9	97.2	0	0	32.0	135.9
6	1	20	232	33.3	332.9	3	31	11.2	108.4	0	0	17.1	153.0
	2	18	250	18.2	351.1	1	32	4.2	112.6	0	0	5.1	158.1
	3	8	258	7.7	358.8	1	33	1.8	114.4	1	1	2.3	160.4
	4	3	261	2.2	361.0	1	34	0.9	115.3	1	2	0.6	161.0
	5	1	262	1.6	362.6	0	34	0.8	116.1	2	4	0.9	161.9
	6	0	262	2.3	364.9	0	34	0.9	117.0	2	6	1.0	162.9
7	1	0	262	0.6	365.5	1	35	2.0	119.0	1	7	2.1	165.0
	2	0	0	2.9	2.9	1	1	3.6	3.6	1	1	2.2	2.2
	3	0	0	12.9	15.8	1	2	2.9	6.5	3	4	2.1	4.3
	4	3	3	16.3	32.1	1	3	1.9	8.4	1	5	2.6	6.9
	5	3	6	19.0	51.1	1	4	1.3	9.7	1	6	4.0	10.9
	6	5	11	15.5	66.6	0	4	3.4	13.1	1	7	4.5	15.4
8	1	1	12	14.2	80.8	1	5	5.7	18.8	1	8	2.6	18.0
	2	0	12	10.7	91.5	0	5	7.8	26.6	3	11	3.6	21.6
	3	1	1	5.5	97.0	1	1	3.8	30.4	1	1	4.1	25.7
	4	1	2	3.9	100.9	2	3	2.4	32.8	0	1	3.3	29.0
	5	2	4	7.5	108.4	0	3	2.6	35.4	2	3	3.5	32.5
	6	2	6	14.7	123.1	2	5	2.2	37.6	5	8	6.5	39.0
9	1	2	8	12.2	135.3								
	2	0	8	8.0	143.3								
	3	0	8	3.6	146.9								
	4	0	8	0.9	147.8								
	5	1	9	0.5	148.3								
	6	0	9	0.2	148.5								

越冬世代

第1世代

第2世代



・表中の累積誘殺頭数は、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～8月第2半旬を第1世代、8月第3半旬～調査終了時を第2世代として積算している。

・平年値はH27～R6の10年間の平均値。

エ 一般ほ場における調査

(ア) すくい取りおよび払い落とし調査

a ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ (越冬量調査)

(頭)

調査地点名	害虫名	ツマグロヨコバイ			ヒメトビウンカ		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
	月日	3/25~4/2					
大津市	関津	0	0	0	0	0	0
	和邇今宿	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	0	4	4	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	0	0	0	0	0	0
	信楽町宮町	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	3	3	0	0	0
	安土町大中	0	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	0	0	0	0	3	3
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	3	3
	石谷町	0	0	0	0	0	0
	川合町	0	0	0	0	1	1
	五個荘平阪町	0	1	1	1	5	6
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	0	5	5	0	0	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	1	1	0	0	0
甲良町	法養寺	0	2	2	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0
米原市	入江	0	1	1	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0
	本市場	0	0	0	0	2	2
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	1	1	0	0	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	2	2
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	8	8
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0

すくい取り：1地点 50回振 虫数

b セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

(頭)

調査地点名	害虫名 調査方法 調査月日	セジロウンカ			トビイロウンカ			ヒメトビウンカ		ツマグロヨコバイ		フタオビコヤガ
		すくい取り		払落	すくい取り		払落	すくい取り		すくい取り		払落
		7/9~10	8/4~5	8/4~5	7/9~10	8/4~5	8/4~5	7/9~10	8/4~5	7/9~10	8/4~5	6/25~27
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	5	68	2	2	0
	和邇今宿	0	0	0	0	0	0	0	48	0	48	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	5	142	1	520	0
守山市	赤野井町	1	0	0	0	0	0	20	61	0	0	0
栗東市	上砥山	7	3	0	0	0	0	14	93	2	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	2	19	0	1	0
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0	41	90	0	0	0
甲賀市	水口町山	4	0	0	0	0	0	18	34	0	0	0
	甲賀町滝	0	3	0	0	0	0	56	54	0	0	0
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	4	35	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	0	58	0	18	0
	安土町大中	3	5	0	0	0	0	2	130	4	56	0
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	0	1	158	13	598	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	5	209	1	2	0
東近江市	林田町	2	5	2	0	0	0	22	2133	0	2	0
	川合町	1	0	0	0	0	0	0	180	0	0	0
	石谷町	0	0	0	0	0	0	8	38	0	1	0
	五個荘平阪町	0	0	2	0	0	0	5	159	0	134	0
	栗見新田町	4	0	3	0	0	0	24	8	0	2	0
	鯉江町	1	2	0	0	0	0	7	110	0	2	0
彦根市	新海町	2	0	0	0	0	0	2	13	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	15	125	0	2	0
甲良町	法養寺	0	0	2	0	0	0	1	53	0	0	0
多賀町	土田	1	0	0	0	0	0	5	51	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	1	86	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	22	0	1	0
	箕浦	0	0	0	0	0	0	3	247	0	1	0
長浜市	永久寺町	1	1	0	0	0	0	0	68	0	13	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	4	112	0	44	0
	早崎町	1	12	0	0	0	0	0	566	0	9	0
	高月町柳野中	0	18	0	0	0	0	1	642	0	121	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	1	206	0	4	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	1	39	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	2	774	0	4	0
	安曇川町北船木	0	0	3	0	0	0	1	4	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

払い落とし：1地点 1筆5株 5筆25株 合計虫数（成幼合計）

c 斑点米カメムシ類（7月11日基準調査・本田）

(頭)

調査地点名		調査月日 調査場所	7/9～10							
			本田							
			ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	イネカメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソ ミドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	0	0	
	和邇今宿	0	0	0	0	0	0	0	0	
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	0	0	
守山市	赤野井町	0	0	2	0	0	0	0	2	
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	1	0	1	
野洲市	上屋	2	0	0	0	0	0	0	2	
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0	0	0	
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	
	甲賀町滝	2	7	0	0	0	0	0	10	
	信楽町黄瀬	0	1	0	0	0	0	0	1	
近江八幡市	野村町	0	0	1	0	3	1	0	6	
	安土町大中	0	0	1	0	0	0	9	10	
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	0	2	2	
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	0	0	
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	0	3	
	川合町	1	0	1	0	0	0	0	2	
	石谷町	0	0	0	0	0	0	0	0	
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	7	4	11	
	栗見新田町	1	0	0	0	0	0	0	1	
	鯉江町	1	0	0	0	0	0	0	1	
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0	0	
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	0	0	
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0	1	
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	1	
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0	2	
	入江	0	2	0	0	0	0	0	2	
	箕浦	0	0	0	0	0	0	0	0	
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	
	湯次町	0	0	0	0	0	1	0	1	
	早崎町	0	0	0	0	0	0	0	1	
	高月町柳野中	0	1	0	0	0	0	0	1	
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	0	
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	0	
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	
	新旭町北畑	1	0	0	0	0	0	0	2	

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

d 斑点米カメムシ類（7月11日基準調査・畦畔）

(頭)

調査地点名	調査月日 調査場所	7/9~10							
		畦畔							
		ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	イネカメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソ ミドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
大津市	関津	1	0	1	0	0	3	3	3
	和邇今宿	3	0	3	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	8	0	0	0	3	545	26	12
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	42	114	3
栗東市	上砥山	2	0	0	0	0	1	1	4
野洲市	上屋	1	0	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	16	96	12	0	0	702	13	12
甲賀市	水口町山	1	9	0	0	0	24	9	22
	甲賀町滝	2	0	0	0	0	4	0	2
	信楽町黄瀬	5	15	0	0	0	4	0	1
近江八幡市	野村町	64	0	4	0	2	156	22	11
	安土町大中	0	0	0	0	0	1	0	0
日野町	十禅師	0	0	1	0	0	0	0	0
竜王町	小口	3	0	0	0	8	248	15	10
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	0	0
	川合町	25	0	1	0	0	126	9	4
	石谷町	0	0	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	9	0	0	0	0	20	10	7
	栗見新田町	1	0	0	0	0	0	9	4
	鯉江町	9	0	0	0	0	50	12	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	4	0	0	0	0	54	6	0
甲良町	法養寺	3	0	2	0	0	776	56	11
多賀町	土田	4	4	3	0	0	51	8	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	17	8	11
	入江	0	1	1	0	0	194	0	0
	箕浦	3	1	0	0	0	25	2	0
長浜市	永久寺町	3	0	0	0	0	0	0	2
	湯次町	3	0	0	0	4	123	0	2
	早崎町	3	0	1	0	0	6	2	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	6	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	1
高島市	マキノ町知内	9	0	0	0	0	79	7	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	2	1	0
	安曇川町北船木	1	0	0	0	0	135	6	3
	新旭町北畑	0	0	6	0	0	25	2	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

e 斑点米カメムシ類（糊熟期調査）

(頭)

調査地点名		調査月日	8/4～5							
		イネの生育ステージ	糊熟期							
		害虫名	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	イネカメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホソ ミドリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
大津市	関津	0	0	0	1	0	0	0	0	
	和邇今宿	0	0	0	0	0	7	0	0	
草津市	下笠町	1	0	2	2	6	2	0	0	
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	
野洲市	上屋	5	0	2	0	1	0	0	0	
湖南市	岩根	3	0	0	0	0	0	0	0	
甲賀市	水口町山	0	8	1	0	8	47	2	5	
	甲賀町滝	1	1	2	1	1	1	0	2	
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	0	0	
近江八幡市	野村町	2	0	0	1	8	0	0	0	
	安土町大中	0	0	0	0	0	0	0	0	
日野町	十禅師	0	0	0	0	0	1	0	0	
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	0	0	
東近江市	林田町	2	1	1	0	11	0	0	2	
	川合町	1	0	0	2	0	4	0	0	
	石谷町	0	0	0	0	0	0	0	0	
	五個荘平阪町	1	0	0	0	0	14	0	1	
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鯉江町	2	0	2	0	1	0	0	1	
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0	0	
愛荘町	東円堂	1	0	0	3	1	0	0	1	
甲良町	法養寺	0	0	0	10	1	17	0	1	
多賀町	土田	1	0	0	0	0	2	0	0	
米原市	本市場	0	0	1	0	0	2	0	1	
	入江	0	1	0	0	0	4	0	0	
	箕浦	0	0	1	0	0	4	0	1	
長浜市	永久寺町	1	0	2	1	0	5	0	0	
	湯次町	0	0	0	0	0	0	0	0	
	早崎町	0	1	0	0	0	0	0	0	
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	9	0	1	
	余呉町坂口	0	3	0	0	0	33	0	0	
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	1	
	今津町上弘部	5	4	0	1	0	7	0	0	
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	0	

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

f コバネイナゴ、クサキリ、ササキリ

(頭)

調査地点名	調査月日 調査場所 害虫名	7/9~10						8/5~6
		本田			畦畔			本田
		コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ
大津市	関津	1	0	0	1	0	0	0
	和邇今宿	0	0	0	2	2	0	0
草津市	下笠町	4	0	2	1	0	1	5
守山市	赤野井町	4	0	2	0	0	1	0
栗東市	上砥山	0	0	1	0	3	0	0
野洲市	上屋	4	0	1	0	0	1	2
湖南市	岩根	0	0	1	0	0	3	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	3
	甲賀町滝	19	0	5	4	0	0	0
	信楽町黄瀬	5	0	5	1	0	0	6
近江八幡市	野村町	4	0	4	0	0	8	0
	安土町大中	2	0	2	0	0	0	0
日野町	十禅師	28	0	28	3	0	5	11
竜王町	小口	1	0	1	0	0	0	0
東近江市	林田町	3	0	3	0	0	0	1
	川合町	3	0	3	1	0	14	0
	石谷町	6	0	6	15	1	1	5
	五個荘平阪町	17	0	17	6	0	7	8
	栗見新田町	0	0	2	0	0	0	0
	鯉江町	8	0	0	1	2	0	7
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	1	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0
	入江	1	0	1	0	0	0	0
	箕浦	1	0	1	3	1	0	0
長浜市	永久寺町	3	0	3	5	0	3	0
	湯次町	2	0	2	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	1	0	0	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	2	0	2	4	0	0	2
	マキノ町知内	1	0	1	0	0	0	4
高島市	今津町上弘部	1	0	1	0	0	1	0
	安曇川町北船木	1	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	1	0	1	0	0	1	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

(イ) 発生量調査

a 地点別調査結果

病害虫名 調査地点名		葉いもち		穂いもち		紋 枯 病		もみ枯細菌病		白葉枯病	
		発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病穂率	発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平 均 発病度
大 津 市	関 津	20	0.2	0	0	60	5.6	20	0.8	0	0
	和 邇 今 宿	0	0	20	0.03	40	0.8	0	0	0	0
草 津 市	下 笠 町	100	5.0	40	0.08	40	0.8	0	0	0	0
守 山 市	赤 野 井 町	100	25.2	40	0.11	40	1.4	0	0	0	0
栗 東 市	上 砥 山	100	9.4	40	0.24	100	18.0	0	0	0	0
野 洲 市	上 屋	80	1.6	40	0.31	60	5.4	0	0	0	0
湖 南 市	岩 根	40	0.6	20	0.13	100	16.4	0	0	0	0
甲 賀 市	水 口 町 山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲 賀 町 滝	80	5.0	40	0.31	100	7.8	0	0	0	0
	信 楽 町 黄 瀬	0	0	0	0	80	5.6	0	0	0	0
近 江 八 幡 市	野 村 町	0	0	40	0.24	40	1.4	0	0	0	0
	安 土 町 大 中	40	0.4	0	0	20	2.5	0	0	0	0
日 野 町	十 禅 師	20	0.2	0	0	20	3.0	0	0	0	0
竜 王 町	小 口	60	5.8	60	0.23	80	30.6	0	0	0	0
東 近 江 市	林 田 町	0	0	20	0.07	80	6.8	0	0	0	0
	川 合 町	0	0	20	0.02	100	9.4	0	0	0	0
	石 谷 町	0	0	0	0	40	1.2	0	0	0	0
	五 個 荘 平 阪 町	0	0	20	0.10	100	5.0	0	0	0	0
	栗 見 新 田 町	40	0.4	60	0.48	80	9.0	0	0	0	0
	鯉 江 町	100	4.0	100	0.31	20	0.6	0	0	0	0
彦 根 市	新 海 町	0	0	20	0.04	40	1.4	0	0	0	0
愛 荘 町	東 円 堂	0	0	0	0	20	0.8	0	0	0	0
甲 良 町	法 養 寺	0	0	40	0.10	20	2.8	0	0	0	0
多 賀 町	土 田	0	0	0	0	40	2.6	0	0	0	0
米 原 市	本 市 場	20	0.2	0	0	20	0.4	0	0	0	0
	入 江	0	0	0	0	20	0.2	0	0	0	0
	箕 浦	0	0	0	0	20	0.2	0	0	0	0
長 浜 市	永 久 寺 町	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯 次 町	0	0	0	0	40	0.4	0	0	0	0
	早 崎 町	20	0.2	20	0.03	60	1.8	0	0	0	0
	高 月 町 柳 野 中	20	0.2	0	0	60	1.0	0	0	0	0
	余 呉 町 坂 口	0	0	0	0	100	1.4	0	0	0	0
高 島 市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	20	0.15	20	0.2	0	0	0	0
	安曇川町北船木	40	0.4	20	0.13	60	2.0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	20	0.04	20	4.2	0	0	0	0

1 地点 5 筆調査。発生ほ場率 (%) は、5 筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1 筆あたり25株の発病度を調査し、5 筆の平均を算出したもの。

平均発病穂 (株) 率 (%) は、1 筆あたり25株を調査して発病穂 (株) 率を求め、5 筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準 (令和5年農林水産省消費・安全局植物防疫課) に従った。

## 地点別調査結果（つづき）

調査地点名	病害虫名	ごま葉枯病		稲こうじ病		ばか苗病		黄萎病（立毛中）		黄萎病（再生芽）	
		発生ほ場率	平均発病度	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率
大津市	関津	80	10.2	0	0	0	0	0	0	0	0
	和邇今宿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	60	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	20	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	60	17.2	0	0	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	100	12.2	0	0	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	80	16.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	100	26.4	0	0	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	40	4.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	100	9.4	0	0	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	80	16.2	0	0	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	40	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
	川合町	40	2.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	石谷町	100	13.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	60	2.8	60	1.2	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	40	2.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	100	15.4	0	0	0	0	0	0	0	0
彦根市	新海町	100	7.4	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	40	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	箕浦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	20	0.4	20	1.6	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1 地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中对象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1筆あたり25株の発病度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

平均発病株率（％）は、1筆あたり稲こうじ病で50株、ばか苗病で100株、黄萎病（立毛中）で25株、黄萎病（再生芽）で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（令和5年農林水産省消費・安全局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名	病害虫名	縞葉枯病(立毛中)		縞葉枯病(再生芽)		イネミズゾウムシ		イネドロオイムシ	
		発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均被害度	発生ほ場率	平均被害度
大津市	関津	40	0.8	100	3.9	100	15.2	0	0
	和邇今宿	0	0	60	0.7	100	17.2	0	0
草津市	下笠町	0	0	100	13.8	80	12.6	0	0
守山市	赤野井町	20	0.2	100	9.5	100	1.6	0	0
栗東市	上砥山	0	0	100	12.7	100	17.4	60	1.4
野洲市	上屋	0	0	80	11.1	100	2.2	0	0
湖南市	岩根	100	4.6	100	28.7	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	20	0.2	100	9.3	100	14.6	100	3.8
	甲賀町滝	40	0.8	100	1.3	100	54.0	100	5.2
	信楽町黄瀬	0	0	100	8.2	100	24.2	100	8.2
近江八幡市	野村町	0	0	80	1.8	100	13.6	0	0
	安土町大中	20	0.8	100	1.4	40	6.0	0	0
日野町	十禅師	0	0	40	0.2	60	11.6	0	0
竜王町	小口	80	4.0	100	31.2	60	2.4	0	0
東近江市	林田町	0	0	100	2.5	100	16.2	0	0
	川合町	0	0	100	4.1	100	2.2	0	0
	石谷町	0	0	80	0.7	100	3.8	0	0
	五個荘平阪町	0	0	100	1.0	60	10.6	0	0
	栗見新田町	60	2.4	80	1.2	100	9.6	0	0
	鯉江町	0	0	100	3.8	100	13.4	20	0.2
彦根市	新海町	0	0	80	1.7	20	0.2	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	60	0.7	100	20.2	0	0
甲良町	法養寺	0	0	80	0.3	60	1.8	0	0
多賀町	土田	0	0	100	1.4	100	12.8	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	60	0.8	0	0
	入江	0	0	0	0	60	0.6	0	0
	箕浦	0	0	40	0.1	100	19.4	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	80	4.6	0	0
	早崎町	0	0	60	0.3	80	5.8	0	0
	高月町柳野中	0	0	100	1.0	100	5.0	0	0
	余呉町坂口	0	0	20	0.1	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	80	0.3	100	11.2	0	0
	今津町上弘部	0	0	80	0.5	100	15.0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	100	1.7	40	2.6	0	0
	新旭町北畑	0	0	100	0.4	100	7.8	0	0

1 地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象病害虫が発生した筆数より算出。

平均発病株率(%)は、1筆あたり縞葉枯病(立毛中)で25株、縞葉枯病(再生芽)で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

平均被害度は、1筆あたり25株の被害度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準(令和5年農林水産省消費・安全局植物防疫課)に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		ニカメイガ(I)		ニカメイガ(II)		イチモンジセセリ	コブノメイガ		イネクロカメムシ
		発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率		
大津市	関津	100	9.6	40	1.6	0	20	0.8	0		
	和邇今宿	0	0	40	1.6	20	0	0	0		
草津市	下笠町	100	8.0	80	3.2	20	0	0	0		
守山市	赤野井町	100	16.0	80	4.0	20	0	0	0		
栗東市	上砥山	0	0	40	2.4	20	0	0	0		
野洲市	上屋	60	4.0	60	2.4	0	0	0	0		
湖南市	岩根	20	0.8	60	2.4	20	0	0	0		
甲賀市	水口町山	0	0	20	0.8	0	0	0	0		
	甲賀町滝	20	0.8	60	2.4	0	0	0	0		
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0	0	0		
近江八幡市	野村町	60	12.0	80	4.8	20	0	0	0		
	安土町大中	80	3.2	20	2.0	0	0	0	0		
日野町	十禅師	0	0	40	1.6	20	0	0	0		
竜王町	小口	20	0.8	40	1.6	0	0	0	0		
東近江市	林田町	80	3.2	20	0.8	0	0	0	0		
	川合町	80	3.2	80	3.2	40	0	0	0		
	石谷町	0	0	60	2.4	0	0	0	0		
	五個荘平阪町	0	0	100	4.0	0	0	0	0		
	栗見新田町	80	3.2	100	4.0	0	0	0	0		
	鯉江町	80	3.2	80	3.2	0	0	0	0		
彦根市	新海町	0	0	60	2.4	0	0	0	0		
愛荘町	東円堂	100	4.0	20	1.6	0	0	0	0		
甲良町	法養寺	0	0	80	3.2	0	0	0	0		
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	0		
米原市	本市場	20	0.8	40	1.6	0	0	0	0		
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0		
	箕浦	0	0	0	0	0	0	0	0		
長浜市	永久寺町	20	0.8	40	1.6	0	0	0	0		
	湯次町	0	0	20	0.8	0	0	0	0		
	早崎町	20	0.8	20	0.8	0	0	0	0		
	高月町柳野中	20	0.8	20	0.8	0	0	0	0		
	余呉町坂口	0	0	40	1.6	0	0	0	0		
高島市	マキノ町知内	0	0	20	0.8	20	0	0	0		
	今津町上弘部	0	0	80	3.2	0	0	0	0		
	安曇川町北船木	0	0	80	4.0	40	0	0	0		
	新旭町北畑	20	0.8	40	1.6	0	0	0	0		

1地点5筆調査。発生ほ場率(%)は、5筆中に対象害虫が発生した筆数より算出。

平均被害株率(%)は、1筆あたり25株を調査して被害株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

b 地域別集計表

病虫害名	葉いもち (7月20日基準)				穂いもち (9月11日基準)				紋枯病 (9月11日基準)						
	発病度		ほ場率(%)		発病穂率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)				
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平
大津南部	6.9	1.7	66.7	37.0	0.1	0.5	30.0	58.8	5.3	8.3	56.7	84.6			
甲賀	1.4	1.1	30.0	28.9	0.1	0.7	25.0	67.5	7.5	6.6	70.0	82.4			
東近江	1.1	1.8	26.0	28.2	0.1	0.7	32.0	60.4	7.0	11.3	58.0	85.8			
湖東	0	0.7	0	16.4	0.0	0.1	15.0	43.0	1.9	10.0	30.0	85.4			
湖北	0.1	0.4	10.0	14.4	0.0	0.3	2.5	46.5	0.7	7.0	40.0	74.1			
高島	0.1	0.6	10.0	36.5	0.1	0.5	15.0	64.5	1.6	4.8	25.0	76.0			
全県	1.6	1.1	25.0	26.3	0.1	0.5	20.6	56.4	4.2	8.4	48.3	81.5			

病虫害名	もみ枯細菌病 (9月11日基準)				白葉枯病 (9月11日基準)				ごま葉枯病 (9月11日基準)						
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)				
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平
大津南部	0.1	—	3.3	—	0	0.0	0	2.4	5.2	0.4	36.7	7.5			
甲賀	0	—	0	—	0	1.2	0	5.8	13.9	0.6	70.0	13.8			
東近江	0	—	0	—	0	0.1	0	4.0	6.8	1.5	60.0	22.2			
湖東	0	—	0	—	0	0	0	0	2.0	0.2	35.0	4.0			
湖北	0	—	0	—	0	0.0	0	0.5	0.1	0.1	2.5	1.7			
高島	0	—	0	—	0	0	0	0	0	0.1	0	0.5			
全県	0.0	—	0.6	—	0	0.0	0	2.2	4.5	0.6	35.0	9.8			

病虫害名	稲こうじ病 (9月11日基準)				ばか苗病 (6月16日基準)				黄萎病 (立毛中) (9月11日基準)						
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)				
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平
大津南部	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0			
甲賀	0	0.1	0	3.4	0	—	0	—	0	0	0	0			
東近江	0.1	0.4	6.0	6.0	0	—	0	—	0	0	0	0			
湖東	0	0	0	0	0	—	0	—	0	0	0	0			
湖北	0.2	0.1	2.5	2.4	0	—	0	—	0	0	0	0			
高島	0	0.0	0	1.0	0	—	0	—	0	0	0	0			
全県	0.1	0.1	2.2	2.7	0	—	0	—	0	0	0	0			

病虫害名	黄萎病 (再生芽) (10月1日基準)				縞葉枯病 (立毛中) (8月16日基準)				縞葉枯病 (再生芽) (10月1日基準)						
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)				
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平
大津南部	0	0	0	0	0.2	—	10.0	—	8.6	5.2	90.0	83.9			
甲賀	0	0.0	0	1.2	1.4	—	40.0	—	11.9	4.7	100.0	78.9			
東近江	0	0.0	0	0.4	0.7	—	16.0	—	4.8	6.5	88.0	79.8			
湖東	0	0	0	0	0	—	0	—	1.0	5.8	80.0	86.7			
湖北	0	0.0	0	0.9	0	—	0	—	0.2	0.6	27.5	57.5			
高島	0	0.0	0	0.5	0	—	0	—	0.7	0.3	90.0	40.0			
全県	0	0.0	0	0.5	0.4	—	10.6	—	4.3	4.0	75.6	71.9			

病虫害名	イネミズゾウムシ (5月25日基準)				イネドロオイムシ (7月1日基準)				ニカメイガ第1世代 (7月11日基準)						
	被害度		ほ場率(%)		被害度		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)				
	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平	年	本	年	平
大津南部	11.0	8.8	96.7	81.9	0.2	0.4	10.0	21.3	6.3	6.8	60.0	79.2			
甲賀	23.2	5.2	75.0	67.1	4.3	1.4	75.0	53.4	0.4	2.7	10.0	54.8			
東近江	8.9	8.2	82.0	70.2	0.0	0.1	2.0	3.4	2.9	5.5	48.0	68.4			
湖東	8.8	5.5	70.0	80.5	0	0.0	0	0.9	1.0	5.6	25.0	66.9			
湖北	4.5	7.8	72.5	66.1	0	0.2	0	9.9	0.1	5.1	10.0	58.1			
高島	9.2	19.1	85.0	93.5	0	0.1	0	5.0	0.1	4.9	5.0	63.5			
全県	9.9	8.7	77.8	74.6	0.5	0.3	10.6	13.4	2.0	5.3	30.0	65.6			

病虫害名	ニカメイガ第2世代 (9月11日基準)				イチモンジセセリ (7月1日基準)		コブノメイガ (9月11日基準)				イネクロカメムシ (6月16日基準)		
	被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)		
	本	年	平	年	本	年	本	年	平	年	本	年	平
大津南部	2.5	2.7	56.7	50.9	13.3	7.2	0.1	0.6	3.3	14.2	0	1.2	
甲賀	1.4	1.6	35.0	41.3	5.0	10.6	0	0.5	0	12.5	0	0.5	
東近江	2.8	2.9	62.0	61.8	8.0	8.0	0	0.6	0	14.6	0	1.0	
湖東	1.8	2.6	40.0	59.3	0	6.4	0	0.8	0	20.4	0	0	
湖北	0.9	2.7	22.5	68.8	0	7.6	0	1.5	0	28.2	0	0.2	
高島	2.4	2.2	55.0	56.0	15.0	6.5	0	1.4	0	29.0	0	0	
全県	2.0	2.6	46.1	58.2	6.9	7.7	0.0	0.9	0.6	19.5	0	0.5	

発病度および被害度の算出は、発生子察事業の調査実施基準（令和5年農林水産省消費・安全局植物防疫課）に従った。  
もみ枯細菌病、ばか苗病、縞葉枯病（立毛中）は平成28年度から調査開始のため平年値なし。

c 精密調査ほ調査結果

調査地点名		害虫名	斑点米カメムシ類(頭)		斑点米被害率(%)				
			畦畔発生量	本田発生量	標準斑点米	黒触粒	尻黒粒	基部加害型	合計
		時期	7月9～10日	8月4～5日	収穫後				
大津市	関津		11	1	0.03	0.03	0.07	0.01	0.13
	和邇今宿		6	7	0.43	0.13	0.19	0	0.74
草津市	下笠町		594	13	0.53	0.24	0.23	0.10	1.09
守山市	赤野井町		159	0	0.06	0.04	0.25	0	0.35
栗東市	上砥山		8	0	0.03	0.17	0	0	0.20
野洲市	上屋		1	8	0.52	0.04	0	0.02	0.13
湖南市	岩根		851	3	0.19	0.36	0.05	0.01	0.61
甲賀市	水口町山		65	71	-	-	-	-	-
	甲賀町滝		8	9	1.73	0.29	0.41	0.18	2.62
	信楽町黄瀬		25	0	0.04	0.15	0.03	0.03	0.25
近江八幡市	野村町		259	11	0.07	0.11	0.09	0.01	0.32
	安土町大中		1	0	0.18	0.03	0.08	0.09	0.36
日野町	十禅師		1	1	0.18	0.16	0.18	0.02	0.50
竜王町	小口		284	0	0.15	0.08	0.03	0.02	0.37
東近江市	林田町		0	17	0.02	0.01	0.01	0.01	0.08
	川合町		165	7	0.05	0.07	0.10	0	0.14
	石谷町		0	0	0.35	0.10	0.07	0.19	0.75
	五個荘平阪町		46	16	0.05	0.03	0.03	0	0.16
	栗見新田町		14	0	0.01	0.03	0	0.03	0.08
鯉江町		71	6	0.04	0.05	0.01	0	0.09	
彦根市	新海町		0	0	0.04	0.16	0	0	0.21
愛荘町	東円堂		64	6	0.13	0.03	0.05	0	0.16
甲良町	法養寺		848	29	0.05	0.05	0.05	0	0.15
多賀町	士田		70	3	0.05	0.06	0.01	0.02	0.17
米原市	本市場		36	4	0.02	0.04	0.10	0	0.08
	入江		196	5	0.04	0	0.22	0	0.12
	箕浦		31	6	0.04	0.09	0	0	0.27
長浜市	永久寺町		5	9	0	0.05	0.11	0	0.05
	湯次町		132	0	0.02	0.07	0.02	0.02	0.14
	早崎町		12	1	0	0.04	0.12	0	0.06
	高月町柳野中		6	10	0.04	0.20	0	0.01	0.35
	余呉町坂口		1	36	0	0.24	0.36	0	0.24
高島市	マキノ町知内		95	1	0.01	0.01	0.01	0	0.07
	今津町上弘部		3	17	0.16	0.09	0.01	0	0.27
	安曇川町北船木		145	0	0.03	0.16	0.20	0	0.23
	新旭町北畑		33	0	0.23	0	0.18	0	0.34

カメムシ虫数の調査は捕虫網50回振り。

斑点米被害率は畦畔沿いにサンプリングした100穂の全粒から求めた値。なお各斑点米被害率の値は四捨五入をしているため、それらの合計が、合計欄の値と合致しない場合がある。

斑点米被害率の-はサンプルが得られず、調査しなかったことを示す。

d 水稲病害虫発生量調査地点配置図 (36か所)



## オ 初発見月日と初発見場所

病害名	初発見月日	初発見場所	害虫名	初発見月日	初発見場所
葉いもち(置苗)	5/26	野洲市上屋	ニカメイガ	6/11	近江八幡市野村町(L)
葉いもち	7/4	愛荘町東円堂		7/29	守山市赤野井町(L)
穂いもち	7/29	高島市今津町上弘部	セジロウンカ	7/9	守山市赤野井町ほか(A)
紋枯病	6/25	竜王町小口	トビイロウンカ	—	—
白葉枯病	9/11	米原市入江	ヒメトビウンカ	4/8	長浜市難波(A)
ばか苗病	6/11	湖南市菩提寺	ツマグロヨコバイ	6/4	大津市里(A)
もみ枯細菌病	9/9	大津市関津	イネドロオイムシ	5/23	甲賀市信楽町黄瀬ほか(A)
ごま葉枯病	7/9	草津市下笠町ほか	イネクロカメムシ	6/9	近江八幡市安土町上豊浦(A)
縹葉枯病	6/23	竜王町信濃	ホソハリカメムシ	6/5	守山市矢島(A)
黄萎病	—	—	クモヘリカメムシ	7/9	甲賀市信楽町黄瀬ほか(A,L)
稲こうじ病	9/8	東近江市五個荘平阪町	トゲシラホシカメムシ	7/9	守山市赤野井町ほか(A)
			アカスジカスミカメ	4/18	近江八幡市安土町大中(A)
			アカヒゲホソミドリカスミカメ	6/6	近江八幡市安土町大中(A)
			イネカメムシ	6/18	大津市里(A)
			イチモンジセセリ	5/23	甲賀市甲賀町滝(L)
			フタオビコヤガ	6/15	大津市里(A)
			コブノメイガ	7/9	竜王町小口(L)
			イネミズゾウムシ	4/18	長浜市難波(A)
			コバネイナゴ	5/19	野洲市上屋(L)
			スクミリンゴガイ	5/14	野洲市小南(卵)

注:「—」は発生が認められなかった。

注:初発見場所( )内 A:成虫、L:幼虫、卵:卵

注:「—」は発生が認められなかった。

## カ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					発生面積率(%)	被害面積率(%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
イネ	30,300	葉いもち	0	150	850	6500	7500	24.8	3.3	14000	14000
		穂いもち	0	0	0	6200	6200	20.5	0	7000	7000
		紋枯病	0	350	1150	13000	14500	47.9	5.0	3000	3000
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	6000	6000
		ばか苗病	0	0	0	0	0	0	0	9000	9000
		もみ枯細菌病	0	0	0	200	200	0.7	0	5000	5000
		ごま葉枯病	0	500	2350	7750	10600	35.0	9.4	4000	4000
		縹葉枯病	0	0	0	12000	12000	39.6	0	—	—
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	—	—
		稲こうじ病	0	0	200	500	700	2.3	0.7	1000	1000
		ニカメイガI	0	0	170	9100	9270	30.6	0.6	14000	14000
		ニカメイガII	0	0	0	14000	14000	46.2	0	4300	4300
		セジロウンカ	0	0	0	5900	5900	19.5	0	27100	27100
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0	0	0	27100	27100
		ヒメトビウンカ	0	800	2500	27000	30300	100.0	10.9	27100	27100
		ツマグロヨコバイ	0	0	1000	14200	15200	50.2	3.3	27100	27100
		イネドロオイムシ	0	0	0	3500	3500	11.6	0	13000	13000
イネクロカメムシ	0	0	0	100	100	0.3	0	260	260		
斑点米カメムシ類	10	1600	3300	12600	17510	57.8	16.2	27100	28100		
イチモンジセセリ	0	0	0	1500	1500	5.0	0	8380	8380		
フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0	0	13900	13900		
コブノメイガ	0	0	0	170	170	0.6	0	0	0		
イネミズゾウムシ	150	800	4900	17700	23550	77.7	19.3	16000	16000		
コバネイナゴ	0	0	2000	18000	20000	66.0	6.6	10700	10700		
スクミリンゴガイ	0	0	4	81	85	0.3	0.0	79	79		

注:ニカメイガI、IIは第1世代、第2世代を指す

注:被害面積率=(程度別発生面積の甚~中の和)/(栽培面積)×100

注:「—」は植物防疫事業にて報告を求められていないため、算出していない。

## (2) ムギ（令和6年秋播き）

### ア 生育概況

10月中下旬は降水量が概ね少なく推移し、ほ場準備や播種作業は順調に進んだ。11月上旬～中旬は気温が平年より高く、11月下旬～1月は概ね平年並で推移し、麦の初期生育は旺盛であった。その後、2月～3月中旬は寒気が南下し、気温は平年より低く、県北部を中心に積雪があり生育は停滞した。3月下旬～4月中旬は気温が平年より高く、生育の遅れは回復したものの小麦では、出穂期は平年に比べ4日遅く、成熟期は2日遅くなった。大麦では、成熟期が3日遅くなった。

近畿地方では平年より20日早い5月17日に梅雨入りとなり、6月上旬～中旬は降雨が多くなり、収穫作業が遅れるほ場も散見された。

### イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ムギ	さび病類	やや遅	少	コムギ、オオムギほ場での初発確認は5月7日と、発生時期はコムギでは遅く、オオムギでは平年並となった。発生量は少なかった。	コムギでは、さび病類の耐病性が強い品種の作付面積が拡大したことから、全県の発生量が少なかった。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	うどんこ病	やや遅	並	コムギほ場での初発確認は4月28日、オオムギほ場での初発確認は5月7日でコムギでは発生時期は平年並、オオムギでは発生時期は遅かった。また、発生量は平年並となった。	3月から4月は降水量が少なかったが、気温が高く、感染しやすい条件であったため感染は成立した。一方で、赤かび病防除の薬剤はうどんこ病への防除効果があるため、発生が抑制されていると考えられる。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	やや遅	並	コムギほ場での初発確認は5月7日、オオムギほ場での初発確認は5月14日でコムギでは発生時期は平年並、オオムギでは発生時期は遅かった。オオムギでは発生ほ場率が少なかったが、コムギでは平年並であった。	前年の発生量は多く、伝染源が多かったと考えられる。また、コムギの開花期ごろである4月中旬は降水量が少なかったが、4月下旬以降断続的に降雨があり、感染のタイミングが複数回あったと考えられる。さらに、新しく導入された品種の赤かび病抵抗性が弱く、全体の発生量は平年並となった。	コムギでは、開花期頃から1～2回の薬剤防除。抵抗性弱品種については、2～3回の薬剤防除。オオムギでは、開花期ごろから2回の薬剤防除。麦類の開花期が赤かび病の感染に好適な気象予報だったことから、4月21日に注意報を発表した。開花期に曇雨天が続いたほ場では、追加防除が実施された。
	黒節病	並	少	コムギほ場での初発確認は3月11日、オオムギほ場での初発確認は5月7日でコムギでは発生時期はやや早く、オオムギでは発生時期は遅かった。発生ほ場率は少なかった。	1月までは少雨傾向で順調に生育していたが、2月～3月中旬は気温が低く生育は遅れた。また、3月に降水量が少なく、風が強い日が多かったため、ほ場群落内においても湿度が低下し、発病が抑制されたことから、全県の発生量は少なかった。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。

## ウ 発生量調査

### (ア) オオムギ

病害虫名 調査地点名	小さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
守山市 矢島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
近江八幡市 長田町	0	0	0	0	0	0	40	0.4	0
竜王町 岡屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東近江市 建部北町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
米原市 新庄	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市 高月町柳野中	0	0	0	0	20	0.1	0	0	0
長浜市 湖北町山本	20	0.0	40	1.3	20	0.1	0	0	0
高島市 今津町下弘部	0	0	0	0	20	0.1	0	0	0
高島市 新旭町藁園	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全県平均	2.2	0.0	4.4	0.1	6.7	0.0	4.4	0.0	0

注：調査品種 近江八幡市長田町は「ニューサチホゴールデン」、守山市矢島町は「ダイシモチ」、  
その他の地点は「ファイバースノウ」

### (イ) コムギ

病害虫名 調査地点名	赤さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
大津市 関津	0	0	0	0	40	0.3	40	0.4	0
草津市 下笠町	0	0	0	0	80	0.7	40	0.4	0
守山市 赤野井町	0	0	0	0	100	1.5	20	0.2	0
栗東市 上砥山	0	0	20	0.0	100	0.7	0	0	0
野洲市 上屋	0	0	20	0.0	100	0.8	40	0.4	0
野洲市 比留田	0	0	0	0	40	0.3	40	2.2	0
湖南市 菩提寺	0	0	0	0	100	2.8	0	0	0
甲賀市 水口町酒人	0	0	0	0	100	0.8	0	0	0
甲賀市 甲南町杉谷	0	0	0	0	100	1.2	0	0	0
近江八幡市 野村町	0	0	0	0	60	0.4	0	0	0
近江八幡市 安土町上豊浦	0	0	0	0	40	0.3	0	0	0
近江八幡市 御所内町	0	0	0	0	80	0.7	0	0	0
近江八幡市 多賀町	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
近江八幡市 島町	0	0	0	0	100	3.5	0	0	0
日野町 十禅師	0	0	0	0	100	0.7	0	0	1
竜王町 小口	0	0	20	0.0	100	3.2	0	0	0
東近江市 横山町	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東近江市 上羽田町	0	0	0	0	40	0.3	0	0	0
東近江市 福堂町	0	0	0	0	100	1.5	0	0	0
東近江市 高木町	0	0	0	0	80	0.5	0	0	0
東近江市 長町	0	0	0	0	60	0.4	0	0	0
彦根市 甘呂町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彦根市 普光寺町	0	0	0	0	100	0.7	0	0	0
愛荘町 東円堂	0	0	0	0	60	0.4	0	0	0
甲良町 法養寺	0	0	0	0	20	0.1	0	0	0
多賀町 敏満寺	0	0	0	0	40	0.3	0	0	0
米原市 本市場	0	0	0	0	80	0.9	0	0	0
米原市 世継	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市 口分田町	0	0	0	0	20	0.1	0	0	0
長浜市 本庄町	0	0	0	0	80	0.8	0	0	0
全県平均	0	0	2.0	0.0	67.3	0.8	6.0	0.1	0.1

注：調査品種  
「びわほなみ」 大津市関津、草津市下笠町、守山市赤野井町、栗東市上砥山、野洲市上屋、湖南市菩提寺、  
甲賀市水口町酒人、甲南町杉谷、近江八幡市安土町上豊浦、御所内町、多賀町、島町、日野町十禅師、  
竜王町小口、東近江市上羽田町、福堂町、高木町、長町、米原市本市場、世継、長浜市口分田、本庄町  
「ふくさやか」 東近江市横山、愛荘町東円堂、甲良町法養寺、多賀町敏満寺、彦根市普光寺町、甘呂町  
「ミナミノカオリ」 野洲市比留田、近江八幡市野村町

## エ 初発見日と初発見場所

病害虫名	オオムギ		コムギ	
	初発見月日	初発見場所	初発見月日	初発見場所
さび病類	5/7	長浜市湖北町山本	5/7	高島市今津町上弘部
うどんこ病	5/14	長浜市湖北町山本	5/7	東近江市川合町
赤かび病	5/14	長浜市湖北町山本	5/7	湖南市菩提寺
黒節病	5/7	長浜市高月町柳野中	3/11	東近江市横山町
株腐病	5/14	高島市新旭町藁園	4/7	野洲市上屋ほか
縞萎縮病	—	—	3/10	野洲市比留田
アブラムシ類	3/10	竜王町岡屋	3/10	近江八幡市野村町
ハモグリバエ類	—	—	—	—
ムギダニ	—	—	—	—

注：「—」は発生を認めなかった。

## オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ムギ	8739	さび病類	0	0	0	40	40	0.5	0	1500	2000
		うどんこ病	0	0	0	220	220	2.5	0	1700	2400
		赤かび病	0	0	100	4710	4810	55.0	1.1	8490	20420
		黒節病	0	0	50	430	480	5.5	0.6	0	0

注：被害面積率＝（程度別発生面積の甚～中の和）／（栽培面積）×100

### (3) ばれいしょ

#### ア 発生状況

	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ばれいしょ	疫病	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月9日で、発生時期・発生量は平年並であった。	黄色水盤での誘殺数は平年並で推移した。5月の気温はやや高く、降水量は多く推移し、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	ニジュウヤホシテントウ類	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期・発生量は平年並であった。	昨年の発生量はやや少なかった。2月の気温は低かったが、3月から4月の気温がやや高かったため、発生量が増加した。	食害が顕著になった場合のみ防除されている。

#### イ 発生量

	病害虫名		疫病	アブラムシ類
			発病度	寄生度
	調査地点	6月16日	6月16日	
ばれいしょ	草津市	下笠町	0	5
	野洲市	小南	0	5
	湖南市	菩提寺	0	0
	近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
	彦根市	松原町	0	0
	甲良町	下之郷	0	0
	米原市	世継	0	0
	高島市今津町	深清水	0	0

#### ウ 初発見日と初発見場所

	病害虫名	初発見月日	初発見場所
ばれいしょ	疫病	-	-
	アブラムシ類	5月9日	野洲市小南
	ニジュウヤホシテントウ類	5月8日	米原市世継

#### エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ばれいしょ	30	疫病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	16.7	0	1	1
		ニジュウヤホシテントウ類	0	0	0	10	10	33.3	0	0	0

※被害面積率 = (程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) × 100

#### (4) ダイズ

##### ア 生育概況

6月前半は降雨が多く、前作小麦の収穫やほ場準備が遅れた。6月後半も断続的に降雨があり、雨の合間の播種となったが、6月27日の梅雨明けから8月上旬は一転して少雨傾向となり、播種作業は順調に進んだ。播種から乾燥した状態が続いたほ場では出芽が遅れたり揃いが悪くなった。

7月は高温少雨の干ばつ傾向の影響で生育が緩慢であった。8月10日前後にまとまった降雨があり一時的に解消されたが、8月後半は再び高温で降雨がほとんどなかったため干ばつ傾向となった。そのため過乾燥となったほ場では落花等の干ばつ害が発生した。

生育量が不十分なほ場や適期に除草剤散布や中耕培土ができなかったほ場では雑草が多発した。

病害虫は、8月下旬以降、ハスモンヨトウやタバコガ類等のチョウ目害虫およびミナミアオカメムシ等の吸実性カメムシ類の発生が多く見られた。

##### イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ダイズ	べと病	遅	やや少	ほ場での初発確認は8月19日と、発生時期は遅く、発生量はやや少なかった。	7月以降、気温が高く推移したことから、本病の発生に抑制的だった。	本病への薬剤防除は未実施。
	葉焼病	遅	少	ほ場での初発確認は8月19日と、発生時期は遅く、発生量は過去10年で最も少なかった。	強風雨を伴う台風の接近がなかったため、本病の感染があまり起きなかった。	本病への薬剤防除は未実施。
	ハスモンヨトウ	やや早	多	7月上旬のフェロモントラップへの飛来量は多く、ほ場での初発確認は7月31日とやや早かった。ほ場での発生量は8月中旬はやや多く、9月中旬以降に増加し多くなった。	梅雨明けが早く、6月下旬以降の降水量が少なく、高温で推移したため、発生量がやや多くなった。	8月下旬以降、1~2回の薬剤防除が実施されている。鱗翅目害虫の常発地では3~4回防除されることもある。ほ場での発生が多く、7月29日に防除情報、9月18日に注意報を发出した。
	タバコガ類	早	やや多	フェロモントラップへのオオタバコガの誘殺数は5月以降、タバコガは9月以降から多く推移した。ほ場でのタバコガ類の初発確認は7月18日と、発生時期は早く、発生量はやや多かった。	栽培期間を通して飛来量が多かった。播種時期の7月以降、9月まで高温が続く、本種の増殖に好適な条件となったと考えられる。	ハスモンヨトウと同時に防除されることが多い、誘殺数が5月時点で多く、露地野菜で早期から被害果も確認されたことから、7月14日にタバコガ類を対象とした注意報を发出した。
	フタスジヒメハムシ	やや早	やや少	ほ場での初発確認は6月20日と、発生時期はやや早かった。一部で中発生ほ場が確認されたが、全体の発生量はやや少なかった。	種子塗抹処理剤の利用が進んでおり、移植直後の発生は抑制されている。	種子塗抹処理剤により初期防除されている。近年、この剤の残効が切れてからの被害が一部地域で発生している。このため、多発ほ場では結実期にも一部防除が実施されている。
	カメムシ類	早	多	ほ場での初発確認は7月15日と、発生時期は早かった。9月の調査において、全体の発生量はやや多く、県中部~北部ではミナミアオカメムシが多く見られたほ場があり、一部ほ場での発生量は多かった。	9月の気温は高く、降水量が少なかつたため、活動や発生に好適な条件となった。また、個体数も多く、ほ場内で集中的に分布する傾向のあるミナミアオカメムシの発生地点が増加したことも、発生量が多くなった要因の一つである。	通常、開花期以降に薬剤散布により防除される。近年、ハスモンヨトウの発生量が多く、鱗翅目害虫に対する防除を実施した場合、カメムシの防除が省略される場合がある。
	アブラムシ類	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	黄色水盤での誘殺数は平年並で推移した。有翅虫が飛来する7月中旬の降水量が多かったことから、飛来と増殖が少なく抑えられた。	種子塗抹処理剤による初期防除が行われている。
	ハダニ類	遅	やや多	ほ場での初発確認は8月19日と遅かったが、8月中旬~9月にかけての発生量は多かった。	7月中と8月下旬以降の降水量が著しく少なく、さらに高温であったことから増殖に好適な条件となった。	甚発生した場合のみ防除が実施される。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。

## ウ 発生量調査

(8月21～22日調査、開花期)

病害虫名		べと病		葉焼病		カメムシ類	フタスジヒメハムシ	ハダニ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	発生ほ場率 (%)	虫数 (頭/a)	虫数 (頭/株)	発生株率 (%)	発生ほ場率 (%)		
調査地点									
大津市	関津	0	0	2.0	0	4	0		
草津市	下笠町	0	0	0	0	2	50		
守山市	木浜町	0	0	1.0	0.0	9	50		
守山市	赤野井町	0	0	1.0	0.0	7	0		
栗東市	上砥山	0	0	0.5	0.8	1	50		
野洲市	上屋	0	0	0.5	0.0	1	0		
湖南市	菩提寺	0	0	1.0	0	8	50		
甲賀市	水口町酒人	0	0	0.5	0	0	0		
近江八幡市	野村町	50	0	0	0	1	50		
近江八幡市	安土町大中	0	0	0	0.2	0	50		
日野町	十禅師	0	0	0	0.1	0	0		
竜王町	岡屋	0	50	0	0.1	5	50		
東近江市	市原野町	0	0	0	0	0	0		
東近江市	福堂町	0	0	0	0.1	0	0		
彦根市	新海町	100	0	0	0.1	0	0		
愛荘町	東円堂	100	0	0	0.0	0	0		
豊郷町	八町	100	0	0	0.0	0.5	50		
甲良町	法養寺	0	0	0	0.0	1	0		
米原市	舟崎	50	0	2.0	0.0	0	0		
長浜市	口分田町	0	0	0.5	0.0	0	0		
長浜市	高月町東阿閉	0	0	0.5	0.1	0	0		
長浜市	湖北町山本	0	0	2.0	0	0	0		
高島市	マキノ町知内	0	100	0	1.0	0	0		

(9月17～19日調査、若莢期)

病害虫名		べと病		葉焼病		カメムシ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	平均発病度	発生ほ場率 (%)	平均発病度	虫数 (頭/a)	白変か所数 (か所/a)
調査地点							
大津市	関津	50	0.5	0	0	0	5.0
草津市	下笠町	100	25.0	0	0	0	2.0
守山市	木浜町	100	4.0	0	0	1.0	2.0
守山市	赤野井町	50	5.0	0	0	0.5	1.0
栗東市	上砥山	100	10.0	0	0	1.5	1.5
野洲市	上屋	100	20.0	0	0	0.5	2.0
湖南市	菩提寺	100	1.5	50	0.5	0.5	2.5
甲賀市	水口町酒人	100	5.5	0	0	1.0	5.5
近江八幡市	野村町	100	13.5	0	0	0.5	4.5
近江八幡市	安土町大中	100	2.5	50	0.5	0	3.0
日野町	十禅師	100	13.5	0	0	5.5	2.0
竜王町	岡屋	100	3.0	100	1.5	1.0	5.5
東近江市	市原野町	100	25.0	0	0	7.0	1.0
東近江市	福堂町	50	2.5	50	0.5	1.0	2.0
彦根市	新海町	100	21.0	0	0	0	2.0
愛荘町	東円堂	100	17.5	0	0	2.0	1.0
豊郷町	八町	100	12.5	0	0	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0
米原市	船崎	0	0	0	0	1.0	0.5
長浜市	口分田町	0	0	0	0	0.5	0.5
長浜市	高月町東阿閉	0	0	50	0.5	4.0	0.5
長浜市	湖北町山本	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	100	25.0	0.5	0

## エ 初発見日と初発見場所

病害虫名	初発見月日	初発見場所
べと病	8月19日	米原市舟崎
葉焼病	8月19日	高島市マキノ町知内
茎疫病	7月18日	竜王町岡屋
白絹病		

病害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	-	-
ハダニ類	8月19日	近江八幡市野村町
ハスモンヨトウ	7月31日	近江八幡市安土町東老蘇
タバコガ類	7月18日	野洲市野田ほか
カメムシ類	7月15日	近江八幡市安土町大中
フタスジヒメハムシ	6月20日	竜王町岡屋
コガネムシ類	-	-
サヤムシガ類	-	-

注：「-」は発生を認めなかった。

## オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ダイズ	7350	べと病	0	0	0	5000	5000	68.0	0	0	0
		葉焼病	0	0	150	1150	1300	17.7	2.0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	20	20	0.3	0	3300	3300
		ハスモンヨトウ	50	200	1500	3800	5550	75.5	23.8	3300	4300
		食葉性鱗翅目幼虫	0	150	200	2500	2850	38.8	4.8	3300	3300
		ハダニ類	0	100	300	2800	3200	43.5	5.4	10	10
		カメムシ類	150	800	600	2350	3900	53.1	21.1	1600	3300
		フタスジヒメハムシ	0	150	650	2900	3700	50.3	10.9		

被害面積率 = (程度別発生面積・甚～中の和) / (栽培面積) × 100

## 5 野菜（露地）病害虫発生予察事業

ナス科、ウリ科およびアブラナ科を中心として、露地野菜全般における主要病害虫を調査した。その結果に基づく病害虫発生予察情報として、発生予報9回、防除情報2回（ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ）、注意報2回（オオタバコガ、ハスモンヨトウ）を発表した。

### (1) 野菜

#### ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
野菜全般	うどんこ病 (夏秋トマト)	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	うどんこ病 (夏秋ナス)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	うどんこ病 (夏秋キュウリ)	遅	やや少	ほ場での初発確認は6月10日で、発生時期は遅かった。発生量はやや少なかった。	6月以降の気温が高く、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	灰色かび病 (夏秋ナス、夏秋トマト、夏秋キュウリ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	ハスモンヨトウ	早	やや多	8月中旬のフェロモントラップへの飛来量は平年並、9月中旬から飛来が増加した。ほ場での初発確認は6月26日で、発生時期は早かった。8月中の発生量はやや少なかったが、9月からの飛来の増加に伴って発生量も増え、やや多くなった。アブラナ科野菜で発生がみられた。	8月第2半旬と第3半旬の降水量が多くなり、発生が一時的に抑制された。8月下旬の降水量は少なく、高温で推移し飛来が増加したため、発生量がやや多くなった。	主産地では定期的な薬剤防除がされている。アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。ほ場での発生が多く、7月29日に防除情報、9月18日に注意報を发出した。
	オオタバコガ	早	やや多	フェロモントラップへのオオタバコガの誘殺数は5月以降、タバコガは9月以降から多く推移した。ほ場でのタバコガ類の初発確認は6月6日で、発生時期は早く、発生量はやや多かった。ナス科野菜やキャベツ・ブロッコリーで発生がみられた。	栽培期間を通して飛来量が多かった。6月下旬以降、9月まで高温が続き、本種の飛来および増殖に好適な条件となったと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除されていることが多い。6月下旬までの誘殺数が多く、同時期にナスやトマトで被害も確認されたことから、7月14日にタバコガ類を対象とした注意報を发出した。
	ヨトウガ	遅	少	フェロモントラップへの誘殺数は少なく推移した。ほ場での初発確認は9/24で、発生時期は平年並であり、発生量は少なかった。キャベツ・ブロッコリーで発生がみられた。	近年、フェロモントラップでの誘殺数が少ない傾向にある。アブラナ科野菜ではほ場ではハイマダラノメイガとの同時防除によって発生量が抑えられた。	主産地では定期的な薬剤防除が実施されている。また、アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用による防除が実施されている。
	アザミウマ類 (夏秋トマト)	-	平年並	ほ場での発生は認められなかった。	通常、露地野菜では、問題になることが少ない。7月中と8月下旬以降降水量が少なかったことが、発生量を抑制したと考えられる。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じることがある。
	アザミウマ類 (夏秋ナス)	早	やや少	ほ場での初発確認は5月9日であり、発生時期は早く、発生量はやや少なかった。	4月が高温で推移したが、6月は降雨によって飛来と増殖が抑えられた。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。
	アザミウマ類 (夏秋キュウリ)	遅	やや少	ほ場での初発確認は5月26日で、発生時期は遅く、発生量はやや少なかった。	6月の降雨により密度が抑制された。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	コナジラミ類 (夏秋トマト)	やや早	多	ほ場での初発確認は6月25日であり、発生時期はやや早く、発生量は多かった。	通常、露地野菜では、問題になることが少ない。施設果菜類や、廃棄場所のトマト等からの飛来により発生する。	発生に応じ薬剤防除がされる。微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じることがある。
	コナジラミ類 (夏秋キュウリ)	遅	平年並	ほ場での初発確認は7月18日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	通常、露地野菜では、問題になることが少ない。施設果菜類や、廃棄場所のトマト等からの飛来により発生する。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。
	アブラムシ類 (夏秋トマト)	早	やや少	ほ場での初発確認は5月9日であり、発生時期は早く、発生量はやや少なかった。	4月が高温で推移したが、6月は降雨によって飛来と増殖が抑えられた。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
野菜全般	アブラムシ類(夏秋ナス)	早	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	4月が高温で推移し、ほ場への飛来が早かった。6月以降は降雨による密度抑制と高温寒雨による密度増加がいずれもあり、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	アブラムシ類(夏秋キュウリ)	遅	平年並	ほ場での初発確認は5月26日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	4月が高温で推移したが、6月は降雨によって飛来と増殖が抑えられた。また、8月初旬と中旬の降雨により増殖が抑えられた。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除が実施されている。発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	ハダニ類(夏秋ナス)	遅	やや少	ほ場での初発確認は6月25日であり、発生時期は遅く、発生量はやや少なかった。	4月が高温で推移したが、6月は降雨によって飛来と増殖が抑えられた。また、8月初旬と中旬の降雨により増殖が抑えられた。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
	ハダニ類(夏秋キュウリ)	早	平年並	ほ場での初発確認は6月11日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	4月が高温で推移し、ほ場への飛来が早かった。6月以降は降雨による密度抑制と高温寒雨による密度増加がいずれもあり、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
	ハダニ類(サトイモ)	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月20日で、発生時期・発生量は平年並となった。	6月下旬以降の高温寒雨により密度が増加したが、8月初旬の集中的な降雨により密度が抑制された結果、発生量が平年並となった。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
ナス科野菜	疫病(夏秋トマト)	平年並	少	ほ場での初発確認は6月27日で、発生時期は平年並、発生量は少なかった。	前年の発病が少なく、残存菌密度が少なかったと考えられる。	発生初期に防除の実施。
	葉かび病(夏秋トマト)	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	オオカビ病(夏秋トマト、夏秋ナス)	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	黄化葉巻病(夏秋トマト)	-	-	ほ場での初発確認は7月29日であった。	-	媒介虫であるコナジラミ類の防除。
	ニジュウヤホシテントウ類(夏秋ナス)	早	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	昨年の発生量は平年並であった。越冬期間の気温は高かったが、2月の一時的な低温により越冬量がやや抑制された。しかし、移植早期からほ場に侵入したため、その後の密度が高まった。	被害が顕著になった場合のみ防除されている。
アブラナ科野菜	軟腐病(秋冬はくさい、冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	強風雨を伴う台風などの襲来がなかったことから、発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	黒腐病(冬キャベツ、ブロッコリー)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	強風雨を伴う台風などの襲来がなかったことから、発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	菌核病(冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生が少なかったことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	ネキリムシ類(冬キャベツ)	-	少	フェロモントラップでの誘殺時期は平年並であったが、期間を通じて誘殺数は少なく推移した。ほ場での発生を認めなかった。	成虫の飛来が少なかったことに加え、ハイマダラメイガの防除が平年より多く実施されたことから同時防除され、発生量が抑えられた。	播種または定植時の粒剤等の防除が実施されている。
	ハイマダラメイガ(秋冬ダイコン)	平年並	やや多	ほ場での初発確認は9月18日で、発生時期は平年並であり、発生量はやや多かった。	6月下旬以降は高温寒雨で推移したため、成虫の飛来が多かった。防除したほ場と、無防除のほ場との被害の差が顕著となった。	播種時の粒剤施用が実施されている。指標植物(クレオム)での発生量が多く、9月11日に防除情報を発表した。
	ハイマダラメイガ(冬キャベツ)	早	やや多	ほ場での初発確認は8月26日で、発生時期は早く、発生量はやや多かった。	移植直後から成虫の飛来が多く、発生時期が早く量が多くなった。防除したほ場と、無防除のほ場との被害の差が顕著となった。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。指標植物(クレオム)での発生量が多く、9月11日に防除情報を発表した。
	コナガ(春キャベツ)	早	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。予察灯でフェロモントラップでの4月の誘殺数は多かった。	昨年の発生量はやや多かったが、本種の発生量が増加する5月と6月の降水量が多かったため、増殖が抑えられた。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
	コナガ(冬キャベツ)	やや早	やや少	ほ場での初発確認は8月26日で、発生時期はやや早く、発生量はやや少なかった。フェロモントラップでの誘殺数は、5月以降平年並で推移したが、6月下旬には予察灯での誘殺数が一時的に増加した。	6月下旬以降に高温寒雨となったが、ハイマダラメイガとの同時防除によって、発生量はやや少く抑えられた。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
	コナガ(ブロッコリー)	遅	少	ほ場での初発確認は9月24日で、発生時期は遅く、発生量は少なかった。フェロモントラップでの誘殺数は、5月以降平年並で推移したが、6月下旬には予察灯での誘殺数が一時的に増加した。	6月下旬以降に高温寒雨となったが、ハイマダラメイガとの同時防除によって、発生量は少く抑えられた。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が懸念されている。
	モンシロチョウ(秋冬はくさい)	-	やや少	ほ場での発生は認められなかった。	定植前にセルトレイ灌注や粒剤施用されている場合も多く、無防除のほ場との被害の差は顕著である。本年はハイマダラメイガの防除が多く実施されており、同時防除された。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除が実施されている。
モンシロチョウ(春キャベツ)	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月8日で、発生時期・発生量は平年並であった。	定植前にセルトレイ灌注や粒剤施用されている場合が多い。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除が実施されている。	
モンシロチョウ(冬キャベツ)	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は9月24日で、発生時期はやや遅く、発生量はやや少なかった。	ハイマダラメイガの発生が多く、防除が平年より多く実施されたことから同時防除され、発生量が抑えられた。	育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除が実施されている。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
夏秋キュウリ	べと病	遅	やや少	ほ場での初発確認は6月25日で、発生時期は遅く、発生量はやや少なかった。	6月以降の気温が高く、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	褐斑病	-	やや少	ほ場での初発確認は7月30日であった。	7月以降の気温が高く、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	炭疽病	-	-	ほ場での初発確認は6月10日であった。	-	発生初期に防除の実施。
	斑点細菌病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
タマネギ	べと病	やや早	やや少	ほ場での初発確認は2月17日とやや早く、発生量はやや少なかった。	1月までは気温が高く、順調に生育していたことから、発生時期が早まった。また、3月以降降水量が少なく、感染に不適であったため、発生量が少なかった。	発生初期に防除の実施。
	白色疫病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	例年発生が少なく、本年も発生は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	ネギアザミウマ	早	やや少	ほ場での初発確認は3月10日で、発生時期は早く、発生量はやや少なかった。	3月以降の気温が高かったが、3月と4月の一時的な降水量の増加が発生を抑制した結果、発生量はやや少なくなりました。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
秋冬ネギ	さび病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	黒斑病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	べと病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	ネギコガ	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	育苗時もしくは定植時の防除の有無によって発生量の差が大きい。	育苗時の灌水処理や、定植時の薬剤施用の実施。植付け後は、ネギアザミウマと同時防除されている。
	ネギハモグリバエ	平年並	やや多	ほ場での初発確認は9月17日で、発生時期は平年並、発生量はやや多かった。	育苗時もしくは定植時の防除の有無によって発生量の差が大きく、無防除ほ場で発生がみられた。バイオタイプBが発生しているほ場では、局所的に被害が大きくなる場合がある。	育苗時の灌水処理や、定植時の薬剤施用の実施。植付け後は、ネギアザミウマと同時防除されている。
	シロイチモジヨトウ	早	平年並	ほ場での初発確認は9月24日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	フェロモントラップには誘殺されるが、ほ場での発生は通常ほとんど見られない。さらに、ハスモンヨトウなど他害虫と同時防除されている。	発生時に薬剤散布が実施されている。

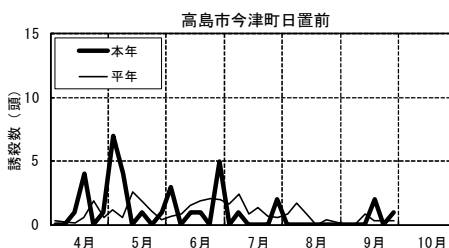
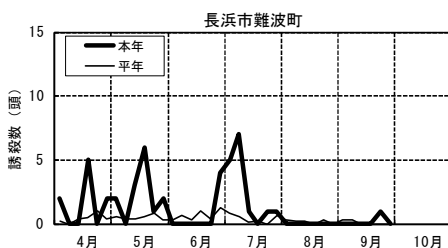
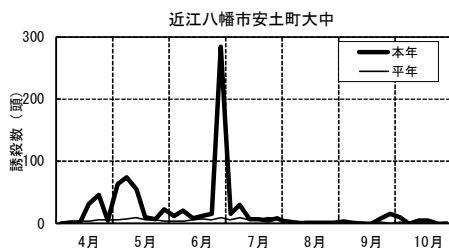
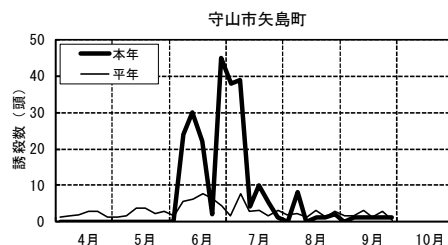
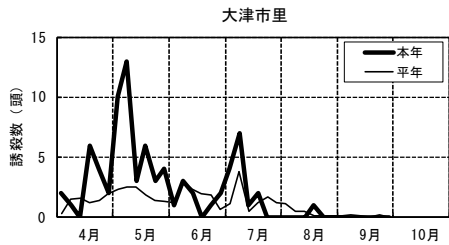
# イ 予察灯、フェロモントラップ、黄色水盤による調査

## (ア) 予察灯による調査

### コナガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	2	2	0.3	0.3	0	0	1.2	1.2	0	0	2.3	2.3	2	2	0.2	0.2	0	0	0.3	0.3
4	2	1	3	1.5	1.8	0	0	1.6	2.8	2	2	4.6	6.9	0	2	0	0.2	0	0	0.2	0.6
4	3	0	3	1.6	3.4	0	0	1.9	4.7	2	4	4.3	11.2	0	2	0.4	0.6	1	1	0.1	0.7
4	4	6	9	1.2	4.6	0	0	2.7	7.4	31	35	4.7	15.9	5	7	0.5	1.1	4	5	0.6	1.2
4	5	4	13	1.4	6.0	0	0	2.8	10.2	45	80	5.0	20.9	0	7	1.0	2.1	0	5	1.9	3.1
4	6	2	15	2.0	8.0	0	0	1.1	11.3	4	84	4.9	25.8	2	9	0.4	2.5	1	6	0.6	3.7
5	1	10	25	2.3	10.3	0	0	1.2	12.5	63	147	5.4	31.2	2	11	0.6	3.1	7	13	1.2	4.9
5	2	13	38	2.5	12.8	0	0	1.5	14.0	74	221	8.2	39.4	0	11	0.4	3.5	4	17	0.6	5.4
5	3	3	41	2.5	15.3	0	0	3.7	17.7	55	276	8.7	48.1	3	14	0.4	3.9	0	17	2.6	8.0
5	4	6	47	1.9	17.2	0	0	3.6	21.3	10	286	5.1	53.2	6	20	0.6	4.5	1	18	1.8	9.8
5	5	3	50	1.4	18.6	0	0	2.3	23.6	7	293	5.9	59.1	1	21	0.8	5.3	0	18	1.1	10.9
5	6	4	54	1.3	19.9	0	0	2.8	26.4	23	316	4.2	63.3	2	23	0.3	5.6	1	19	0.4	11.3
6	1	1	55	1.2	21.1	0	0	1.6	28.0	11	327	4.4	67.7	0	23	0.3	5.9	3	22	0.7	12.0
6	2	3	58	3.0	24.1	24	24	5.6	33.6	21	348	4.6	72.3	0	23	0.7	6.6	0	22	0.8	12.8
6	3	2	60	2.3	26.4	30	54	6.1	39.7	8	356	5.2	77.5	0	23	0.3	6.9	1	23	1.5	14.3
6	4	0	60	2.0	28.4	22	76	7.7	47.4	11	367	7.4	84.9	0	23	1.0	7.9	1	24	1.9	16.2
6	5	1	61	1.9	30.3	2	78	6.3	53.7	16	383	6.3	91.2	0	23	0.4	8.3	0	24	2.1	18.3
6	6	2	63	0.7	31.0	45	123	4.2	57.9	284	667	9.2	100.4	4	27	1.3	9.6	5	29	2.0	20.3
7	1	4	67	1.1	32.1	38	161	1.5	59.4	15	682	5.9	106.3	5	32	0.8	10.4	0	29	1.6	21.9
7	2	7	74	3.8	35.9	39	200	7.6	67.0	29	711	8.8	115.1	7	39	0.6	11.0	1	30	2.4	24.3
7	3	1	75	0.4	36.3	4	204	2.7	69.7	7	718	5.6	120.7	1	40	0.1	11.1	0	30	0.8	25.1
7	4	2	77	1.2	37.5	10	214	3.1	72.8	6	724	6.1	126.8	0	40	0.2	11.3	0	30	1.4	26.5
7	5	0	77	1.7	39.2	5	219	1.7	74.5	5	729	9.7	136.5	1	41	0	11.3	0	30	0.7	27.2
7	6	0	77	1.2	40.4	1	220	3.2	77.7	9	738	6.8	143.3	1	42	0.7	12.0	2	32	0.6	27.8
8	1	0	77	1.1	41.5	0	220	2.0	79.7	2	740	5.8	149.1	0	42	0.3	12.3	0	32	0.8	28.6
8	2	0	77	0.4	42.0	8	228	2.3	82.0	0	740	3.2	152.3	0	42	0.2	12.5	0	32	1.7	30.3
8	3	0	77	0.4	42.4	0	228	1.4	83.4	1	741	2.3	154.6	0	42	0.2	12.7	0	32	0.8	31.1
8	4	1	78	0.1	42.5	1	229	3.1	86.5	1	742	2.7	157.3	0	42	0	12.7	0	32	0	31.1
8	5	0	78	0.1	42.7	1	230	1.4	87.9	1	743	2.6	159.9	0	42	0.3	13.0	0	32	0.4	31.5
8	6	0	78	0.1	42.8	2	232	2.8	90.7	1	744	1.3	161.2	0	42	0.0	13.0	0	32	0.2	31.7
9	1	0	78	0.1	42.9	0	232	1.5	92.2	3	747	1.0	162.2	0	42	0.3	13.3	0	32	0.1	31.8
9	2	0	78	0.2	43.1	1	233	1.7	93.9	2	749	1.0	163.2	0	42	0.3	13.6	0	32	0.1	31.9
9	3	0	78	0.1	43.2	1	234	3.0	96.9	0	749	1.7	164.9	0	42	0	13.6	0	32	0.8	32.7
9	4	0	78	0	43.2	1	235	1.3	98.2	0	749	1.0	165.9	0	42	0	13.6	2	34	0.3	33.0
9	5	0	78	0.2	43.4	1	236	2.7	100.9	9	758	1.3	167.2	1	43	0	13.6	0	34	0.3	33.3
9	6	0	78	0	43.4	1	237	0.4	101.3	15	773	1.0	168.2	0	43	0	13.6	1	35	0.3	33.6
10	1									10	783	1.2	169.4								
10	2									0	783	0.9	170.3								
10	3									5	788	0.8	171.1								
10	4									4	792	0.5	171.6								
10	5									0	792	0.9	172.5								
10	6									0	792	1.7	174.2								

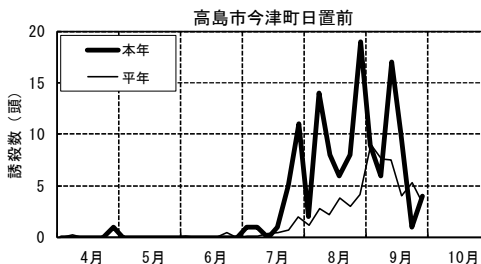
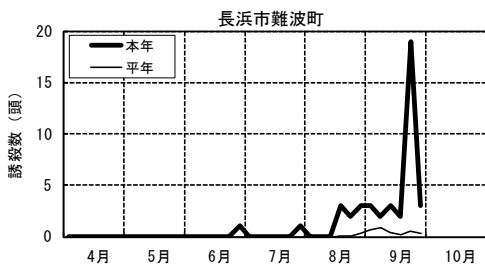
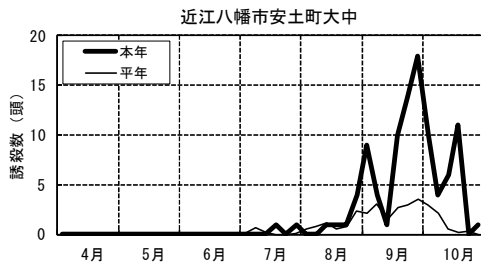
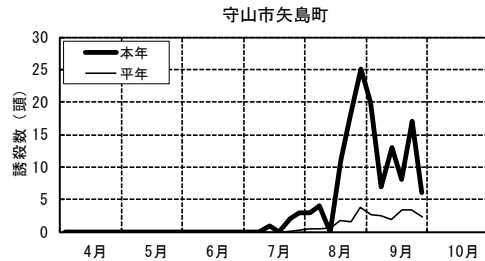
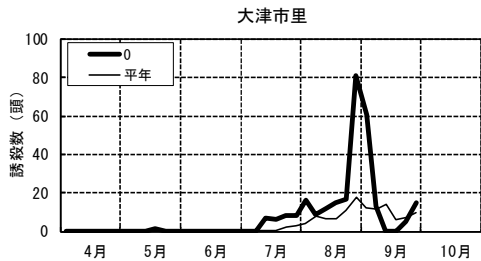


○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

シロオビノメイガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月	半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
		0	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0.2
4	4	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
5	4	1	1	0.1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
5	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
5	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3
6	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3
6	3	0	1	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3
6	4	0	1	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3
6	5	0	1	0.1	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	1	0.8
6	6	0	1	0.1	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	1	0	0	0	0	1	0.8
7	1	0	1	0	0.6	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	1	0	0	0	1	2	0.1	0.9	
7	2	0	1	0.1	0.7	0	0	0.1	0.1	0	0	0.7	1.0	0	1	0	0	1	3	0.1	1.0	
7	3	7	8	0.7	1.4	1	1	0	0.1	0	0	2.2	1.2	0	1	0	0	3	0.4	1.4		
7	4	6	14	0.7	2.1	0	1	0	0.1	1	1	0	1.2	0	1	0	0	4	0.5	1.9		
7	5	8	22	2.3	4.4	2	3	0.1	0.2	0	1	0	1.2	0	1	0	0	5	0.7	2.6		
7	6	8	30	3.1	7.5	3	6	0.3	0.5	1	2	0.1	1.3	1	2	0	0	11	2.0	4.6		
8	1	16	46	4.2	11.7	3	9	0.5	1.0	0	2	0.5	1.8	0	2	0	0	2	1.2	5.8		
8	2	9	55	7.8	19.5	4	13	0.4	1.4	0	2	0.8	2.6	0	2	0.1	0.1	14	2.8	8.6		
8	3	12	67	6.7	26.2	0	13	0.6	2.0	1	3	1.1	3.7	0	2	0	0.1	8	4.4	10.8		
8	4	15	82	6.4	32.6	11	24	1.7	3.7	1	4	0.6	4.3	3	5	0.1	0.2	6	3.8	14.6		
8	5	17	99	10.9	43.5	18	42	1.5	5.2	1	5	0.8	5.1	2	7	0.1	0.3	8	5.8	17.6		
8	6	81	180	17.8	61.3	25	67	3.7	8.9	4	9	2.4	7.5	3	10	0.3	0.6	19	7.7	21.8		
9	1	61	241	12.0	73.3	20	87	2.6	11.5	9	18	2.1	9.6	3	13	0.6	1.2	9	9.0	30.8		
9	2	13	254	11.2	84.5	7	94	2.4	13.9	4	22	3.1	12.7	2	15	0.9	2.1	6	9.2	38.4		
9	3	0	254	14.2	98.7	13	107	2.0	15.9	1	23	1.5	14.2	3	18	0.4	2.5	17	10.9	45.9		
9	4	0	254	6.1	104.9	8	115	3.3	19.2	10	33	2.7	16.9	2	20	0.2	2.7	10	11.9	49.9		
9	5	5	259	7.4	112.3	17	132	3.4	22.6	14	47	3.0	19.9	19	39	0.5	3.2	1	12.0	53.3		
9	6	15	274	9.7	122.0	6	138	2.2	24.8	18	65	3.5	23.4	3	42	0.3	3.5	4	12.4	58.7		
10	1									10	75	3.0	26.4									
10	2									4	79	2.1	28.5									
10	3									6	85	0.5	29.0									
10	4									11	96	0.2	29.2									
10	5									0	96	0.3	29.5									
10	6									1	97	0	29.5									



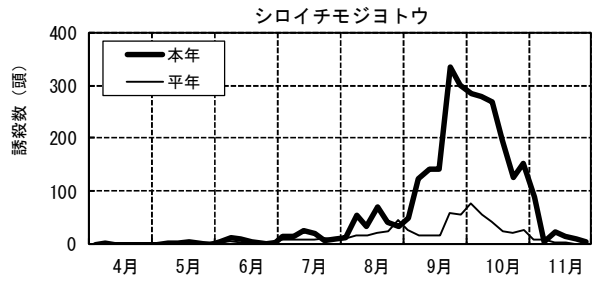
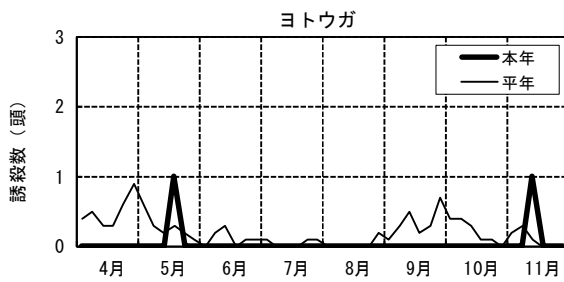
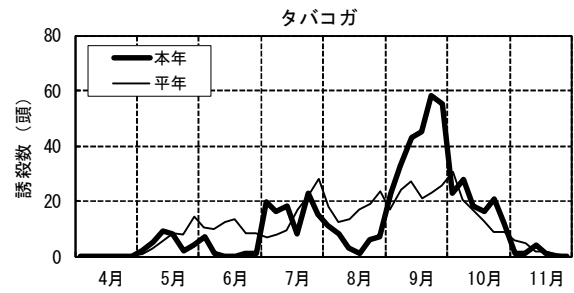
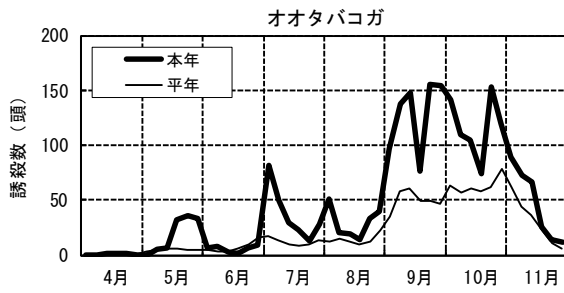
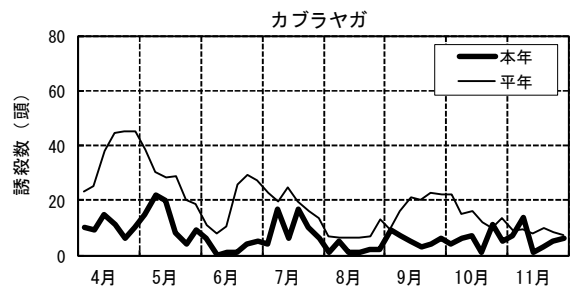
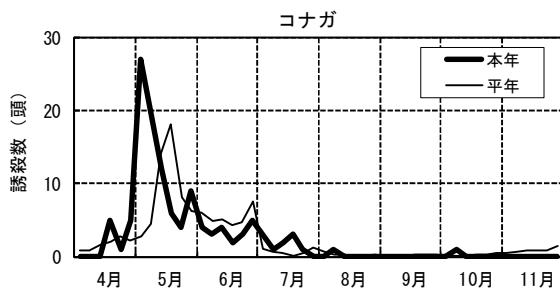
○平年値は過去10年間(H27~R6)の平均値である。  
ただしR7の7月1日~3日、8月9日~11日は欠測(安土町大中)

## (イ) フェロモントラップによる調査

## 野菜主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況 (近江八幡市安土町大中)

(頭)

月	半旬	コナガ		カブラヤガ		タバコガ		オオタバコガ		ヨトウガ		シロイチモジヨトウ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	0	0.8	10	23.1	0	0	0	0.2	0	0.4	0	0.2
	2	0	0.9	9	25.4	0	0	0	0.3	0	0.5	1	0.2
	3	0	1.6	15	38.2	0	0.1	1	0.3	0	0.3	0	0.2
	4	5	2.1	11	44.5	0	0.1	1	0.5	0	0.3	0	0.4
	5	1	2.8	6	45.3	0	0.3	1	0.3	0	0.6	0	0.6
	6	5	2.3	10	45.2	0	0.4	0	0.9	0	0.9	0	0.6
5	1	27	2.8	15	38.7	2	0.8	0	3.2	0	0.6	0	0.8
	2	20	4.5	22	30.1	5	2.9	5	4.6	0	0.3	1	0.8
	3	12	14.0	20	28.5	9	5.4	6	5.6	0	0.2	1	1.0
	4	6	18.1	8	28.8	8	8.6	32	5.2	1	0.3	3	1.6
	5	4	8.1	4	20.3	2	7.8	36	4.0	0	0.2	2	2.6
	6	9	6.2	9	18.7	4	14.5	33	4.6	0	0.1	0	3.4
6	1	4	6.0	6	11.0	7	10.6	7	3.9	0	0.0	3	3.6
	2	3	4.9	0	7.7	1	10.1	8	2.8	0	0.2	11	4.8
	3	4	5.0	1	10.3	0	12.6	2	2.6	0	0.3	10	4.2
	4	2	4.4	1	25.5	0	13.4	1	5.1	0	0	5	3.4
	5	3	4.7	4	29.4	1	8.5	6	10.0	0	0.1	1	2.6
	6	5	7.5	5	27.3	1	8.6	9	16.3	0	0.1	0	5.4
7	1	3	1.1	4	22.6	20	6.7	81	16.9	0	0.1	16	8.8
	2	1	0.6	17	19.8	16	8.1	50	13.9	0	0	16	9.4
	3	2	0.5	6	24.7	18	9.6	29	9.9	0	0	26	9.4
	4	3	0.1	17	19.4	8	16.8	23	8.4	0	0	19	8.8
	5	1	0.4	10	16.1	23	21.3	13	9.1	0	0.1	8	10.6
	6	0	1.2	6	13.7	15	28.1	28	13.7	0	0.1	10	9.2
8	1	0	0.6	1	7.0	11	18.2	51	11.6	0	0.0	13	10.4
	2	1	0.3	5	6.2	8	12.3	20	14.7	0	0	54	17.2
	3	0	0.2	1	6.6	3	13.6	19	12.4	0	0	34	16.2
	4	0	0.1	1	6.2	1	17.0	14	9.5	0	0	69	21.8
	5	0	0.1	2	6.8	6	19.2	33	12.5	0	0	40	23.4
	6	0	0.2	2	12.9	7	23.6	39	22.7	0	0.2	32	44.0
9	1	0	0.1	9	9.6	23	17.1	97	34.8	0	0.1	49	25.4
	2	0	0.1	7	15.9	33	24.1	137	58.0	0	0.3	122	15.0
	3	0	0.1	5	21.4	43	27.3	148	60.6	0	0.5	142	17.0
	4	0	0.2	3	20.2	45	21.2	76	48.8	0	0.2	142	15.2
	5	0	0.2	4	22.6	58	22.9	156	49.6	0	0.3	335	57.7
	6	0	0.2	6	22.3	55	25.8	154	47.1	0	0.7	300	54.7
10	1	0	0.1	4	22.4	23	30.5	142	62.8	0	0.4	285	77.7
	2	1	0.1	6	15.1	28	20.6	110	57.0	0	0.4	278	56.2
	3	0	0.1	7	15.9	18	16.6	105	61.0	0	0.3	268	43.8
	4	0	0.2	1	12.2	16	12.7	74	58.1	0	0.1	196	25.0
	5	0	0.2	11	9.8	21	8.7	153	61.5	0	0.1	127	22.2
	6	0	0.4	5	13.3	12	8.8	120	78.6	0	0.0	151	25.8
11	1	0	0.5	7	8.8	1	6.0	89	61.7	0	0.2	90	7.7
	2	0	0.7	14	9.2	1	4.6	73	44.0	0	0.3	5	7.2
	3	0	0.8	1	7.7	4	2.0	66	36.7	1	0.1	23	1.7
	4	0	0.8	3	10.1	1	1.7	25	22.0	0	0	14	2.2
	5	0	0.8	5	8.5	0	0.6	14	11.1	0	0	9	1.5
	6	0	1.4	6	7.3	0	0.3	12	6.0	0	0	4	1.5

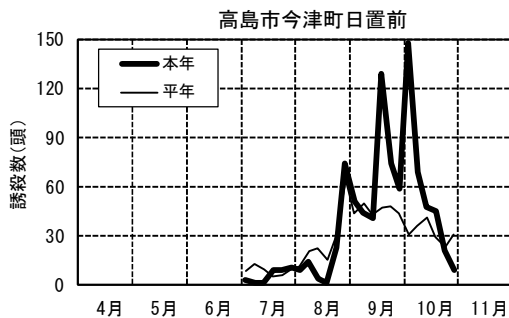
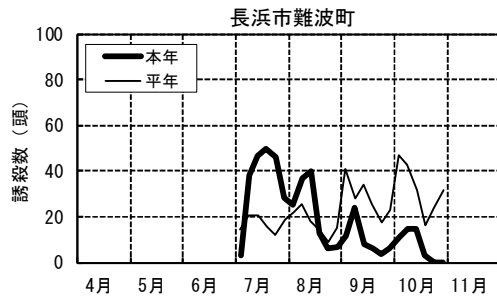
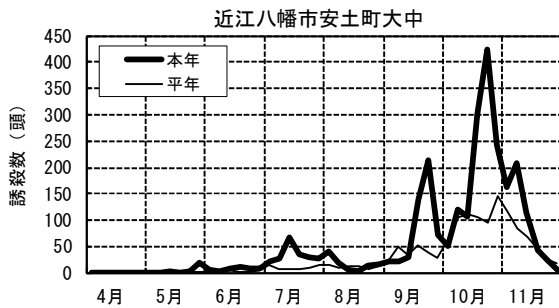


平年値は過去10年間（H27～R6）の平均値。ただし、シロイチモジヨトウのフェロモントラップはR1年度から設置したため、平年値はR1～R6の平均値である。

ハスモンヨトウ半月別誘殺数（フェロモントラップ）

(頭)

月	半月	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
	2	0	0	0.1	0.2								
	3	0	0	0	0.2								
	4	0	0	0	0.2								
	5	0	0	0.1	0.3								
	6	0	0	0.1	0.4								
5	1	0	0	0.3	0.7								
	2	1	1	0.5	1.2								
	3	2	3	0.3	1.5								
	4	1	4	0.4	1.9								
	5	3	7	0.6	2.5								
	6	19	26	0.6	3.1								
6	1	5	31	1.5	4.6								
	2	3	34	3.3	7.9								
	3	8	42	4.8	12.7								
	4	10	52	3.1	15.8								
	5	9	61	2.3	18.1								
	6	8	69	3.3	21.4								
7	1	23	92	15.8	37.2	3	3	14.3	14.3	3	3	9.0	9.0
	2	28	120	7.9	45.1	38	41	20.4	34.7	2	5	12.9	21.9
	3	66	186	7.9	53.0	47	88	20.7	55.4	2	7	9.9	31.8
	4	35	221	6.2	59.2	50	138	15.6	71.0	9	16	5.4	37.1
	5	30	251	9.9	69.1	46	184	11.9	82.9	9	25	5.9	43.0
	6	27	278	14.2	83.3	28	212	18.6	101.5	11	36	9.6	52.6
8	1	41	319	14.2	97.5	25	237	22.0	123.5	9	45	11.4	64.0
	2	20	339	10.7	108.2	37	274	25.6	149.1	14	59	21.1	85.1
	3	5	344	11.5	119.7	40	314	18.3	167.4	4	63	22.3	107.4
	4	4	348	11.7	131.4	13	327	14.1	181.5	2	65	15.4	122.8
	5	15	363	6.0	137.4	6	333	9.1	190.6	23	88	29.1	151.9
	6	17	380	11.7	149.1	7	340	15.0	205.6	74	162	64.1	216.0
9	1	21	401	22.9	172.0	12	352	40.7	246.3	51	213	44	259.5
	2	21	422	49.2	221.2	24	376	28.2	274.5	44	257	49.8	309.3
	3	31	453	34.2	255.4	8	384	34.3	308.8	41	298	42.9	352.1
	4	138	591	52.0	307.4	6	390	25.3	334.1	129	427	47.5	399.6
	5	213	804	39.5	346.9	4	394	17.5	351.6	74	501	48.5	448.1
	6	73	877	29.7	376.6	6	400	23.0	374.6	59	560	44.0	492.1
10	1	52	929	61.7	438.3	11	411	47.0	421.6	148	708	31.1	523.3
	2	121	1050	104.7	543.0	15	426	42.6	464.2	69	777	36.5	559.8
	3	107	1157	110.7	653.7	15	441	31.4	495.6	48	825	41.8	601.5
	4	301	1458	105.8	759.5	3	444	16.6	512.2	45	870	29.6	631.1
	5	424	1882	95.3	854.8	0	444	23.4	535.6	21	891	23.8	654.9
	6	243	2125	146.1	1000.9	0	444	31.8	567.4	9	900	31.4	686.3
11	1	162	2287	116.9	1117.8								
	2	208	2495	85.3	1203.1								
	3	114	2609	67.8	1270.9								
	4	42	2651	46.6	1317.5								
	5	25	2676	26.3	1343.8								
	6	6	2682	17.4	1361.2								

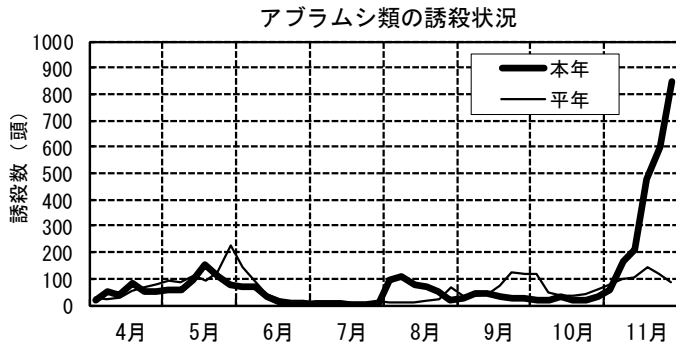


・平年値はH27～R6の10年間の平均値。

(ウ) 黄色水盤による調査

アブラムシ類半旬別誘殺数  
(近江八幡市安土町大中：黄色水盤)  
(頭)

月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
4	1	18	18	29.1	29.1
	2	51	69	19.6	48.7
	3	38	107	31.6	80.3
	4	80	187	51.8	132.1
	5	54	241	64.4	196.5
	6	54	295	82.5	279.0
5	1	55	350	94.2	373.2
	2	56	406	88.0	461.2
	3	95	501	109.8	571.0
	4	156	657	94.1	665.1
	5	109	766	123.3	788.4
	6	79	845	224.9	1013.3
6	1	72	917	141.3	1154.6
	2	68	985	90.7	1245.3
	3	30	1015	41.6	1286.9
	4	10	1025	25.3	1312.2
	5	2	1027	19.0	1331.2
	6	2	1029	16.3	1347.5
7	1	7	1036	8.4	1355.9
	2	4	1040	6.0	1361.9
	3	4	1044	9.7	1371.6
	4	3	1047	9.6	1381.2
	5	3	1050	10.3	1391.5
	6	3	1053	14.4	1405.9
8	1	95	1148	7.2	1413.1
	2	107	1255	8.4	1421.5
	3	78	1333	10.1	1431.6
	4	67	1400	16.9	1448.5
	5	50	1450	21.9	1470.4
	6	21	1471	67.6	1538.0
9	1	28	1499	36.2	1574.2
	2	45	1544	33.7	1607.9
	3	42	1586	42.5	1650.4
	4	34	1620	70.7	1721.1
	5	27	1647	125.3	1846.4
	6	25	1672	120.7	1967.1
10	1	21	1693	118.6	2085.7
	2	17	1710	49.2	2134.9
	3	33	1743	33.1	2168.0
	4	22	1765	37.3	2205.3
	5	16	1781	39.3	2244.6
	6	35	1816	59.0	2303.6
11	1	60	1876	80.4	2384.0
	2	166	2042	96.5	2480.5
	3	210	2252	104.6	2585.1
	4	475	2727	142.8	2727.9
	5	601	3328	120.6	2848.5
	6	850	4178	83.7	2932.2

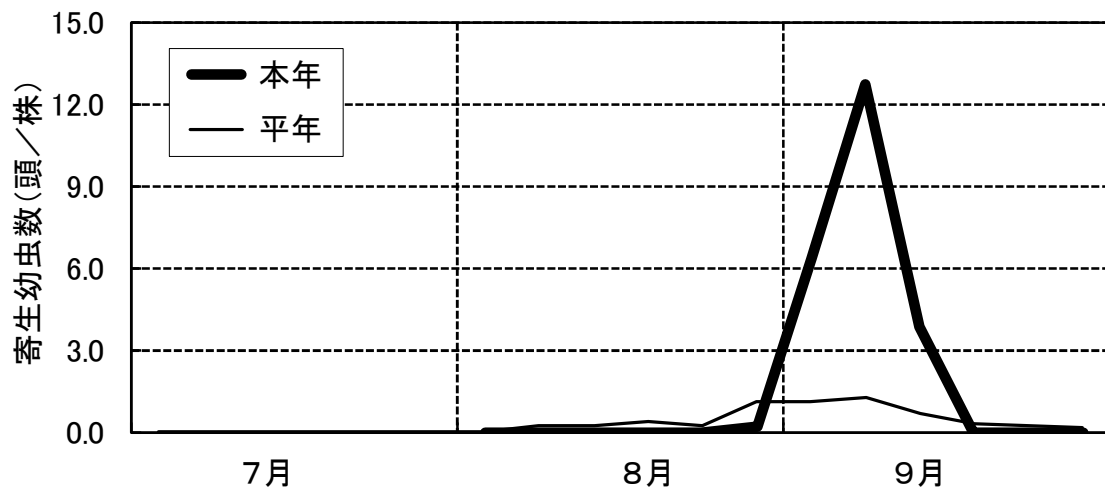


・平年値はH27～R6の10年間の平均値。

(エ) クレオメによる調査

クレオメ 1株当たりのハイマダラノメイガ寄生幼虫数 (近江八幡市安土町大中)

		(頭)			
月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
7	1			0	0
	2			0	0
	3			0	0
	4			0	0
	5			0	0
	6			0	0
8	1	0	0	0.0	0.0
	2	0	0	0.3	0.3
	3	0	0	0.2	0.5
	4	0	0	0.4	0.8
	5	0	0	0.2	1.1
	6	0	0	1.1	2.2
9	1	6.0	6.0	1.1	3.3
	2	13.0	19.0	1.3	4.6
	3	4.0	23.0	0.6	5.2
	4	0	23.0	0.3	5.5
	5	0	23.0	0.2	5.8
	6	0	23.0	0.1	5.9



・平年値は10年間(H27~R6)の平均値  
 ただし、R7の7月1日~31日は欠測

## ウ 発生量調査（最終調査結果のみを記載）

### （ア） トマト

病害虫名	灰色かび病	疫病	葉かび病	うどんこ病
	発病度	発病度	発病度	発病度
調査地点	6/25～6/27	6/25～6/27	6/25～6/27	6/25～6/27
草津市 下笠町	0	1.0	0	0
野洲市 小南	0	0	0	0
湖南市 菩提寺	0	1.0	0	0
近江八幡市安土町 上豊浦	0	3.0	0	0
彦根市 松原町	0	0	0	0
甲良町 下之郷	0	3.0	0	0
米原市 世継	0	0	0	0
高島市今津町 深清水	0	0	0	0

病害虫名	すすかび病	黄化葉巻病	アブラムシ類	コナジラミ類
	発病度	発病株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生葉率 (%)
調査地点	6/25～6/27	6/25～6/27	7/18～7/29	7/18～7/29
草津市 下笠町	0	0	0	0
野洲市 小南	0	0	0	5.0
湖南市 菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町 上豊浦	0	0	0	0
彦根市 松原町	0	0	0	0
甲良町 下之郷	0	0	0	0
米原市 世継	0	0	0	0
高島市今津町 深清水	0	0	0	0

病害虫名	ハスモンヨトウ	アザミウマ類
	寄生株率 (%)	寄生花率 (%)
調査地点	7/18～7/29	6/25～6/27
草津市 下笠町	0	0
野洲市 小南	0	0
湖南市 菩提寺	0	0
近江八幡市安土町 上豊浦	0	0
彦根市 松原町	0	0
甲良町 下之郷	0	0
米原市 世継	0	0
高島市今津町 深清水	0	0

### （イ） ナス

病害虫名	うどんこ病	灰色かび病	すすかび病	アブラムシ類
	発病度	発病株率 (%)	発病葉率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)
調査地点	6/25～6/27	6/25～6/27	6/25～6/27	7/18～7/29
草津市 下笠町	0	0	0	0
野洲市 小南	0	0	0	0.01
湖南市 菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町 上豊浦	0	0	0	0
彦根市 松原町	0	0	0	0
甲良町 下之郷	0	0	0	0
米原市 世継	0	0	0	0
高島市今津町 深清水	0	0	0	0

病害虫名	アザミウマ類	オオタバコガ	ハスモンヨトウ	ハダニ類
	寄生葉率 (%)	被害果率 (%)	被害面積率 (%)	寄生葉率 (%)
調査地点	7/18～7/29	7/18～7/29	8/19	8/19
草津市 下笠町	0	1.0	0	0
野洲市 小南	0	0	0	1.0
湖南市 菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町 上豊浦	0	0	0	0
彦根市 松原町	0	0	0	0
甲良町 下之郷	0	0	0	1.0
米原市 世継	0	0	0	0
高島市今津町 深清水	0	0	0	0

(ウ) キュウリ

調査地点	病害虫名	べと病	うどんこ病	灰色かび病	褐斑病
		発病葉率 (%)	発病葉率 (%)	発病株率 (%)	発病葉率 (%)
		7/18~7/29	6/25~6/27	6/25~6/27	6/25~6/27
草津市	下笠町	0	2.5	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	2.5	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	50.0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	10.0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	炭疽病	斑点細菌病	アブラムシ類	コナジラミ類
		全病葉率 (%)	発病葉率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		6/25~6/27	6/25~6/27	7/18~7/29	7/18~7/29
草津市	下笠町	2.0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	5.0	10.0
湖南市	菩提寺	8.0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	20.0	0	0	0.5
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	アザミウマ類	ハダニ類
		1葉あたり寄生頭数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		7/18~7/29	7/18~7/29
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0.01	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0.01	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	1.0
米原市	世継	0	100.0
高島市今津町	深清水	0	0

(エ) ダイコン

調査地点	病害虫名	アブラムシ類
		発生程度指数
		10/29~10/30
草津市	下笠町	0
野洲市	小南	40.0
湖南市	菩提寺	0
近江八幡市安土町	上豊浦	1.0
彦根市	松原町	0
甲良町	下之郷	0
米原市	世継	0
高島市今津町	深清水	0

(オ) 春キャベツ

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
調査地点		5/26~5/27	5/26~5/27
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	1.0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

(カ) 冬キャベツ

調査地点	病害虫名	黒腐病	菌核病	アブラムシ類	ハスモンヨトウ
		発病度	発病株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生株率 (%)
調査地点		10/29~10/30	10/29~10/30	10/29~10/30	10/29~10/30
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	1.0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ	モンシロチョウ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)	10株あたり幼虫数 (頭/10株)
調査地点		10/29~10/30	10/29~10/30	10/29~10/30
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	1.0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	1.0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	1.0
米原市	世継	0	0	2.0
高島市今津町	深清水	0	0	0

(キ) タマネギ

調査地点	病害虫名	白色疫病	べと病	アザミウマ類
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
調査地点		4/7	4/7	5/8~5/9
草津市	下笠町	0	14.0	7.0
野洲市	小南	0	0	1.0
湖南市	菩提寺	0	14.0	7.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	2.0	50.0
彦根市	松原町	0	0	1.0
甲良町	下之郷	0	2.0	0
米原市	世継	0	0	2.0
高島市今津町	深清水	0	0	2.0

(ク) ネギ

調査地点	病害虫名	黒斑病	べと病	さび病
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		9/17	9/17	9/17
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害株率 (%)
		10/29~10/30	9/17	10/29~10/30
草津市	下笠町	0	10.0	0
野洲市	小南	0	0	1.0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	25.0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

調査地点	病害虫名	シロイチモジヨトウ	ネギコガ	ネギハモグリバエ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害葉率 (%)
		10/29~10/30	9/17	9/17
草津市	下笠町	0	0	5.0
野洲市	小南	0	0	10.0
湖南市	菩提寺	1.0	0	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	5.0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	10.0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

(ケ) サトイモ

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ	アブラムシ類
		食害面積率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
		9/17	7/18~7/29
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	1.0	0
湖南市	菩提寺	0	600.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	10.0
彦根市	松原町	0	1.0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	10.0	0
高島市今津町	深清水	0	0.1

発生量は、最終調査結果のみを記載

## エ 初発見月日と初発見場所

### (ア) ほ場

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所	作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所	
トマト	灰色かび病	-		キャベツ	菌核病	-		
	疫病	6/27	近江八幡市安土町上豊浦		黒腐病	-		
	葉かび病	-			軟腐病	-		
	うどんこ病	-			アブラムシ類	-		
	黄化葉巻病	7/29	近江八幡市安土町上豊浦		ハスモンヨトウ	-		
	すすかび病	-			オオタバコガ	-		
	モモアカアブラムシ	5/9	草津市下笠町		ヨトウガ	9/24	東近江管内（地点不明）	
	コナジラミ類	6/25	湖南省善提寺		コナガ	5/8	甲良町下之郷	
	オオタバコガ	7/29	米原市世継		モンシロチョウ	5/8	近江八幡市安土町上豊浦	
	アザミウマ類	-			ハイマダラノメイガ	8/26	地点不明	
ナス	ハスモンヨトウ	-		カブラヤガ	5/8	地点不明		
	うどんこ病	-		ブロッコリー	黒腐病	-		
	灰色かび病	-			ハスモンヨトウ	-		
	すすかび病	-			ヨトウガ	-		
	アブラムシ類	5/8	高島市今津町深清水		コナガ	9/24	湖東管内（地点不明）	
	ハダニ類	6/25	草津市下笠町		タマネギ	べと病	2/17	甲良町下之郷
	ミナミキイロアザミウマ	5/9	草津市下笠町		白色疫病	-		
	ハスモンヨトウ	-			ネギアザミウマ	3/10	野洲市小南	
	オオタバコガ	6/6	近江八幡市八日市		さび病	-		
	ニジュウヤホシテントウ類	5/8	米原市世継		黒斑病	-		
キュウリ	べと病	6/25	湖南省善提寺		ネギ	べと病	-	
	うどんこ病	6/10	湖南省善提寺	ネギアブラムシ	4/7	湖南省善提寺		
	灰色かび病	-		ネギアザミウマ	9/17	草津市下笠町		
	褐斑病	7/30	草津市下笠町	ハスモンヨトウ	-			
	炭疽病	6/10	近江八幡市安土町上豊浦	ネギコガ	-			
	斑点細菌病	-		ネギハモグリバエ	9/17	近江八幡市安土町上豊浦		
	アブラムシ類	5/26	近江八幡市安土町上豊浦	シロイチモジヨトウ	9/24	守山市（地点不明）		
	アザミウマ類	5/26	甲良町下之郷	ハスモンヨトウ	8/20	草津市下笠町		
	コナジラミ類	7/18	草津市下笠町	サイトモ	アブラムシ類	6/9	近江八幡市安土町上豊浦	
	ハスモンヨトウ	7/29	近江八幡市安土町上豊浦	ハダニ類	6/10	草津市下笠町		
オオタバコガ	-							
ダイコン	ハダニ類	6/11	彦根市松原町					
	アブラムシ類	-						

注：巡回調査において、複数種を調査対象としているものや種同定が困難なものは「～類」とした。なお、指定有害動植物は網掛けで示した。  
注：「-」は発生が認められなかった。

### (イ) 予察灯、フェロモントラップおよび黄色水盤

害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	4/8	近江八幡市安土町大中（黄色水盤）
ヨトウガ	5/19	近江八幡市安土町大中（P T）
ハスモンヨトウ	5/14	近江八幡市安土町大中（P T）
シロイチモジヨトウ	4/11	近江八幡市安土町大中（P T）
タバコガ	5/8	近江八幡市安土町大中（P T）
オオタバコガ	4/16	近江八幡市安土町大中（P T）
カブラヤガ	4/8	近江八幡市安土町大中（P T）
シロオビノメイガ	4/26	高島市今津町日置前（予察灯）
コナガ	4/1	長浜市難波（予察灯）

初発見場所（ ）内記号P T：フェロモントラップ

## オ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
トマト	16	疫病	0	0	0	1	1	6.3	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		葉かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		すすかび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		黄化葉巻病	0	0	0	1	1	6	0	1	1
		アザミウマ類	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		オオタバコガ	0	0	1	5	6	37.5	6.3	2	4
		コナジラミ類	0	0	0	2	2	12.5	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
ナス	22	うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		すすかび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アザミウマ類	0	0	1	6	7	31.8	4.5	14	28
		オオタバコガ	0	0	1	8	9	40.9	4.5	7	14
		ヨトウガ	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	22.7	0	6	12
		ハダニ類	0	0	0	8	8	36.4	0	12	24
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	9.1	0	5	5
ニジュウヤホシテントウ類	0	0	1	10	11	50.0	4.5	7	7		
キュウリ	9	べと病	0	0	0	2	2	22.2	0	2	2
		炭そ病	0	0	0	2	2	22.2	0	1	1
		うどんこ病	0	0	0	3	3	33.3	0	2	2
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	0.0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0.0	0	2	2
		褐斑病	0	0	0	1	1	11.1	0	1	1
		アザミウマ類	0	0	0	3	3	33.3	0	5	5
		ハダニ類	0	0	0	2	2	22.2	0	2	2
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	33.3	0	5	10
コナジラミ類	0	0	0	1	1	11.1	0	1	1		
ダイコン	36	アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	13	23
		ハイマダラノメイガ	0	0	4	15	19	52.8	11.1	20	35
ハクサイ	89	軟腐病	0	0	0	0	0	0	0	10	10
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	40	80
		モンシロチョウ	0	0	0	0	0	0	0	60	120
春キャベツ	26	アブラムシ類	0	0	0	5	5	19.2	0	10	10
		モンシロチョウ	0	0	1	10	11	42.3	3.8	10	20
		コナガ	0	0	0	3	3	11.5	0	10	20
		ヨトウガ	0	0	0	0	0	0	0	10	20
冬キャベツ	241	黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		菌核病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		軟腐病	0	0	0	0	0	0	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	120	120
		モンシロチョウ	0	0	0	50	50	20.7	0	120	240
		コナガ	0	0	0	40	40	16.6	0	120	240
		ヨトウガ	0	0	0	10	10	4.1	0	120	240
		オオタバコガ	0	0	3	80	83	34.4	1.2	120	240
		ハスモンヨトウ	0	0	5	80	85	35.3	2.1	120	240
ハイマダラノメイガ	0	0	2	60	62	25.7	0.8	120	240		
ブロッコリー	94	黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	5	5
		コナガ	0	0	0	15	15	16.0	0	50	100
		ハスモンヨトウ	0	0	2	30	32	34.0	2.1	50	100
タマネギ	100	白色疫病	0	0	0	0	0	0	0	48	144
		べと病	0	0	5	40	45	45.0	5.0	100	300
		アザミウマ類	0	0	0	30	30	30.0	0	60	60
ネギ	120	さび病	0	0	0	0	0	0	0	40	60
		黒斑病	0	0	0	0	0	0	0	40	60
		べと病	0	0	0	0	0	0	0	40	60
		シロイチモジヨトウ	0	0	0	3	3	2.5	0	20	20
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	0	0	30	40
		ネギハモグリバエ	0	0	0	75	75	62.5	0	70	140
		ネギアザミウマ	0	0	0	40	40	33.3	0	70	140
ネギコガ	0	0	0	0	0	0	0	70	140		
サトイモ	23	アブラムシ類	0	0	0	9	9	39.1	0	4	4
		ハスモンヨトウ	0	0	0	10	10	43.5	0	5	5
		ハダニ類	0	0	0	2	2	8.7	0	3	3

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) ×100  
 指定有害動植物は網掛けで示した。

## 6 果樹等作物病害虫発生予察事業

ナシなどの主要果樹、チャおよび花き（キク）について、主要病害虫を対象とした重点調査の結果などに基づき、病害虫発生予報を10回、発生予察情報として注意報2回（オオタバコガ：花き類1回、ハスモンヨトウ：花き類1回）、防除情報3回（ハスモンヨトウ：花き類1回、ハイマダラノメイガ：花き類1回、果樹カメムシ類：果樹1回）、特殊報2回（クビアカツヤカミキリ：果樹1回、チュウゴクアミガサハゴロモ：果樹、花き類、チャ1回）を発表した。

### (1) 果樹

#### ア 生育概況

##### (ア) ナシ

3、4月の気温は平年並で推移したが、一時的に気温が冷え込んだことから、開花盛期は平年よりやや遅かった。

開花期以降は、降雨が少なく温暖な日が続いたため、結実は良好であった。

梅雨明けが早く、7月の降水量が平年よりも非常に少なかったことから果実は小玉傾向であった。生育は平年並みであったものの、収穫時期は平年よりもやや遅かった。

8月以降は高温少雨の影響から水浸果、コルク障害果等の高温障害の発生がみられた。また、ハダニ類の発生が多かった。

##### (イ) ブドウ

3、4月の気温は平年並で推移したが、一時的に気温が冷え込んだことから、展葉期および開花盛期は平年よりやや遅かった。その後、気温が高く日照時間も長かったことから、日焼け果等の高温障害がみられた。また、7月中旬以降気温も高く、日照時間が例年よりも長かったことから、収穫期は平年よりもやや早く、着色も良好であった。

##### (ウ) カキ

3、4月の気温は平年並で推移したが、一時的に気温が冷え込んだことから、展葉期および開花盛期は平年よりやや遅かった。

8月以降気温が高く推移したことから、日焼け果等の高温障害がみられた。

9月の降水量が少なかったことから小玉傾向であった。

10月の気温が平年より高かったことから、着色が遅れ、収穫期が平年よりやや遅くなった。10月以降に果樹カメムシ類の被害果が発生し、被害が多い園もあった。また、ヤガ類について、特に早生品種で被害が多かった。

## イ 発生状況

### (ア) ナシ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ナシ	黒星病	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。6月中旬～下旬に降水量が多かったが、晴れ間が定期的により適切に防除できたこと、7月下旬から降雨日数が少なく、高温に推移したことから発生量はやや少となった。	開花期から梅雨明けまでの薬剤防除。秋季防除の徹底、落葉、被害果の園外処分。
	ナシヒメシクイ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。適期防除の実施により、被害果率はやや少となった。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
	チャバネアオカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、予察灯での誘殺数は8月下旬～10月上旬に平年並まで上がったものの、それ以外の期間はやや少の誘殺数となった。フェロモントラップでの誘殺数はおおむねやや少の誘殺数で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	ツヤアオカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、予察灯での誘殺数は10月第2半旬に平年並まで上がったものの、それ以外の期間はやや少の誘殺数となった。フェロモントラップでの誘殺数は調査期間通してやや少の誘殺数で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	クサギカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、フェロモントラップおよび予察灯ともに誘殺数はやや少であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	アブラムシ類	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。4月から6月にかけての気温が平年並で推移したことから発生量は平年並となった。	展葉期、新梢新梢期に発生に応じた薬剤防除。
	ハダニ類	並	やや多	発生時期は平年並、発生量はやや多であった。	発生時期は平年並で、6月下旬以降気温が高く推移し、降水量も少なかったことから発生量はやや多となった。	発生初期の薬剤防除。薬剤のローテーション散布。

### (イ) ブドウ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ブドウ	べと病	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	ブドウの生育は平年並であったことから、発生時期は平年並となった。7月以降の降水量は平年より少なかったことから、発生量はやや少となった。	雨除け被覆。初発時の薬剤防除。落葉の園外処分。
	灰色かび病	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	ブドウの生育は平年並であったことから、発生時期は平年並となった。5月下旬の降水量は平年並であったことから、開花前の発生花穂率は平年並となった。	花かす落しと土の勵行。開花前と落花直後の薬剤防除。発病果の摘粒。新梢管理による過繁茂防止。
	晩腐病	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	ブドウの生育は平年並であったことから、発生時期は平年並となった。7月以降の降水量は平年並であったことから、発生量は平年並となった。	巻きひげ除去。発芽前、幼果期の薬剤防除。雨よけ被覆。袋かけの実施。発病果の摘粒。
	チャバネアオカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、予察灯での誘殺数は8月下旬～10月上旬に平年並まで上がったものの、それ以外の期間はやや少の誘殺数となった。フェロモントラップでの誘殺数はおおむねやや少の誘殺数で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	ツヤアオカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、予察灯での誘殺数は10月第2半旬に平年並まで上がったものの、それ以外の期間はやや少の誘殺数となった。フェロモントラップでの誘殺数はやや少の誘殺数で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	クサギカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、フェロモントラップおよび予察灯ともに誘殺数はやや少であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	チャノキイロアザミウマ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	ブドウの生育は平年並であったことから、発生時期は平年並となった。幼果期における適期防除の実施により発生量は平年並となった。	幼果期の薬剤防除。粗皮削り。袋かけ。

### (ウ) カキ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カキ	炭疽病	並	並	新梢での発生量は平年並、9月以降果実での発生量はやや少に推移した。	6月中旬以降雨量が多かったが、適期防除の実施により、新梢での発生量は平年並で、その後降雨量が少なかったため、9月以降の果実での発生量はやや少となった。	新梢の過繁茂防止。発病枝や発病果の除去。薬剤防除。
	カキクダアザミウマ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。6月～8月にかけて平均気温は高かったが、適期防除の実施により発生量は平年並であった。	軽微な被害葉が見え始めた頃の薬剤による防除。被害葉の処分。粗皮削り。
	カキノヘタムシガ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。成虫の発生量は平年並で、適期防除の実施により被害果率は平年並となった。	満開10日後および成虫発生盛期の薬剤防除。粗皮削り。
	フジコナカイガラムシ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並となった。適期防除の実施により発生量は平年並となった。	薬剤防除。粗皮削り。
	チャバネアオカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、予察灯での誘殺数は8月下旬～10月上旬に平年並まで上がったものの、それ以外の期間はやや少の誘殺数となった。フェロモントラップでの誘殺数はおおむねやや少の誘殺数で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	ツヤアオカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、予察灯での誘殺数は10月第2半旬に平年並まで上がったものの、それ以外の期間はやや少の誘殺数となった。フェロモントラップでの誘殺数は調査期間通してやや少の誘殺数で推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。
	クサギカメムシ	並	やや少	発生時期は平年並、発生量はやや少であった。	発生時期は平年並で、フェロモントラップおよび予察灯ともに誘殺数はやや少であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。予察調査に応じた防除情報の発信。

## ウ 予察灯、フェロモントラップおよびほ場における調査

### (ア) 予察灯による調査

カメムシ類半旬別誘殺状況 (栗東市荒張、100W高圧水銀灯) (頭)

月	半旬	チャバネアオカメムシ				ツヤアオカメムシ				クサギカメムシ			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	4	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0
	5	1	1	0.4	1	0	0	0.2	0	0	0	0.3	0
	6	0	1	1.3	2	0	0	2.3	3	0	0	0.2	1
5	1	0	1	3.8	6	0	0	4.5	7	0	0	0.1	1
	2	0	1	3.5	9	0	0	8.9	16	0	0	0.1	1
	3	0	1	17.4	27	1	1	18.5	35	0	0	0.1	1
	4	7	8	57.3	84	9	10	21.5	56	0	0	1.0	2
	5	11	19	49.7	134	2	12	62.9	119	0	0	0.9	3
	6	0	19	33.4	167	1	13	34.6	154	0	0	1.4	4
6	1	1	20	27.2	194	1	14	24.2	178	0	0	1.3	5
	2	1	21	31.1	225	2	16	40.1	218	0	0	2.0	7
	3	11	32	47.1	272	10	26	109.1	327	0	0	1.9	9
	4	46	78	38.2	311	20	46	201.9	529	0	0	3.8	13
	5	18	96	88.0	399	15	61	210.0	739	0	0	10.3	23
	6	8	104	147.7	546	11	72	211.4	950	1	1	19.1	43
7	1	5	109	233.7	780	9	81	149.7	1100	3	4	19.5	62
	2	10	119	217.9	998	25	106	90.5	1190	3	7	29.3	91
	3	7	126	211.2	1209	9	115	60.5	1251	0	7	24.0	115
	4	1	127	305.4	1514	16	131	86.6	1338	2	9	25.7	141
	5	6	133	228.3	1743	6	137	100.6	1438	3	12	64.8	206
	6	11	144	281.3	2024	18	155	168.5	1607	4	16	87.4	293
8	1	18	162	224.8	2249	28	183	107.2	1714	8	24	53.0	346
	2	20	182	271.8	2521	40	223	173.1	1887	3	27	60.1	406
	3	17	199	217.0	2738	43	266	293.0	2180	7	34	44.0	450
	4	22	221	165.5	2903	12	278	117.0	2297	13	47	38.9	489
	5	56	277	134.4	3038	45	323	40.9	2338	22	69	26.2	515
	6	140	417	163.0	3201	30	353	66.7	2405	23	92	24.9	540
9	1	217	634	140.7	3341	38	391	42.2	2447	21	113	7.0	547
	2	187	821	147.1	3488	36	427	53.3	2500	4	117	4.1	551
	3	183	1004	116.4	3605	46	473	78.9	2579	9	126	3.6	555
	4	177	1181	177.0	3782	75	548	117.4	2696	9	135	1.5	557
	5	206	1387	94.4	3876	119	667	110.2	2807	2	137	2.1	559
	6	302	1689	281.0	4157	102	769	390.4	3197	1	138	3.0	562
10	1	222	1911	102.0	4259	179	948	258.4	3455	1	139	1.7	563
	2	323	2234	51.0	4310	310	1258	194.1	3649	4	143	1.9	565
	3	63	2297	43.4	4354	129	1387	201.0	3850	1	144	1.0	566
	4	33	2330	30.0	4384	147	1534	115.3	3966	1	145	0.3	567
	5	0	2330	9.0	4393	17	1551	39.9	4006	0	145	0.0	567
	6	0	2330	2.2	4395	39	1590	13.6	4019	0	145	0.3	567

※平年値はH27～R6の10年間の平均値。

## (イ) フェロモントラップによる調査

フェロモントラップ半旬別誘殺状況 (栗東市荒張)

(頭)

月	半旬	果樹カメムシ類						ナシヒメシンクイ	
		チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ		本年	平年
		本年	平年	本年	平年	本年	平年		
4	1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.6
	2	0	0.7	0	0.0	0	0.2	0	1.8
	3	0	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.6
	4	0	0.8	0	0.0	0	0.0	0	1.1
	5	1	3.9	0	0.3	0	0.1	0	1.3
	6	0	3.5	0	0.2	0	0.1	0	1.1
5	1	1	26.1	0	1.8	0	0.3	1	1.1
	2	0	13.3	1	3.5	0	0.0	0	0.6
	3	5	42.8	0	8.5	0	0.4	0	0.2
	4	12	82.9	1	6.2	0	1.3	0	0.0
	5	8	37.1	5	13.8	0	1.3	0	0.0
	6	5	56.6	0	22.1	0	2.8	0	0.1
6	1	2	58.8	0	24.2	0	2.6	0	0.2
	2	14	21.1	3	5.5	0	1.1	0	0.5
	3	1	39.3	1	1.6	0	0.9	0	0.2
	4	73	48.0	1	1.5	0	0.3	0	0.3
	5	30	177.9	0	2.4	0	1.2	0	0.4
	6	12	370.9	0	2.2	0	1.4	0	0.4
7	1	18	367.7	0	3.0	0	1.1	0	0.5
	2	6	280.1	0	1.9	0	2.7	0	0.2
	3	0	532.2	1	2.0	0	2.7	0	0.6
	4	1	426.6	0	2.4	0	2.2	1	1.2
	5	0	264.8	0	5.3	0	3.3	0	0.9
	6	0	601.1	0	18.7	0	3.7	0	0.5
8	1	0	412.5	0	11.4	0	0.8	0	0.8
	2	0	188.4	0	6.0	0	0.1	0	0.7
	3	0	184.8	0	9.2	0	0.4	0	0.7
	4	0	65.5	0	2.1	0	0.1	0	0.6
	5	2	69.7	2	10.5	0	0.2	0	0.3
	6	3	64.3	0	6.5	0	0.0	0	0.4
9	1	4	46.4	0	5.9	0	0.0	0	0.6
	2	66	23.7	0	6.3	0	0.0	0	0.9
	3	32	11.2	0	2.7	0	0.0	0	0.6
	4	15	11.0	0	5.2	0	0.0	0	0.3
	5	0	19.2	0	17.2	0	0.1	0	0.2
	6	10	17.8	3	27.0	0	0.2	0	0.1
10	1	14	22.6	15	23.6	0	0.4	-	-
	2	12	14.2	10	45.9	0	0.3	-	-
	3	2	23.6	2	54.8	0	0.6	-	-
	4	0	10.7	0	51.4	0	0.3	-	-
	5	0	4.0	0	34.1	0	0.4	-	-
	6	0	1.8	1	8.6	0	0.3	-	-

※平年値はH27～R6の10年間の平均値。ナシヒメシンクイの調査期間は4月～9月。

(ウ) 現地ほ場における発生調査

a ナシ

月	黒星病 (発病果率%)				アブラムシ類 (寄生新梢率%)				ハダニ類 (寄生葉率%)			
	東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	0	1.6	0	0	0	4.2	1.1	4.8	0	0	0	0.2
6	0	1.2	0	0	0	1.1	0	1.4	0.3	1.9	5.7	0.8
7	0	2.3	0	0	0	0	0	0.1	0	1.5	0	3.1
8	0	8.2	0	0.2	-	-	-	-	0	1.3	0	0.6

※平年値：H27～R6の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

b ブドウ

月	べと病 (葉の発病度)				灰色かび病 (発病房率%)				晩腐病 (発病房率%)				チャノキイロアザミウマ (果房の被害度)			
	東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	0	0.2	0	0.2	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0.0
7	6.0	3.0	1.2	6.2	0	0	0	0	0	-	0	-	0	0.1	0	0.2
8	2.3	7.2	5.5	13.1	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H27～R6の10年間の平均値。

※本年の「-」は調査期間外または未調査。平年の「-」はデータ数が少ないため未記入とした。

c カキ

月	炭疽病 (発病果率%)				カキクダアザミウマ (被害度)				カキノヘタムシガ (100葉あたり成虫数)				フジコナカイガラムシ (寄生新梢率%)			
	東近江市 鯉江町		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	0.1	0.2	0	0.4	0	0	0	0	-	-	-	-
6	-	-	-	-	0	0.2	0	0.3	0	0.1	0	0	0	0	0	0
7	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.1	0	0	0	0.5	0	0
8	0	0.5	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0
9	0	1.6	1.7	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H27～R6の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

## エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					発生面積 率(%)	被害面積 率(%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ナシ	46	黒星病	0	0	3	10	13	28.3	6.5	* 46	* 414
		ナシヒメシンクイ	0	0	2	3	5	10.9	4.3	* 46	* 276
		ナミハダニ	0	0	5	9	14	29.3	10.9	* 46	* 115
		カンザワハダニ	0	1	5	8	14	29.3	13.0	* 46	* 115
		クサギカメムシ	0	0	0	2	2	4.3	0.0	* 46	* 46
		チャバネアオカメムシ	0	0	2	3	5	10.9	4.3	* 46	* 46
		ツヤアオカメムシ	0	0	1	3	4	8.7	2.2	* 46	* 46
		アブラムシ類	0	0	3	14	17	37.0	6.5	* 46	* 138
ブドウ	52	晩腐病	0	0	1	8	9	17.3	1.9	* 52	* 104
		べと病	0	0	5	8	13	25.0	9.6	* 52	* 156
		灰色かび病	0	0	1	7	8	15.4	1.9	* 52	* 104
		チャノキイロアザミウマ	0	0	2	7	9	17.3	3.8	* 52	* 104
カキ	153	炭そ病	0	0	3	20	23	15.0	2.0	* 34	* 68
		カキノヘタムシガ	0	0	3	17	20	13.1	2.0	* 34	* 136
		フジコナカイガラムシ	0	0	0	4	4	2.6	0.0	* 34	* 68
		クサギカメムシ	0	0	2	15	17	11.1	1.3	* 34	* 51
		チャバネアオカメムシ	0	0	6	20	26	17.0	3.9	* 34	* 51
		ツヤアオカメムシ	0	0	5	18	23	15.0	3.3	* 34	* 51
		カキクダアザミウマ	0	0	0	2	2	1.3	0.0	* 34	* 34

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)×100

※防除面積の「\*」は同時防除含む。

## (2) チャ

### ア 生育状況

3月の気温は平年並からやや高く推移したが、中旬の気温が平年並で推移したため新芽の動き出しはやや緩慢となった。このため、一番茶萌芽期は早まらず、前年より1日遅く、前5か年平均より3日遅い4月7日となった。

その後、4月中下旬の気温が平年よりやや高く推移したものの、夜間に冷え込むことが多く、降水量が少なかったため、新芽の生育は平年並となった。

一番茶摘採日が前5か年平均に比べ2日遅かった（5月8日）ものの、以後の平均気温が平年より高く推移する期間が多かったため生育が早まるものと予想されたが、生育は早まらず、二番茶摘採日は前年より6日、前5か年平均より3日遅い6月30日となった。また、一番茶摘採日から二番茶摘採日までの日数は、前5か年平均より1日長い53日であった。

二番茶摘採後の平均気温は平年より高く推移した。降水量は8月および9月で平年より少なくなったが、7月および10月は平年並で推移したため、三番茶および秋芽の生育は順調であった。

### イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
炭疽病	平年並	やや少	7月中旬から発生が認められ、発生量は期間を通じてやや少～平年並で推移した。	感染源となる前年の発生量は平年並であったが、開葉期の降水量が少なかったことから発生量はやや少なく推移した。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
もち病	平年並	やや少	発生量は期間を通じてやや少なかった。	感染源となる前年の発生量は平年並で、期間を通じて気温が高かったことから発生量はやや少となった。	常発地では薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
輪斑病	平年並	やや少	発生量は11月中旬でやや多く、その他の時期はやや少～平年並で推移した。	感染源となる前年の新梢枯死症の発生量は平年並であったが、7月下旬～8月の降水量が少なかったことから発生量はやや少なく推移した。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
新梢枯死症	平年並	平年並	8月上旬に発生が確認され、発生量は期間を通じてやや少～平年並で推移した。	感染源の輪斑病の発生量はやや少なかったが、7月中旬の降雨が平年並～やや多かったことから発生量は平年並となった。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
チャノコカクモンハマキ	平年並	やや少	発生時期は第1世代～第2世代でやや早く、その他の世代は平年並であった。発生量は期間を通じてやや少～平年並で推移した。	前年最終世代の発生量がやや少なかったことから越冬世代の発生量はやや少なかった。二番茶摘採後に防除が実施されたことから第2世代以降の発生量はやや少なく推移した。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
チャハマキ	平年並	平年並	発生量は期間を通じて平年並であった。	チャノコカクモンハマキの発生によって防除が適宜行われたことから、発生量は平年並で推移した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除が実施された。
チャノホソガ	平年並	少	発生時期は平年並であった。発生量は第2世代および第3世代以降で少なく、その他の世代でやや少なかった。	前年度最終世代の発生量がやや少なかったことから年間を通じて発生量は少なかった。	二番茶、秋番茶の摘採前を中心に薬剤による防除が実施された。
チャノミドリヒメヨコバイ	平年並	平年並	発生量は5月～7月中旬でやや多～多で推移し、その他の時期はやや少～平年並で推移した。	5月～7月に気温が高い日が多かったことから発生量は増加した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
カンザワハダニ	平年並	平年並	発生量は7月中旬～8月中旬はやや多～多で推移し、その他の時期でやや少～平年並で推移した。	越冬ダニの発生量がやや少～平年並であったが、7月下旬～8月の降水量が少なかったため7月～8月中旬の発生量が増加した。	発生に応じて薬剤防除が実施された。
チャノキイロアザミウマ	平年並	やや少	発生量は期間を通じてやや少～平年並で推移した。	6月の降水量がやや多かったことから発生量はやや少～平年並で推移した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
ツماغロアオカスミカメ	やや早	平年並	発生時期はやや早く、発生量は平年並であった。	一番茶の萌芽期がやや早かったことから、発生時期はやや早かった。	一番茶の萌芽期～開葉期に薬剤防除が実施された。
クワシロカイガラムシ	やや遅	やや少	発生量は期間を通じてやや少～平年並で推移した。	越冬世代の発生量がやや少なく、5月下旬～6月上旬の降水量がやや多かったため、第1世代の発生量はやや少～平年並で推移した。第2世代以降の発生量は、通期防除の実施によりやや少～平年並で推移した。	発生園では主に第2世代幼虫ふ化期に薬剤防除が実施された。
チャトゲコナジラミ	平年並	少	発生時期は全世代で平年並であった。発生量は期間を通じて少なかった。	前年の発生量が少なかったことから本年も期間を通じて発生量が少なかった。	発生園では、防除適期である若齢幼虫期に薬剤防除が実施された。また、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種防除が実施された。

## ウ 予察灯・フェロモントラップ・ほ場における調査

### (ア) 予察灯（水盤）・フェロモントラップにおける調査

チャノコカクモンハマキ・チャハマキ・チャノホソガ 半旬別誘殺状況（甲賀市水口町）  
（頭）

月	半旬	チャノコカクモンハマキ						チャハマキ						チャノホソガ			
		予察灯			フェロモン トラップ			予察灯			フェロモン トラップ			予察灯		フェロモン トラップ	
		本年			平年	本年	平年	本年			平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
		♀	♂	計				♀	♂	計							
4	1	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3	6	164
	2	0	0	0	0	2	44	0	0	0	0	0	0	0	4	86	293
	3	0	0	0	3	0	90	0	0	0	1	1	3	0	28	71	342
	4	0	1	1	32	24	325	0	1	1	1	4	7	2	4	220	125
	5	4	6	10	10	139	320	1	0	1	1	11	8	4	6	20	91
	6	7	14	21	68	252	555	0	0	0	0	8	9	0	5	16	40
5	1	0	1	1	156	110	424	0	0	0	1	10	7	1	3	13	25
	2	3	6	9	64	209	314	0	0	0	0	13	9	0	1	10	10
	3	1	27	28	23	176	135	0	0	0	1	8	6	0	0	8	6
	4	1	5	6	11	75	52	0	1	1	1	8	8	0	0	1	2
	5	0	0	0	3	18	17	0	0	0	1	20	9	0	1	0	48
	6	0	0	0	1	12	4	0	0	0	1	1	10	0	59	176	1089
6	1	0	0	0	1	4	0	0	0	1	5	7	4	68	869	1671	
	2	0	1	1	2	2	19	0	0	0	0	5	2	7	71	1551	2981
	3	0	1	1	82	12	179	0	0	0	1	8	4	0	30	691	1897
	4	17	32	49	51	522	277	0	1	1	0	14	4	0	5	493	867
	5	25	116	141	78	280	389	0	0	0	1	6	5	0	2	220	399
	6	9	59	68	66	149	229	0	0	0	1	3	5	0	1	28	193
7	1	7	26	33	31	85	120	0	0	0	0	8	5	0	10	31	487
	2	1	17	18	28	10	46	0	0	0	0	6	4	0	18	270	1197
	3	0	1	1	4	4	7	0	0	0	1	0	5	0	16	224	1288
	4	0	1	1	3	18	10	0	0	0	0	0	8	0	12	268	1053
	5	2	24	26	4	64	38	0	0	0	1	0	3	0	3	84	601
	6	2	32	34	28	73	46	0	0	0	0	0	5	0	2	62	370
8	1	0	9	9	30	16	63	0	0	0	0	0	2	0	2	12	273
	2	0	7	7	21	7	35	0	0	0	0	0	2	0	8	8	689
	3	0	5	5	15	2	23	0	0	0	0	0	1	0	11	6	797
	4	0	2	2	22	2	13	0	0	0	0	0	2	0	5	0	812
	5	0	2	2	11	0	8	0	0	0	0	5	1	0	4	4	417
	6	0	12	12	6	4	22	0	0	0	0	1	2	0	1	3	311
9	1	0	4	4	4	15	45	0	0	0	0	0	2	0	1	10	220
	2	0	6	6	16	23	56	0	0	0	0	1	2	0	2	12	471
	3	1	9	10	34	19	90	0	0	0	0	0	2	0	12	10	466
	4	0	7	7	37	31	122	0	1	1	1	5	3	0	3	8	459
	5	0	7	7	72	80	139	0	0	0	0	7	3	0	4	6	398
	6	0	14	14	97	68	89	1	1	2	0	11	4	0	3	10	299
10	1	0	3	3	8	46	38	0	1	1	1	1	4	0	1	4	158
	2	1	3	4	4	35	35	0	1	1	1	2	6	0	1	45	131
	3	2	3	5	1	36	19	0	0	0	1	3	9	0	2	31	104
	4	0	2	2	5	28	26	0	0	0	0	4	12	0	4	22	121
	5	0	1	1	1	31	21	0	0	0	0	7	10	0	1	7	154
	6	0	0	0	0	46	28	0	0	0	0	9	9	0	4	7	150
11	1	0	0	0	1	18	15	0	0	0	1	3	6	0	2	1	185
	2	0	0	0	1	1	20	0	0	0	0	3	6	0	1	2	132
	3	0	0	0	0	0	25	0	1	1	0	2	3	0	0	2	146
	4	0	0	0	1	5	22	0	0	0	0	0	2	0	1	1	114
	5	0	0	0	0	3	14	0	0	0	0	0	1	0	1	0	103
	6	0	0	0	1	1	11	0	0	0	0	1	1	0	2	1	109

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

チャノココクモンハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	4月18日	4月15日	6月6日	6月11日	7月18日	7月22日	8月22日	9月4日
最盛日（月日）	5月13日	5月4日	6月24日	6月23日	7月25日	8月5日	8月26日	9月24日
最盛半旬（月-半旬）	5-3	5-1	6-5	6-5	7-6	8-1	9-6	9-5
50%誘殺日（月日）	5月8日	5月4日	6月24日	6月24日	7月27日	8月6日	9月18日	9月22日
終息日（月日）	5月20日	5月26日	7月11日	7月10日	8月18日	8月26日	10月24日	11月2日
誘殺日数（日）	19	24	28	22	22	27	37	24
誘殺数（頭）	76	372	312	343	84	139	77	304
性比（♂/♀）	3.75	10.53	4.29	16.28	20.00	9.64	18.25	9.08

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

チャハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	4月18日	4月21日	6月20日	7月4日	9月18日	8月19日	9月26日	10月2日
最盛日（月日）	-	5月6日	6月20日	7月13日	9月18日	8月24日	9月26日	10月15日
最盛半旬（月-半旬）	-	5-2	6-4	7-2	9-4	8-5	9-6	10-3
50%誘殺日（月日）	4月23日	5月8日	6月20日	7月14日	9月18日	8月24日	10月2日	10月15日
終息日（月日）	5月16日	5月27日	6月20日	7月23日	9月18日	8月25日	10月10日	10月28日
誘殺日数（日）	3	9	1	4	1	2	3	7
誘殺数（頭）	3	11	1	5	1	2	4	9
性比（♂/♀）	2.00	12.75	-	2.50	-	2.00	3.00	3.83

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

※ 「-」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

チャノホソガ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫		第4世代成虫		第5世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	4月18日	4月5日	6月3日	5月27日	-	7月5日	8月11日	8月10日	-	9月8日	-	10月14日
最盛日（月日）	4月22日	4月19日	6月6日	6月7日	-	7月14日	8月11日	8月18日	-	9月16日	-	10月19日
最盛半旬（月-半旬）	4-5	4-5	6-2	6-2	-	7-3	8-3	8-4	-	9-4	-	10-4
50%誘殺日（月日）	4月22日	4月19日	6月6日	6月7日	-	7月14日	8月11日	8月18日	-	9月12日	-	10月20日
終息日（月日）	5月2日	5月7日	6月8日	6月20日	-	7月25日	8月12日	8月23日	-	9月25日	-	11月7日
誘殺日数（日）	4	12	5	18	-	11	2	8	-	9	-	10
誘殺数（頭）	7	62	11	235	-	62	2	34	-	31	-	27

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

※ 「-」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

(イ) ほ場における調査

a チャノミドリヒメヨコバイ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

たたき落とし虫数 (頭/4カ所合計)

月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.3	0	0	0	0	0	0
2	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
上	0	0.3	0	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-
中	0	0.3	1	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0
下	1	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	0.1	0	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-
中	0	0.1	0	0	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0	0	0
下	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0.1	-	-	-	-	-	-
中	1	0.1	1	0	0	0.2	1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0
下	1	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	1	0.2	1	0	-	-	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-
中	3	1.1	0	0.1	0	0	1	0.4	0	0.2	0	0.1	0	0	0	0.1
下	6	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	2	1.0	1	0.3	-	-	-	-	0	0.4	-	-	-	-	-	-
中	2	1.4	1	1.0	0	1.0	1	0.6	0	1.2	0	0.4	0	0.1	0	0.7
下	0	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	0.4	0	0.8	-	-	-	-	0	0.5	-	-	-	-	-	-
中	1	0.3	0	0.3	1	0.2	0	0	0	0.5	0	0.8	0	0.7	0	0.6
下	0	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	0.4	0	0	-	-	-	-	0	0.8	-	-	-	-	-	-
中	0	0	0	0.2	0	0.6	0	0.1	0	1.0	1	0.2	0	0.1	0	0.7
下	1	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	0	0	1	0	0	0.5	1	0.5	0	0.5	0	0.2	0	0.1	0	0.4
11	0	0	0	0.4	0	0.1	0	0.2	0	0.5	0	0.2	0	0.3	0	0.5
12	0	0.4	0	0	0	0.2	0	0.2	0	0.3	0	0.1	0	0.0	0	0.3

※ 平年値はH27~R6年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

b カンザワハダニ 基準ほ場における発生調査（甲賀市水口町）

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年		
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)	
	成虫	幼虫	卵	合計				
1	0	0	0	0	0	0.00	0.2	
2	0	0	0	0	0	0.01	0.4	
3	上	0	0	0	0	0.01	1.0	
	中	0	0	0	0	0.04	0.8	
	下	0	0	0	0	0	0.54	1.6
4	上	0	0	0	0	0.10	0.4	
	中	0	0	0	0	0	0.49	1.6
	下	0	0	0	0	0	0.41	2.0
5	上	0.04	0	0.40	0.44	2.0	0.48	3.6
	中	0	0	0	0	0	0.46	0.8
	下	0	0	0	0	0	0.14	2.2
6	上	0	0	0	0	0	0.21	3.0
	中	0	0	0	0	0	0.11	1.0
	下	0	0	0	0	0	0	0
7	上	0	0	0	0	0	0.02	0.6
	中	0	0	0	0	0	0.01	0.6
	下	0.04	0.12	0.38	0.54	6.0	0	0
8	上	0.06	0.08	0.10	0.24	4.0	0.01	0.2
	中	0.12	0.34	1.58	2.04	14.0	1.20	6.0
	下	0.18	0.76	0.10	1.04	12.0	0.37	5.8
9	上	0.24	0.32	0.12	0.68	12.0	0.35	3.4
	中	0	0	0	0	0	0.07	1.2
	下	0	0	0	0	0	0.26	3.0
10	0	0	0	0	0	0.16	1.4	
11	0	0	0	0	0	0.05	0.8	
12	0	0	0	0	0	0.00	0.2	

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

※ 寄生葉率は成虫、幼虫、または卵が1頭（卵）以上寄生している葉の割合。

c カンザワハダニ 予察ほにおける発生調査

(a) 甲賀市土山町 市場

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0.00	0.4
3 上	0	0	0	0	0	0.01	0.8
	中	0	0	0	0	0.62	1.6
4 上	0	0	0	0	0	1.68	3.4
	中	0	0	0	0	1.20	3.2
5 上	0	0	0	0	0	0.20	1.6
	中	0	0	0	0	0.72	5.2
6 上	0.02	0.14	0	0.16	2.0	2.24	14.8
	中	0	0	0	0	2.37	11.8
7 上	0.02	0.04	0.20	0.26	4.0	1.45	5.8
	中	0.14	0	0.68	0.82	0.02	0.6
8 上	0.46	1.68	2.52	4.66	22.0	0.07	1.2
	中	0	0	0.10	0.10	0.31	2.6
9 上	0	0	0	0	0	4.02	16.8
	中	0.02	0	0	0.02	1.82	5.8
10	0	0	0	0	0	0.02	0.2
11	0	0	0	0	0	0.00	0.2
12	0	0	0	0	0	0	0

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

(b) 甲賀市信楽町 奥山

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0	0	0	0	0	0.02	0.6
2	0	0	0	0	0	0.01	0.2
3 上	0	0	0	0	0	0.00	0.2
	中	0	0	0	0	0	0
4 上	0	0	0	0	0	0.45	1.0
	中	0	0	0	0	1.35	2.2
5 上	0	0	0	0	0	0.63	2.8
	中	0	0	0	0	0.48	1.6
6 上	0	0	0	0	0	0.50	2.4
	中	0.08	0.06	0.58	0.72	4.0	0.09
7 上	0.06	0	0.34	0.40	6.0	0.00	0.2
	中	0.08	0.32	0.16	0.56	6.0	0.02
8 上	0.04	0.20	0.24	0.48	6.0	0.13	1.8
	中	0.40	1.14	2.18	3.72	18.0	0.24
9 上	0	0	0	0	0	0.46	2.4
	中	0	0	0	0	0.07	0.8
10	0	0	0	0	0	0.50	2.2
11	0	0	0	0	0	0.26	1.8
12	0	0	0	0	0	0.20	1.2

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

d カンザワハダニ 現地ほ場における発生調査

(a) 甲賀市土山町 頓宮

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0.04	0	0	0.04	2.0
6	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0
8	0.12	0.70	3.62	4.44	26.0
9	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(b) 甲賀市土山町 布引

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0	0.02	0.08	0.10	2.0
6	0.08	0	0.48	0.56	6.0
7	0	0	0	0	0
8	0.04	0	0.72	0.76	2.0
9	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(c) 甲賀市信楽町 向山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0.02	0	0.60	0.62	2.0
5	0.10	0.38	1.52	2.00	8.0
6	0.22	0.10	1.00	1.32	12.0
7	0	0	0	0	0
8	0.04	0.18	0.22	0.44	8.0
9	0	0.14	0.28	0.42	2.0
10	0	0.10	0.14	0.24	2.0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(d) 甲賀市信楽町 寺谷

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0
5	0	0	0.24	0.24	2.0
6	0.20	0.04	1.56	1.80	6.0
7	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0
10	0.06	0.46	0.60	1.12	8.0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

(e) 日野町 北山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0
3	0.04	0	0.02	0.06	4.0
4	0.10	0.06	4.08	4.24	12.0
5	0.06	0.02	0.48	0.56	2.0
6	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0

e チャノキイロアザミウマ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

たたき落とし虫数(頭/4カ所合計)

月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	上	0	0.1	0	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	中	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下	0	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	上	0	0.2	0	0	-	-	-	-	0	0.1	-	-	-	-	-
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	下	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	上	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-
	中	0	0	1	0.1	0	0.1	0	1.4	0	0	1	0.1	0	0.1	1
	下	0	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	上	1	2.9	2	1.6	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-	-
	中	0	2.6	0	0.1	0	0.7	0	0.8	0	0.2	0	1.2	0	1.8	0
	下	0	7.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	上	0	4.7	3	4.0	-	-	-	-	4	1.0	-	-	-	-	-
	中	0	3.1	0	8.1	0	5.9	0	4.8	0	0.6	0	5.9	0	4.4	0
	下	3	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	上	1	1.5	4	9.0	-	-	-	-	0	2.4	-	-	-	-	-
	中	0	4.6	0	5.7	2	4.8	0	2.0	0	2.8	0	4.4	1	4.2	1
	下	0	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	上	0	3.5	0	1.5	-	-	-	-	5	3.8	-	-	-	-	-
	中	0	2.0	0	0.2	0	0.6	0	2.8	0	1.1	0	2.0	0	0.1	1
	下	2	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.2	2	0	0	0.1	0	
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12	0	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※ 平年値はH27~R6年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

f クワシロカイガラムシ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

寄生葉株 (%)

月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町		
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	0	30.0	0	8.5	0	9.5	0	14.0	30.0	7.5	0	18.0	0	10.5	0	24.5	
2	0	25.0	0	10.0	0	9.5	0	18.5	25.0	10.5	0	17.0	0	13.5	0	17.5	
3	上	0	25.0	0	9.0	-	-	-	-	40.0	8.0	-	-	-	-	-	
	中	0	29.5	15.0	8.0	0	12.5	25.0	15.0	25.0	10.5	0	13.0	0	6.0	0	14.0
	下	0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	上	0	15.0	0	6.5	-	-	-	-	15.0	6.5	-	-	-	-	-	
	中	15.0	16.5	0	9.0	0	9.5	15.0	4.5	20.0	10.5	0	9.5	0	8.5	0	17.5
	下	5.0	21.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	上	5.0	18.0	0	6.0	-	-	-	-	25.0	7.0	-	-	-	-	-	
	中	5.0	17.5	5.0	6.5	0	9.0	0	3.5	10.0	5.5	0	9.0	0	4.5	0	11.5
	下	5.0	19.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	上	0	19.5	5.0	6.5	-	-	-	-	15.0	9.0	-	-	-	-	-	
	中	0	31.5	0	9.0	0	4.5	0	8.0	40.0	6.5	0	8.5	0	3.5	0	9.0
	下	25.0	21.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7	上	25.0	12.5	15.0	17.5	-	-	-	-	10.0	15.0	-	-	-	-	-	
	中	10.0	23.0	35.0	14.5	10.0	22.0	0	23.0	0	27.0	15	22.0	20.0	24.0	0	27.3
	下	10.0	5.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
8	上	15.0	9.0	10.0	8.3	-	-	-	-	0	21.1	-	-	-	-	-	
	中	30.0	31.1	0	5.0	0	11.7	0	18.9	0	3.9	0	3.9	0	10.6	0	13.9
	下	30.0	23.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
9	上	20.0	16.6	0	15.5	-	-	-	-	0	14.0	-	-	-	-	-	
	中	0	11.5	5.0	12.0	0	24.5	0	29.5	0	23.5	0	29.6	0	30.0	0	32.0
	下	35.0	31.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	20.0	38.9	0	11.1	0	15.0	0	24.4	0	18.9	0	22.2	0	23.3	0	23.3	
11	45.0	38.3	0	8.3	0	14.4	0	17.2	0	15.6	0	10.6	0	11.1	0	15.0	
12	25.0	37.2	0	7.8	0	13.9	0	8.9	0	15.6	0	15.0	0	20.6	0	24.4	

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

g チャトゲコナジラミ 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

寄生率 (%)

月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	2.0	40.0	2.0	42.4	0	22.4	0	19.0	0	13.6	0	18.6	0	27.2	10.0	14.4
2	10.0	32.0	6.0	37.2	0	24.4	0	23.4	0	14.6	0	15.9	0	26.0	6.0	15.0
3	上	6.0	35.8	8.0	35.4	-	-	-	-	0	11.6	-	-	-	-	-
	中	4.0	32.7	0	33.6	6.0	20.2	2.0	21.6	0	9.4	6.0	18.4	10.0	22.4	10.0
	下	2.0	33.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	上	0	30.6	0	31.6	-	-	-	-	0	12.8	-	-	-	-	-
	中	2.0	25.2	2.0	26.4	10.0	17.0	0	15.2	2.0	11.2	16.0	15.6	18.0	16.6	12.0
	下	0	21.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	上	0	15.8	0	25.4	-	-	-	-	4.0	11.2	-	-	-	-	-
	中	0	7.6	6.0	9.0	14.0	4.2	0	5.4	2.0	6.2	22.0	9.6	6.0	12.4	18.0
	下	8.0	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	上	0	8.2	4.0	34.4	-	-	-	-	2.0	7.6	-	-	-	-	-
	中	10.0	30.6	4.0	52.6	8.0	49.0	0	42.6	8.0	17.2	8.0	30.1	34.0	29.8	28.0
	下	16.0	32.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	上	0	22.4	2.0	19.2	-	-	-	-	12.0	19.6	-	-	-	-	-
	中	6.0	15.2	0	25.8	30.0	37.0	0	14.4	2.0	43.2	12.0	35.6	22.0	47.6	44.0
	下	20.0	16.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	上	16.0	23.2	14.0	46.6	-	-	-	-	8.0	31.8	-	-	-	-	-
	中	6.0	15.2	0	21.4	16.0	12.0	0	14.2	4.0	11.8	0	15.2	2.0	12.9	12.0
	下	0	19.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	上	10.0	15.6	0	16.0	-	-	-	-	0	6.6	-	-	-	-	-
	中	10.0	20.8	0	21.2	0	23.0	2.0	5.6	8.0	5.8	2.0	9.6	0	11.6	24.0
	下	4.0	23.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	10.0	30.8	0	33.8	10.0	22.0	0	13.0	0	11.4	0	18.4	12.0	20.2	10.0	9.8
11	18.0	39.6	0	36.8	32.0	29.6	0	23.8	4.0	18.8	2.0	23.6	2.0	27.2	20.0	17.8
12	4.0	32.4	0	28.8	20.0	30.5	0	18.6	14	14.8	2.0	20.8	4.0	29.6	16.0	12.6

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

## h 炭疽病 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町	
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	5.0	0	1.1	0	1.9	0	4.6	6.4	14.6	0	3.5	0	6.1	0	0
2	0	3.7	0	1.3	0	0.2	0	4.5	0	2.6	0	0.8	0	1.4	0	0
上	0	7.8	0	2.1	-	-	-	-	0	1.3	-	-	-	-	-	-
3 中	0	7.4	0	0	0	0.2	0	2.9	0	1.0	0	1.6	0	4.8	0	0
下	0	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	0.5	0	0.2	-	-	-	-	0	1.1	-	-	-	-	-	-
4 中	0	7.5	0	0.3	0	2.7	0	2.5	0	1.0	0	0.5	0	1.7	0	0.2
下	0	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	1.4	0	0.6	-	-	-	-	0	1.8	-	-	-	-	-	-
5 中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0
下	0	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	2.2	0	0.2	-	-	-	-	0	0.3	-	-	-	-	-	-
6 中	0	0.5	0	0	0	0	0	0.3	0	1.6	0	0.5	0	2.1	0	0.3
下	0	2.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	0	7.0	0	0.6	-	-	-	-	0	3.5	-	-	-	-	-	-
7 中	3.2	22.1	0	1.4	0	1.0	1.6	2.2	9.6	2.4	0	2.2	0	2.2	0	0
下	1.6	16.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	1.6	10.7	1.6	1.6	-	-	-	-	11.2	2.6	-	-	-	-	-	-
8 中	1.6	21.2	1.6	0.8	1.6	0.3	4.8	4.6	1.6	3.2	0	1.4	0	7.4	0	0.8
下	0	24.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上	11.2	27.5	0	1.8	-	-	-	-	8.0	5.1	-	-	-	-	-	-
9 中	4.8	32.2	0	0.6	8.0	1.6	1.6	9.6	14.4	13.8	9.6	1.9	0	19.8	0	0.2
下	3.2	45.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	0	34.7	0	1.0	8.0	6.6	0	5.9	8.0	16.0	3.2	2.1	0	9.9	0	0.2
11	0	26.6	0	1.4	0	2.2	0	5.9	4.8	9.6	0	1.6	0	4.8	0	0.2
12	0	15.1	0	2.5	0	0.0	0	8.0	1.6	7.5	0	1.1	0	5.3	0	0

※ 平年値はH27～R6年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

## エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積 (ha)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)		
			甚	多	中	少	計				実防除	延防除	備考
チャ	545	炭疽病	0	15	40	220	275	50.5	55	10.1	275	550	*
		もち病	0	5	10	40	55	10.1	15	2.8	55	110	*
		輪斑病	0	5	10	50	65	11.9	15	2.8	65	65	*
		新梢枯死症	0	5	65	165	235	43.1	70	12.8	235	235	
		チャノコカクモンハマキ	0	5	100	235	340	62.4	105	19.3	340	680	*
		チャハマキ	5	5	50	150	210	38.5	60	11.0	210	420	*
		チャノホソガ	0	10	85	250	345	63.3	95	17.4	345	690	
		チャノミドリヒメヨコバイ	5	20	130	230	385	70.6	155	28.4	385	770	*
		カンザワハダニ	0	15	110	255	380	69.7	125	22.9	380	760	
		チャノキイロアザミウマ	0	5	100	255	360	66.1	105	19.3	360	720	*
		ツマグロアオカスミカメ	0	0	20	55	75	13.8	20	3.7	75	75	
		クワシロカイガラムシ	0	20	90	225	335	61.5	110	20.2	335	670	
チャトゲコナジラミ	0	5	30	120	155	28.4	35	6.4	155	310	*		

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)×100

※防除面積の備考欄「\*」は同時防除を含む

### (3) 花き (キク)

#### ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	-	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	遅	やや多	ほ場での初発確認は8月19日で、発生時期は遅く、発生量はやや多かった。	8月初旬の降水量が多く、侵入が抑制されたが、8月中旬以降高温寡雨となったため、発生量はやや多くなった。	発生初期に薬剤散布が実施されている。
	アザミウマ類	遅	やや少	ほ場での初発確認は7月29日で、発生時期は遅く、発生量はやや少なかった。	8月初旬の降水量が多く、侵入が抑制された。発生初期に適切に防除がされたため、発生量はやや少なかった。	発生初期に薬剤散布が実施されている。

#### イ 発生量調査

調査地点	病害虫名	白さび病	アブラムシ類	アザミウマ類
		発病葉率 (%)	1茎あたり寄生虫数 (頭)	被害葉率 (%)
		7/29~31	7/29~31	7/29~31
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	3
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

#### ウ 初発見日と初発見場所

病害虫名	初発見月日	初発見場所
白さび病	-	-
アブラムシ類	8月19日	野洲市小南
アザミウマ類	7月29日	甲良町下之郷

#### エ 発生および被害面積

対象作物名	栽培面積 (ha)	対象病害虫	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
キク	14	白さび病	0	0	0	0	0	0.0	0	2	4
		アブラムシ類	0	0	0	6	6	42.9	0	10	20
		アザミウマ類	0	0	0	1	1	7.1	0	10	10

被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) × 100

## 7 病害虫防除推進員の設置

県内における病害虫発生予察精度の確保を図るため、平成31年4月に「病害虫防除推進員」を新たに設置した。

令和7年度は、9農業協同組合より53名が選出され、地域における病害虫発生状況の把握に努めるとともに、病害虫防除および農薬安全使用の指導等を行っている。

### (1) 病害虫防除推進員研修会

#### ア 第1回

- 日 時 令和7年6月12日(木) 13時30分～16時00分  
場 所 滋賀県農業技術振興センター大会議室  
研修内容 (講師 病害虫防除所職員)
- (1) 病害虫防除推進員の業務について
  - (2) 主要病害虫の生態と調査のポイント
    - ①病害について
    - ②虫害について
    - ③侵入が警戒される病害虫について
  - (3) 農薬の適正使用について
  - (4) 病害虫防除所ホームページ・しらがメールの活用について

#### イ 第2回

- 日 時 令和8年2月5日(木) 13時30分～16時00分  
場 所 滋賀県農業技術振興センター大会議室  
研修内容
- (1) 大豆を中心としたミナミアオカメムシの生態と防除対策  
講師 農研機構 遠藤 信幸 上級研究員
  - (2) 県内の大豆および水稲のミナミアオカメムシの発生状況と防除試験  
講師 滋賀県病害虫防除所 山口 慧
  - (3) 近年問題となっている病害虫  
講師 滋賀県病害虫防除所 角 大樹

### (2) 病害虫防除推進員に向けた情報の提供

病害虫防除推進員の活動の支援のため、新たに病害虫防除推進員向けの情報を提供した。画像を組み合わせ、病害虫の発生動向、特に注意すべき病害虫や水稲の生育のポイントなどの情報を簡潔にとりまとめ、4～8月に4回、電子メールにて発信した。

## 令和7年度 防除推進員情報 No.1

令和7年4月21日

情報作成 滋賀県病害虫防除所  
近江八幡市安土町大中 516  
TEL 0748-46-4926

### ○今春の麦作

- ・麦類赤かび病の注意報を4月21日に発表しています。
- ・4月中旬以降、雨量は少～並であるものの、気温が高いと予想されており、赤かび病が発生しやすい気象条件になると予想されます。
- ・作付けが増加している「びわほなみ」は赤かび病に感染しやすくリスクは上昇しています。
- ・的確な防除を行ってください。
- ・麦類の生育概況は4月7日に「生育情報 No.5」が発表されています。

(農業技術振興センターのHPへ掲載)



赤かび病の発生状況



矢印の部分に赤色のかびが見られる

### ○令和6年度年報を発行しました

- ・病害虫防除所の年報を作成し、ホームページへ掲載しています。
- ①新たに発生が確認された病害虫 (P. 85)  
メロン退緑黄化病、メロン、キュウリのCABVYVなどの特殊報について。
- ②発生の目立った病害虫 (P. 90～)  
麦の赤かび病、イネのごま葉枯病、イネの縞葉枯病、斑点米カメムシ類の発生状況などを解説しています。  
また、栽培後半から急増した大豆のタバコガ、ハスモンヨトウ発生状況についても解説しています。
- ③試験成績 (P. 138～)  
いもち病のQoI系統薬剤抵抗性検定、イネカメムシの新しい予察方法の検討、麦赤かび病(DON対策)の防除、イネ縞葉枯病の発生要因解析などを掲載しています。

### ○病害虫防除所、農技センターからの情報

ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病害虫防除所  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



滋賀県農業技術振興センター  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/noujicenter/>



## 令和7年度 防除推進員情報 No.2

令和7年6月20日  
 情報作成 滋賀県病害虫防除所  
 近江八幡市安土町大中 516  
 TEL 0748-46-4926

### ○病害虫の発生予報

・6月17日に病害虫発生予報第5号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	葉いもち	やや早	平年並	ナシ	黒星病	-	平年並
	紋枯病	やや早	やや少		ハダニ類	-	平年並
	コバネイナゴ	平年並	やや少	ブドウ	チャノキイロアザミウマ	-	平年並
野菜全般	アブラムシ類	-	平年並	カキ	炭疽病	-	平年並
	ハダニ類	-	平年並		カイガラムシ類	-	平年並
	アザミウマ類	-	平年並		チャノココクモンハマキ(Ⅱ)	やや早	平年並
果樹全般	カメムシ類	-	平年並	チャ	チャハマキ(Ⅱ)	やや早	平年並
					カンザワハダニ	-	平年並

- ・水稲では葉いもちは「平年並」、紋枯病は「やや少」、コバネイナゴは「やや少」と予想しています。  
 これは、葉いもちでは現状は本田で葉いもちの発生は確認できていないものの、BLASTMなどの気象条件を見ると感染しやすい日が見られています。紋枯病は水稲の茎数がやや少ないことから広がりにくいと予想しています。コバネイナゴは調査で現地ほ場を巡回していますが、各地で発生は見られるものの数は少ないです。
- ・果樹では前年発生が多かった「果樹カメムシ類」は平年並を予想しています。果樹のカメムシは各年で発生量が多くなる傾向にありますが、今年は少ない年に当たるため、発生量が少なくなると予想されますが、その一方で局地的に発生が目立つところがあるため、引き続き注意が必要です。

### ○今年の水稲は？

- ・いもち病は、置き苗での発生を確認していますが、割合としては少ないように感じます。例年のいもち病の発生を分析すると6月中、下旬の気温が大きく影響しており、6月15日頃から急激に気温が上昇しているため、発生が広がりやすいと思われるため注意が必要です。
- ・斑点米カメムシ類については定期的な調査はこれからですが、畦畔雑草、特にイタリアンライグラスの出穂しているほ場が散見されます。気温が上昇してくると増殖しやすくなるので畦畔草刈りが重要になります。
- ・全国的には近年増加傾向にあるイネカメムシですが、滋賀県ではこれまでは大津～甲賀地域を中心に見られ、不稔の多く発生するほ場も見られました。
- ・このほか県内では東近江、湖北地域などで点在している状況です。  
 発生が気になる場合には、出穂直後（特に極早生、早生品種）にほ場を見回り、発生を把握してください。



写真 穂を加害するイネカメムシ

## ○今年の大豆は？

### 【ハスモンヨトウ】

- ・昨年、タバコガ類やハスモンヨトウが多くなりました。今年の病害虫防除所のフェロモントラップでは5月末に発生が見られました。今後の推移に注意が必要です。



図 ハスモンヨトウ幼虫

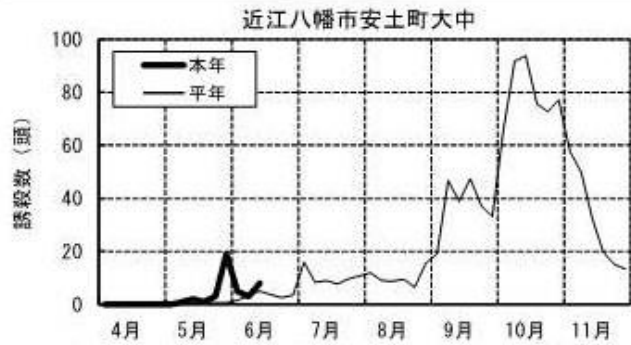


図 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺数

### 【ミナミアオカメムシ】

- ・近年アオサカメムシに似た「ミナミアオカメムシ」の発生が多くなってきています。「ミナミアオカメムシ」は大豆だけではなく、麦、水稻、野菜（キュウリやジャガイモなど）など広く加害し、増殖します。今年の水稲でも発生を確認しており、キュウリなどでも発生を確認していることから注意が必要です。防除については、既存のカメムシ薬剤が良いですが、複数回の防除が必要になると思われます。
- ・さらに、昨年は水稲でもピンポイントで増殖し、坪状に枯れあがった事例が認められました。



図 ミナミアオカメムシ成虫



図 水稲での被害（葉先が枯れあがる）



図 ミナミアオカメムシ幼虫

### ○病害虫防除所、農技センターからの情報

ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病害虫防除所  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



滋賀県農業技術振興センター  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/noujicenter/>



## 令和7年度 防除推進員情報 No.3

令和7年7月18日  
 情報作成 滋賀県病害虫防除所  
 近江八幡市安土町大中 516  
 TEL 0748-46-4926

### ○病害虫の発生予報

・7月8日に病害虫発生予報第6号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	葉いもち	遅	平年並	野菜全般	ハダニ類	-	平年並
	穂いもち	遅	平年並		アザミウマ類	-	やや少
	紋枯病	やや遅	平年並		タバコガ類	-	多
	白葉枯病	平年並	やや少	キク	アブラムシ類	-	やや少
	ニカメイガ(Ⅱ)	早	平年並	果樹全般	カメムシ類	-	やや少
	セジロウンカ	やや遅	平年並	ナシ	黒星病	-	平年並
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並		ナシヒメシンクイ	-	やや少
	ツマグロヨコバイ	やや遅	平年並	ブドウ	べと病	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	平年並	やや多	チャ	輪斑病	-	やや多
	イチモンジセセリ	平年並	平年並		カンザワハダニ	-	やや多
フタオビコヤガ	やや遅	少	チャノミドリヒメヨコバイ		-	やや多	
野菜全般	うどんこ病	-	平年並	チャノキイロアザミウマ	-	やや多	
	アブラムシ類	-	やや少				

- ・水稲では葉いもちは「平年並」、紋枯病は「平年並」、斑点米カメムシ類は「やや多」と予想しています。
- ・葉いもちは、南部などでは各地で発生が見られ、BLASTMで感染しやすい日が見られており、今後の天候次第では増加する可能性があります。紋枯病も現場での発生少なく、水稲の茎数がやや少ないですが、今後、高温が予想されており、増加する可能性があります。斑点米カメムシ類は高温少雨の気象条件であることから増加してくると予想しています。
- ・果樹では前年発生の多かった果樹カメムシ類は「やや少」と減少すると予想しています。
- ・野菜、大豆ではオオタバコガのフェロモントラップでの誘殺数が急増しています。ほ場での発生に注意してください。

### ○今後の水稲は？

- ・いもち病では、早々と梅雨明けし、葉いもちによる被害は少なくなると考えられますが、湖北地域や高島地域などでは葉いもちが少発生であっても出穂期に降雨があると穂いもちの発生が多くなる事例が知られています。引き続き気象の推移にご注意ください。
- ・斑点米カメムシ類については、7月上旬の調査で発生が多いことが確認されました。このため、7月17日注意報を発表しました。引き続きご注意ください。
- ・また、新聞などで「イネカメムシ」が話題になっています。前回の防除推進員情報でもお伝えしましたが、イネカメムシは甲賀～大津地域の一部で発生の多いところがあります。発生が多い場合、不稔になるため被害が大きくなる傾向があります。出穂とともに本田へ飛来しますのでほ場を見回って観察してください。
- ・気象庁からは「長期間の高温に関する近畿地方気象情報」も発表され、しばらくの間高温が続くと予想されています。病害虫防除だけでなく、滋賀県からは「水稲の技術対策情報（臨時号）猛暑対策」が発表されています。この中では、「後期栄養の維持確保」+「適正な水管理」について呼びかけられています。今後の栽培管理にご注意ください。

## ○今年の大豆は？

### 【オオタバコガ・ハスモンヨトウ】

- ・安土町大中のトラップで誘殺数が多くなり、7月14日に注意報を発表しました。昨年もタバコガ類による大豆の被害が多く観察されたことから注意が必要です。また、ハスモンヨトウも増加しています。また、サトイモで、発生も確認しています。今後の推移に注意が必要です。



図 ハスモンヨトウによる大豆の白変葉

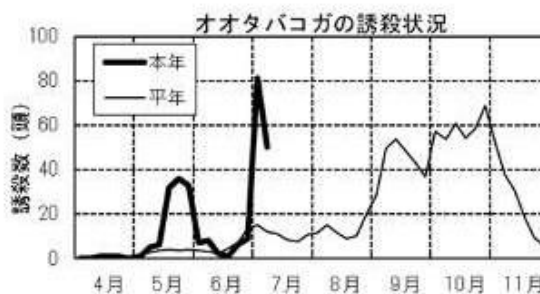


図 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数

例年は株の先端の葉に卵を産み付け、孵化した幼虫が「白変葉」を作るので発生に気が付きやすいですが、昨年のように暑い年では一段低い場所に白変葉を作る傾向にあります。発生に気づきにくい場合がありますので注意が必要です。

### 【ミナミアオカメムシ】

- ・ミナミアオカメムシの発生が多くなってきています。ミナミアオカメムシは麦、水稲、野菜（キュウリやジャガイモなど）など広く加害します。今年の水稲でも発生を確認しており、今年はずでに水稲での葉先枯なども発生を確認しています。特に大豆では幼虫が群れて加害するため、不稔になりやすく減収につながる傾向にあります。



図 ミナミアオカメムシの成虫と幼虫



防除については、既存のカメムシ薬剤で良いですが、複数回の防除が必要になると思われます。ほ場を見回って防除を行いましょう。

### ○クビアカツヤカミキリが確認されました

#### 【外来種のカミキリムシ】

- ・湖北地域の梅園にてクビアカツヤカミキリの成虫を確認しました。
- ・このクビアカツヤカミキリはさくら、うめ、すももなどのバラ科植物を加害します。
- ・詳細については7月17日に発表した特殊報を参照ください。
- ・農地・生産園地で成虫や大量のフラス（幼虫の糞のようなもの）を見かけたら病害虫防除所までご連絡ください。

#### ○病害虫防除所、農技センターからの情報

ホームページ  
にて予報や生  
育状況などの  
情報を公開し  
ています。

滋賀県病害虫防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



滋賀県農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>



## 令和7年度 防除推進員情報 No.4

令和7年8月7日

情報作成 滋賀県病害虫防除所  
近江八幡市安土町大中 516  
TEL 0748-46-4926

### ○病害虫の発生予報

・8月5日に病害虫発生予報第8号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	穂いもち	平年並	やや少	アブラナ科 野菜	コナガ	-	やや多
	紋枯病	-	やや少		ヨトウガ	-	やや少
	白菜枯病	-	やや少		ハイマダラノメイガ	平年並	やや多
	トビイロウンカ	平年並	平年並	キク	アブラムシ類	-	平年並
	ツマグロヨコバイ	-	平年並	果樹全般	カメムシ類	-	やや少
	斑点米カメムシ類	-	多	ナシ	黒星病	-	やや少
	コブノメイガ	-	平年並		炭疽病	-	平年並
ダイズ	べと病	-	やや少		もち病	-	平年並
	吸蜜性カメムシ類	-	やや多		新梢枯死症	-	やや少
	ハスモンヨトウ	平年並	やや多	チャ	カンザウハダニ	-	やや多
	フタスジヒメハムシ	-	平年並		チャノコカクモンハマキ(Ⅲ)	早	平年並
野菜全般	アブラムシ類	-	平年並		チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並
	ハダニ類	-	やや多		チャノキイロアザミウマ	-	平年並
	ハスモンヨトウ	平年並	やや多	クワシロカイガラムシ(Ⅱ)	遅	平年並	
	タバコガ類	-	多	チャトゲコナジラミ(Ⅱ)	やや早	やや少	

- ・水稲では穂いもちは「やや少」、紋枯病は「やや少」、斑点米カメムシ類は「多」と予想しています。葉いもちは、晴れの日が続く、発生が抑制されていますが、現地の調査では各地で発生が見られています。このため、穂いもちは今後の天候次第では増加する可能性があります。紋枯病は発生が少ない状況ですが、「みずかがみ」などでは発生の目立つほ場があります。斑点米カメムシ類は基幹防除が進んでいますが、現地の調査で発生の多いところがあります。
- ・ダイズではハスモンヨトウのトラップ誘殺数が増加傾向で、「やや多」を予想しています。

### ○今後の水稲は？

- ・斑点米カメムシ類は、7月上旬の調査で発生が多く、7月17日注意報を発表しています。8月上旬の調査でも大型のカメムシである「ミナミアオカメムシ」、「イネカメムシ」の発生が多くなっています。これから出穂、開花を迎える中生、晩生品種では特に注意が必要です。このため、8月7日に防除情報第2号を発表しました。
- ・今年の異常な高温を受けて、滋賀県からは「水稲の技術対策情報（臨時号）猛暑対策」が発表されています。この中では、「後期栄養の維持確保」+「適正な水管理」について呼びかけられています。今後の栽培管理にご注意ください。
- ・また、現地ほ場を調査すると、すでに籾が色づいているほ場が見られるようになってきました。今後も高温傾向は続くと思われるので、収穫適期が早くなる場合を想定しましょう。ただし、農薬の収穫前日数がタイトな薬剤がありますので、農薬使用基準にも十分に注意しましょう。

○病害虫防除所、農技センターからの情報  
ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病害虫防除所  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>  
滋賀県農業技術振興センター  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicent>

## 8 滋賀県病害虫防除所ホームページ

予察情報等を広く早く伝達し、画像によるわかりやすい情報を提供するため、平成15年度より開始したインターネットによる情報提供サービスである。

令和7年1月から12月までの利用実績の内訳は以下のとおりであった（表）。総閲覧数は44,375回であり、昨年度と比較して総閲覧数は12,578回増加した（図）。

表 提供情報別閲覧数（回）

ページ名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
表紙	542	462	422	742	906	831	1606	1630	998	896	708	603	10346
病害虫判定シート	142	129	112	268	700	904	1289	1635	838	423	216	184	6839
発生予報	82	43	203	295	464	595	566	506	233	180	77	33	3277
IPM	56	3				26	9						94
警報・注意報・特殊報	5482	1993	2234	2456	1451	1593	1536	1000	793	658	633	633	20462
防除情報	8	20	23	26	27	53	81	760	388	153	104	113	1756
農業扱い													11
田んぼの生きもの		9	1	26	8								44
発生量データ	27		20	43	122	124	277	213	111	137	77	10	1160
BLASTAM					10	124	94	45					286
注目の病害虫						10	63	10					83
診断結果									4	9			13
防除所の概要	3												3
総計	6343	2659	3015	3857	3687	4259	5521	5799	3365	2455	1814	1600	44375

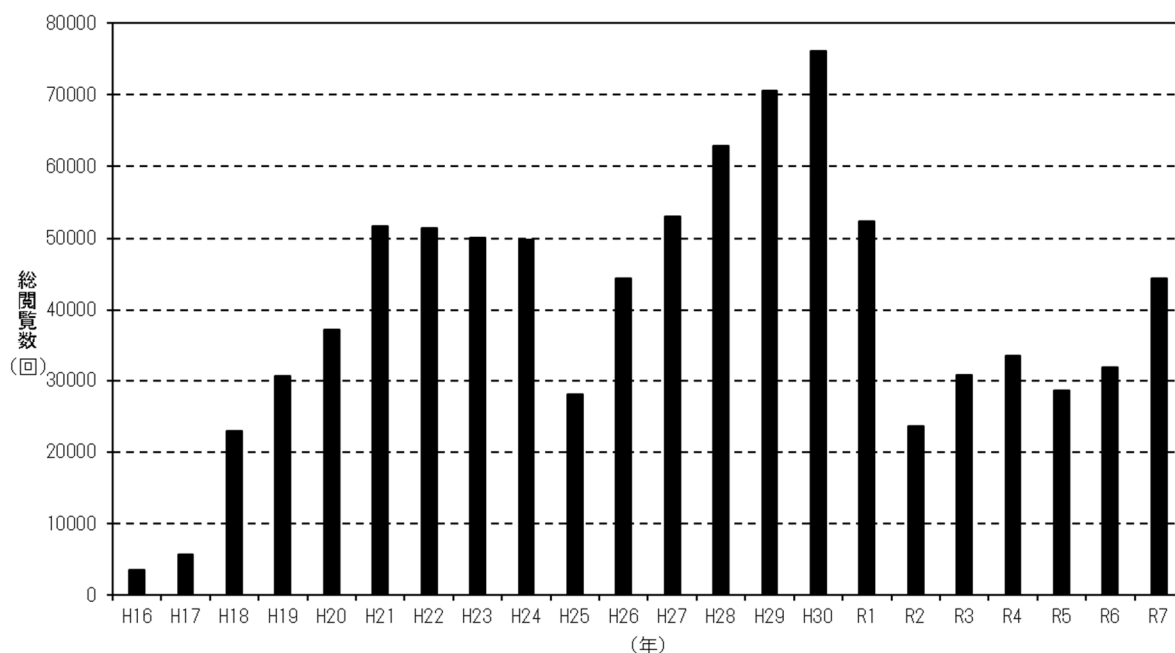


図 滋賀県病害虫防除所のホームページ総閲覧数の年次推移

## 9 本年度新たに発生が確認された病害虫

病害虫名および発生経過は以下のとおりである。

### (1) クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii*

令和7年7月、長浜市のウメ園において、クビアカツヤカミキリと疑われる成虫が確認された(写真1、2)。滋賀県病害虫防除所において成虫の形態的特徴から同定した結果、本県では未発生 of クビアカツヤカミキリであることを確認した。詳細については、令和7年度病害虫発生予察特殊報第1号を参照。

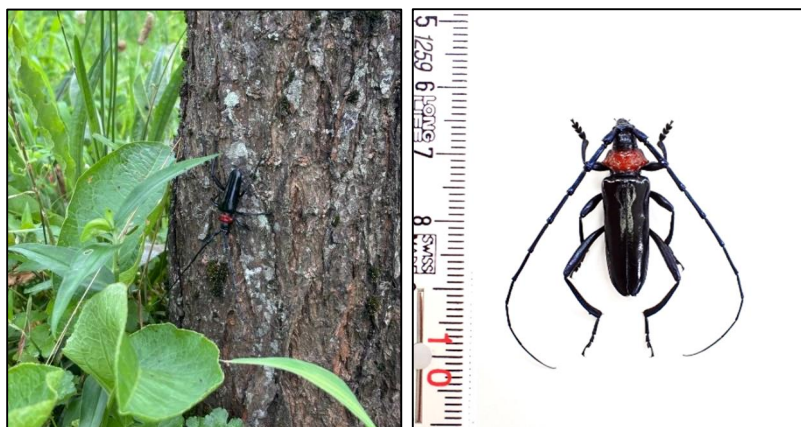


写真1 (右)  
ウメで確認された  
クビアカツヤカミキリ成虫

写真2 (左)  
クビアカ  
ツヤカミキリ雄成虫

### (2) チュウゴクアミガサハゴロモ *Pochazia shantungensis* (Chou&Lu, 1977)

令和7年9月、滋賀県南部のスダチにおいて、チュウゴクアミガサハゴロモと疑われる成虫が確認された(写真3、4、5)。農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、本県では未発生 of チュウゴクアミガサハゴロモであることが確認された。詳細については、令和7年度病害虫発生予察特殊報第2号を参照。



写真3 羽化直後の成虫  
(スダチ)



写真4 チャに寄生する成虫



写真5 幼虫

# 10 病害虫の診断および生態調査

## (1) 薬剤耐性検定（病害）

県内ほ場で採集したいちご炭疽病について薬剤感受性検定を実施した。詳細については、「第6 試験成績」の項を参照。

## (2) 薬剤耐性検定（虫害）

今年度は、害虫に対する薬剤耐性検定を実施しなかった。

## (3) 病害虫診断業務実績

作物別の診断件数および結果

作目		診断件数				計
		病害	虫害	不明	その他	
普通作物	イネ	2		2		4
	コムギ					0
	オオムギ					0
	ダイズ					0
	小計	2	0	2	0	4
野菜	イチゴ	6		11	3	20
	キャベツ			2		2
	サツマイモ			3		3
	サンショウ	2		1		3
	エダマメ	1				1
	スナップエンドウ			1		1
	ショウガ					0
	スイカ			1		1
	キュウリ			3		3
	タマネギ	1				1
	トマト	17		5		22
	ナス	1		1		2
	ニンジン					0
	ネギ		1			1
	ハクサイ					0
	ミズナ			1		1
	トウガラシ	1				1
	パプリカ					0
	メロン	3		2		5
		小計	32	1	31	3
果樹	イチジク					0
	オリーブ					0
	ナシ	3		3		6
	ブドウ			1		1
	フィンガーライム			1		1
	クルミ			1		1
	小計	3	0	6	0	9
花き	カーネーション	1				1
	キク					0
	バラ					0
	アスター				1	1
	小計	1	0	0	1	2
茶	チャ					0
	小計	0	0	0	0	0
合計		38 (46%)	1 (1%)	39 (48%)	4 (5%)	82 (100%)

令和7年1月から12月までに実施した病害虫の診断の合計件数は82件で、その内訳は普通作物が4件、野菜が67件、果樹が9件、花き（花木）が2件であった（今期、茶はなかった）。

診断の結果、原因は病害38件、虫害1件、原因不明39件および、その他4件であった。

※（ ）内は合計診断件数に対する割合を示す。

## (4) ヒメトビウンカ越冬個体のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査

### ア 目的

県内でのイネ縞葉枯病の発生は、昭和60年代以降ほとんど見られなかったが、平成21年の発生予察調査において、立毛中に本病の発生が確認された。平成23年には再び立毛中に一部地域で、また県全域の刈り株再生芽（ひこばえ）で本病が確認された。近年では、令和4年の刈り株再生芽での発病調査以降、刈り株再生芽および本田立毛中での発病が高い傾向が続いている。本病の発生は、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）を保毒したヒメトビウンカに大きく影響されることから、ヒメトビウンカのRSV保毒虫率を把握するため、平成23年以降、継続した調査を実施している。

### イ 方法

3月25日～4月2日に、前年の刈り株再生芽が残る水田ほ場36地点において、1地点当たり50回のすくい取りによりヒメトビウンカ越冬個体を採集した。RSV保毒の有無は、簡易ELISA法（柴ら、2013）により検定した。判定は405nmの吸光度の値により行った。

### ウ 結果の概要

調査を実施した36地点のうち7地点で越冬個体を採集した。すくい取り虫数（供試虫数）は県全域で25頭（成虫1頭：幼虫24頭）であった（表）。簡易ELISA法で検定した結果、RSV保毒虫は2地点で計2頭検出され、県全域での保毒虫率は8.0%であった。これは、前年よりは低いものの令和5年度と同程度と、やや高い値となり、地域による差が認められた。

表 各地域におけるヒメトビウンカ越冬個体群のRSV保毒虫率の推移

地域	令和2年（4/2～4）			令和3年（4/5～8）			令和4年（4/6）		
	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）
大津・南部	5	0	0	3	0	0	9	2	22.2
甲賀	4	0	0	0	0	0	1	0	0
東近江	7	0	0	15	0	0	122	4	3.3
湖東	16	1	6.3	3	0	0	19	1	5.3
湖北	2	1	50.0	0	0	0	29	1	3.4
高島	2	0	0	1	0	0	3	0	0
県全域	36	2	5.6	22	0	0	183	8	4.4

地域	令和5年（3/31～4/5）			令和6年（3/27～4/2）			令和7年（3/25～4/2）		
	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）	供試虫数 （頭）	保毒虫数 （頭）	保毒虫率 （%）
大津・南部	11	0	0	3	1	33.3	0	0	0
甲賀	3	0	0	7	3	42.9	0	0	0
東近江	61	9	14.8	13	1	7.7	13	2	15.4
湖東	6	0	0	19	3	15.8	0	0	0
湖北	5	1	20.0	3	1	33.3	4	0	0
高島	19	0	0	3	1	33.3	8	0	0
県全域	105	10	9.5	48	10	20.8	25	2	8.0

# 1 1 発生が目立った病害虫について

## (1) 令和7年度（2025年度）のイネごま葉枯病の発生状況について

### ア 発生状況および発生助長要因について

ごま葉枯病の初発時期は7月9日と早く、成熟期における発生ほ場率は過去10年で最も高く、平年の約3.6倍であった（表）。一部ほ場でごま葉枯病による穂枯れ症状も認められた。

本病の発生が助長された要因として、出穂期（7月下旬）以降、気温が高く推移したことから（図）、生育後期の栄養凋落の影響が挙げられる。また、前年の発生量は多く（表）、伝染源が多いと考えられた。

表 ごま葉枯病の発生ほ場率推移（成熟期調査）

地域名		H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	平年	R7
大津・南部	発病度	0.2	0	0	0.0	0	0.1	0.9	0	0.7	1.7	0.4	5.2
	発生ほ場率	11.4	0	0	3.3	0	10.0	16.7	0	16.7	16.7	7.5	36.7
甲賀	発病度	0	0	0.1	0	0.1	0.7	0	1.4	1.9	1.9	0.6	13.9
	発生ほ場率	0	0	8.0	0	5.0	30.0	0	30.0	30.0	35.0	13.8	70.0
東近江	発病度	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	3.4	5.2	5.6	1.5	6.8
	発生ほ場率	2.0	2.0	4.0	4.0	16.0	32.0	12.0	48.0	46.0	56.0	22.2	60.0
湖東	発病度	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1.2	1.1	0.2	2.0
	発生ほ場率	0	0	0	0	0	0	0	10.0	20.0	10.0	4.0	35.0
湖北	発病度	0	0.0	0	0	0	0	0	0	1.0	0.0	0.1	0.1
	発生ほ場率	0	2.2	0	0	0	0	0	0	12.5	2.5	1.7	2.5
高島	発病度	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7	0	0.1	0
	発生ほ場率	0	0	0	0	0	0	0	0	5.0	0	0.5	0
全 県	発病度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	1.1	2.2	2.2	0.6	4.5
	発生ほ場率	2.5	1.0	2.0	1.7	5.0	13.9	6.1	17.8	24.4	23.9	9.8	35.0

大津・南部6地点、甲賀4地点、東近江10地点、湖東4地点、湖北8地点、高島4地点で1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。全県の発生ほ場率：36地点180ほ場あたりの発生ほ場の割合を示す。平年値はH27～R6の平均値を示す。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) \div (4 \times \text{調査株数}) \times 100$$

（葉身の基準）A：1株の上葉に非常に多くの病斑が認められ、上位3葉での枯死葉も認められる。B：1株の上葉にかなり多くの病斑が認められ、上位3葉の一部に枯死葉が認められる。C：1株の上葉に病斑がかなり認められる。D：1株中病斑がわずかに認められる。

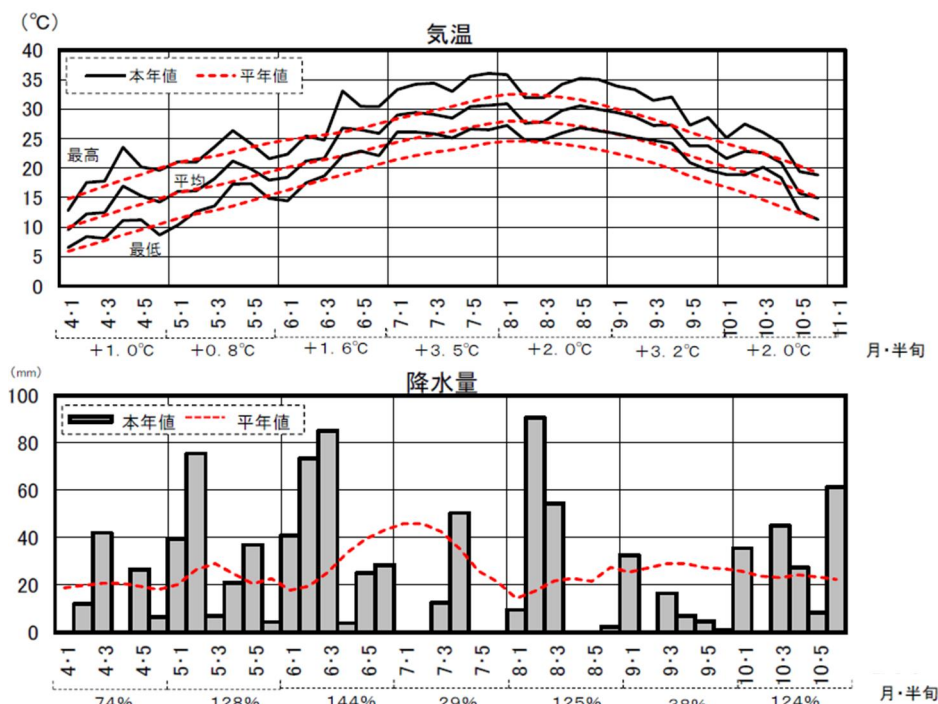


図 令和7年度稲作期間の気象推移（彦根アメダス）  
平年値は、1991～2020年の30年間の平均値である。

## (2) 斑点米カメムシ類 (イネカメムシを除く)

### ア 発生状況

7月11日基準のすくい取り調査では、畦畔での斑点米カメムシ類の発生量は117.9頭で、平年(68.2頭)と比較して「多」であった。(図1)。特にアカスジカスミカメの発生量は95頭で、平年(48.8頭)と比較して「多」であった。また、8月16日基準のすくい取り調査では、本田での斑点米カメムシ類の発生量は6.6頭で、平年(4.7頭)と比較して「やや多」であった(図2)。特に、ミナミアオカメムシの発生量は1.2頭で、過去10年間で最も多く、平年(0.04頭)と比較して「多」であった。

また、斑点米率は0.34%で、平年(0.24%)と比較して「やや多」であった(図3)。

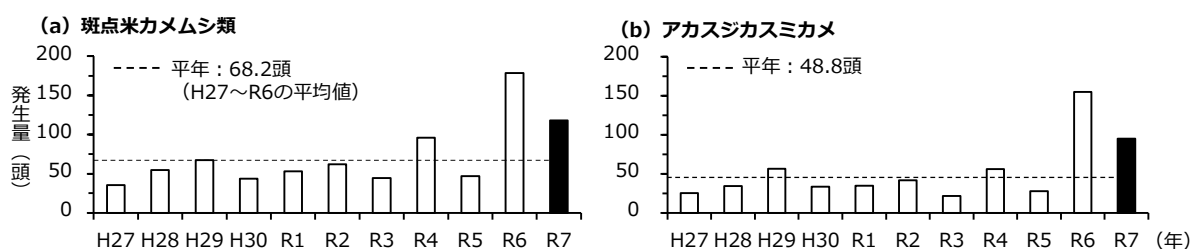


図1 本田出穂前の畦畔雑草における (a) 斑点米カメムシ類および (b) アカスジカスミカメの発生量 (50回すくい取り調査)

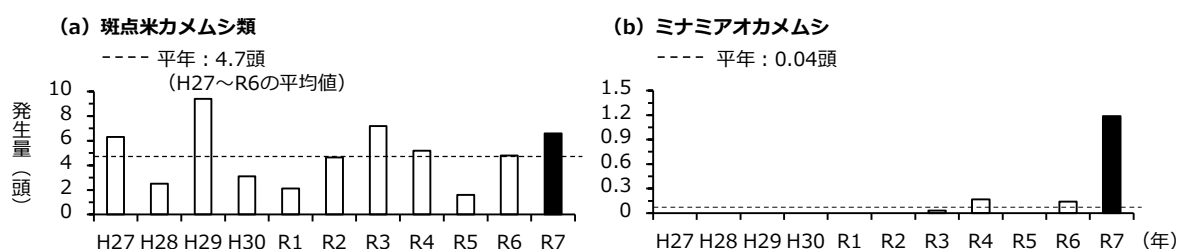


図2 出穂した本田における (a) 斑点米カメムシ類および (b) ミナミアオカメムシの発生量 (50回すくい取り調査)

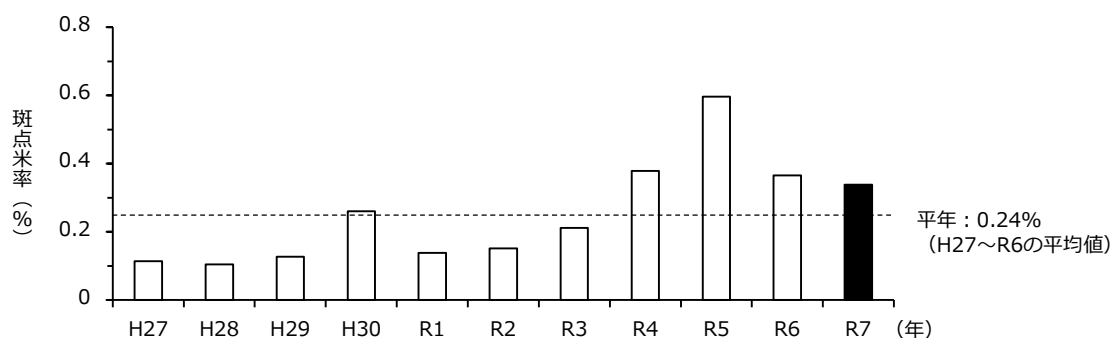


図3 調査ほ場における斑点米発生率

県内36地点36ほ場における調査結果。ただし、R7の甲賀地域は1地点が欠測。

## イ 発生要因

6月は気温が高く、特にアカスジカスミカメが急増する6月下旬の降水量が少なかったため、密度増加に好適な条件となった(図4)。このため、発生量が多くなったと考えられる。ミナミアオカメムシは8月16日基準のすくい取り調査で本田への飛び込みが増加した。これは、前年の大豆ほ場で発生量が多かったことが影響していると考えられる。

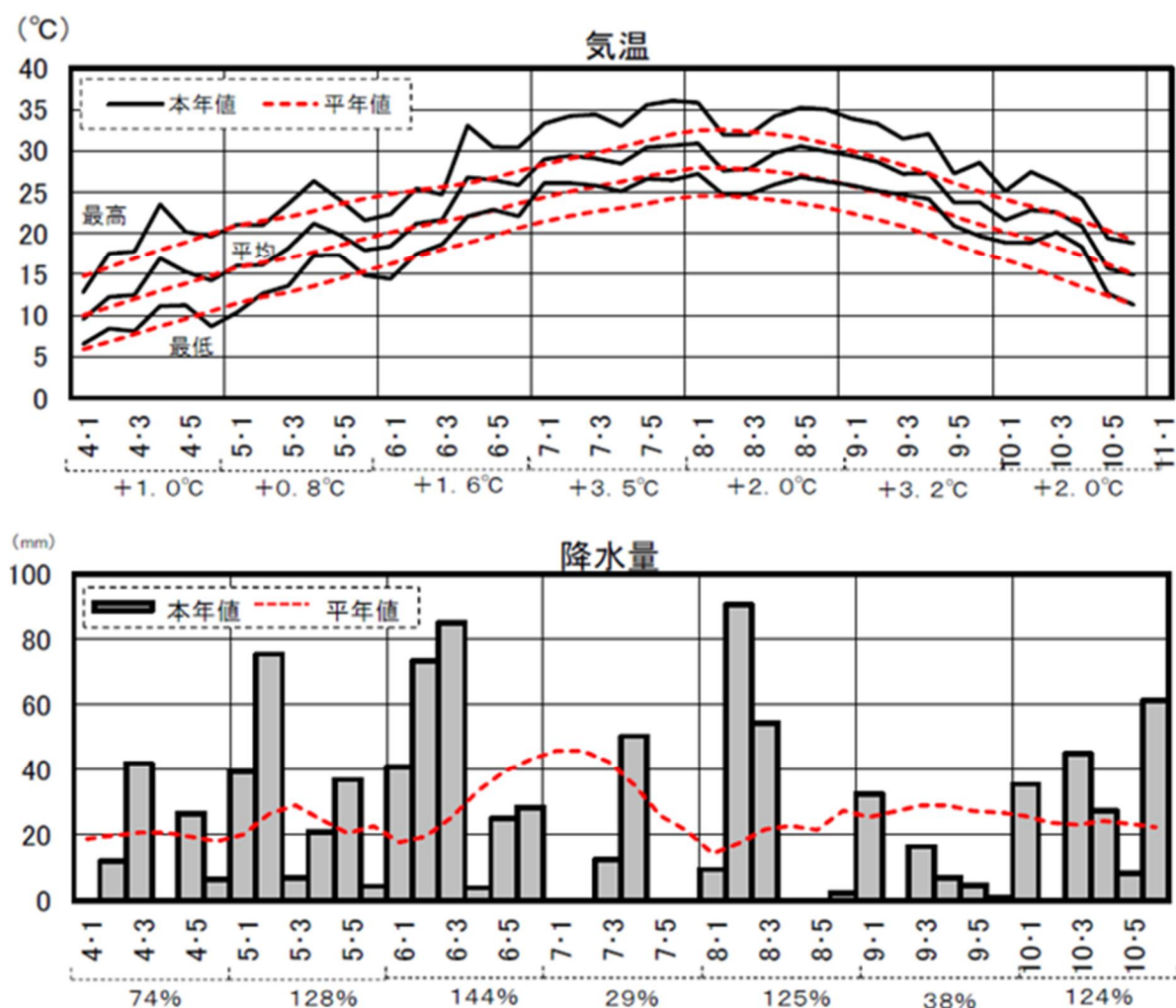


図4 令和7年度稲作期間の気象推移(彦根アメダス)  
平年値は、1991~2020年の30年間の平均値である。

### (3) イネカメムシ

#### ア 発生状況

令和5年までの発生地は、大津市、甲賀市、湖南市の山間地や山地に近いほ場に多く、他の地域ではわずかに発生がみられる程度であった。しかし、令和6年に発生地が県全域に拡大し、令和7年も県全域で発生がみられた(図1)。特に、長浜市や高島市での発生量の増加が顕著であった。山間部や山地に隣接した地域では発生量が多く、被害程度も高くなる場合が多い。長浜市難波町(図2d)と高島市今津町日置前(図2e)に設置している予察灯での誘殺数は、令和6年から急増している。一方、大津市里(図2a)では令和4～6年と比較すると誘殺数は減少した。また、守山市矢島町(図2b)や近江八幡市安土町大中(図2c)では少ないながらも誘殺は認められている。

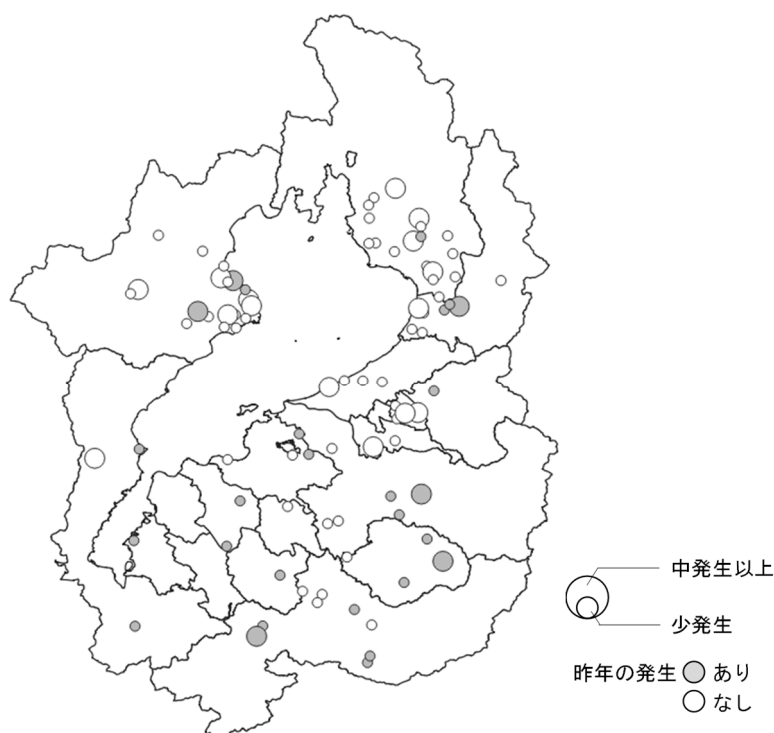


図1 令和7年度水稲作におけるイネカメムシ発生状況

少発生：本虫が発生したが不稔稲はみられなかった、中発生：本虫が原因とみられる不稔稲が発生した

不稔被害の発生件数をイネの熟期別に示した(表)。出穂期の早い早生品種の「みずかがみ」や「コシヒカリ」では不稔被害の報告数が多い。その後に出穂期を迎える「キヌヒカリ」では本種の発生はみられたものの不稔被害は報告されなかった。報告件数は少ないものの、中生以降に出穂期を迎える品種では、不稔被害の発生割合が高い品種もあった。

#### イ 次年度の対策

本種は出穂期の早い品種に成虫が多く集まり、吸汁によって不稔被害を発生させることが知られている。令和7年も、地域で最も早く出穂期を迎える品種(主に「みずかがみ」や「コシヒカリ」)で不稔被害が多くなった。そのため、これらの品種において今年度多発した地域では、出穂期に防除ができるよう準備しておく必要がある。

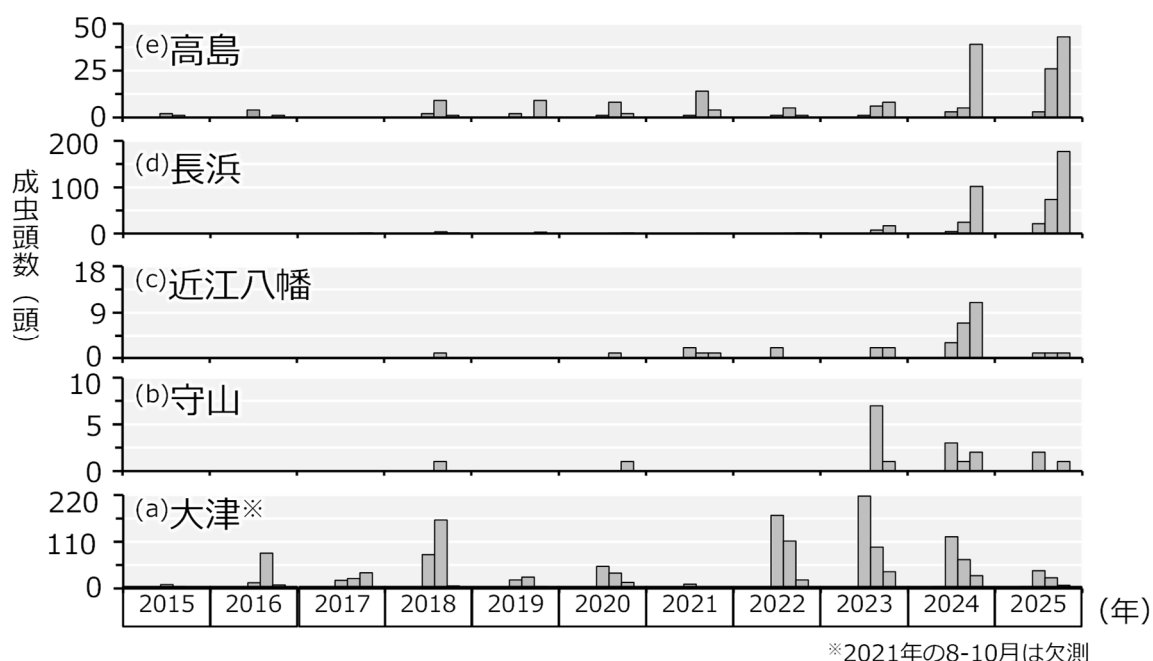


図2 県内5地点の予察灯におけるイネカメムシ成虫の誘殺数

表 イネの熟期（品種）別のイネカメムシ被害発生状況

熟期	品種	程度別発生件数			被害発生割合 <sup>1)</sup> (%)
		多	中	少	
早生	みずかがみ	3	1	18	18
	コシヒカリ	2	3	15	25
	キヌヒカリ	0	0	2	0
	その他	0	1	3	25
中生	日本晴	0	0	3	0
	きらみずき	0	1	3	25
	秋の詩	0	1	1	50
	その他	0	0	3	0
晩生	滋賀羽二重糯	0	0	1	0
	山田錦	0	1	0	100

病害虫防除所の調査および各地域の農産普及課からの報告により作成

<sup>1)</sup> 発生件数のうち中発生（本種が原因とみられる不稔粒が散見）程度以上の割合

#### (4) ダイズの害虫 (ハスモンヨトウ・吸実性カメムシ類)

##### ア 発生状況 (トラップ類のデータは「野菜(露地)病害虫発生予察事業」を参照)

ハスモンヨトウのフェロモントラップでの誘殺数は、9月の第4半旬以降、急激に増加した。8月25日基準の調査では、ダイズほ場におけるハスモンヨトウの発生ほ場率は平年と比較して「やや少」であったが、9月25日基準の調査では白変葉の発生ほ場率は76.1%で、平年(54.5%)と比較して「多」であった(図1)。

9月25日基準の調査において、吸実性カメムシ類の発生ほ場率は50%で、平年(25.7%)と比較して「多」であった(図2)。予察灯調査では、ミナミアオカメムシの誘殺数は8月下旬以降に増加した(図3)。

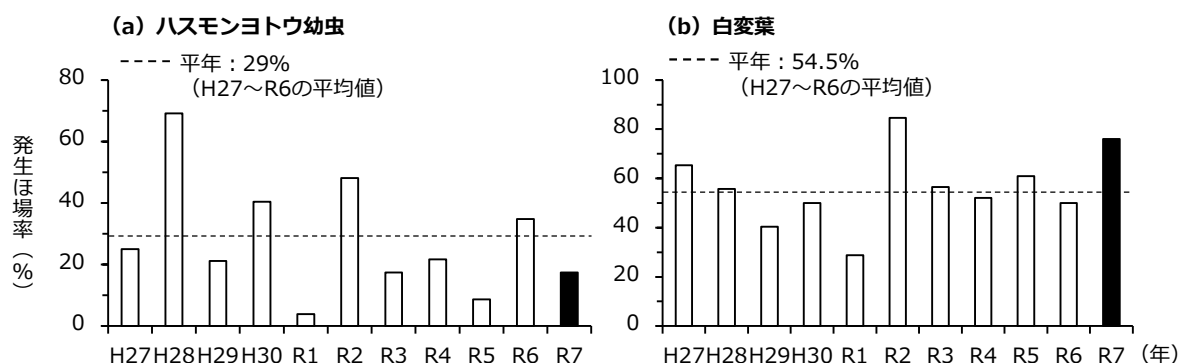


図1 8月25日基準の調査における (a) ハスモンヨトウ幼虫の発生ほ場率と9月25日基準の調査における (b) 白変葉の発生ほ場率

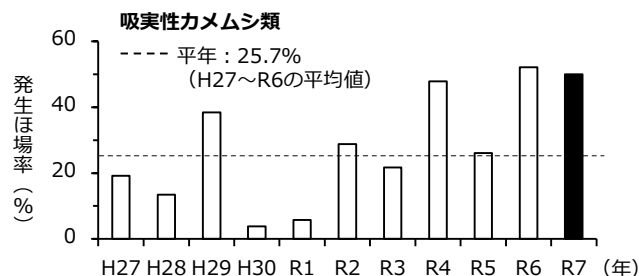


図2 9月25日基準の調査における吸実性カメムシ類の発生ほ場率

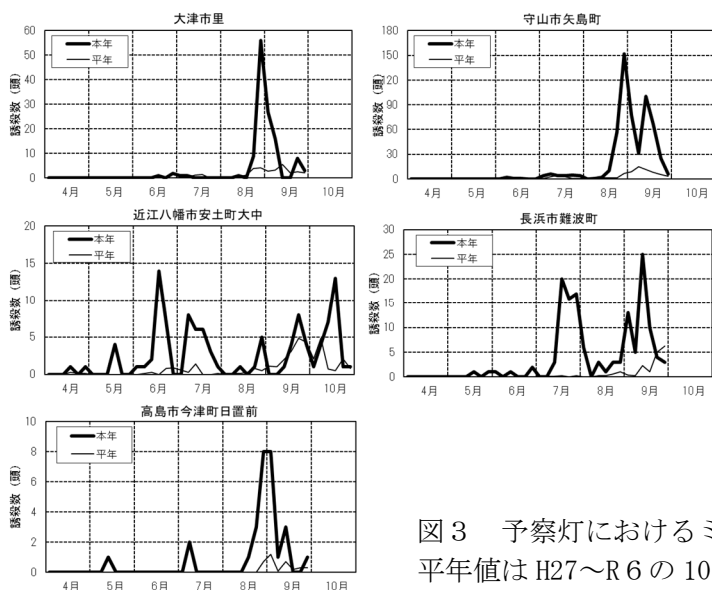


図3 予察灯におけるミナミアオカメムシ誘殺数(2025年) 平年値はH27~R6の10年間の値

## イ 発生要因

梅雨明けが早く、6月下旬以降の降水量が少なかったこと、気温は平年よりも高く推移したことにより、ハスモンヨトウ成虫の飛来およびほ場での幼虫の発育にとって好適な条件が続いたため、10月になってより多くの成虫が発生するようになったと考えられる（図4）。

吸実性カメムシ類の発生量の増加は9月の気温が平年より高く、降水量が少なかったため、活動や発生に好適な条件となったことが考えられる。ミナミアオカメムシの前年の発生量が多かったこと、水稻における発生量が増加したことも要因の一つと考えられる。

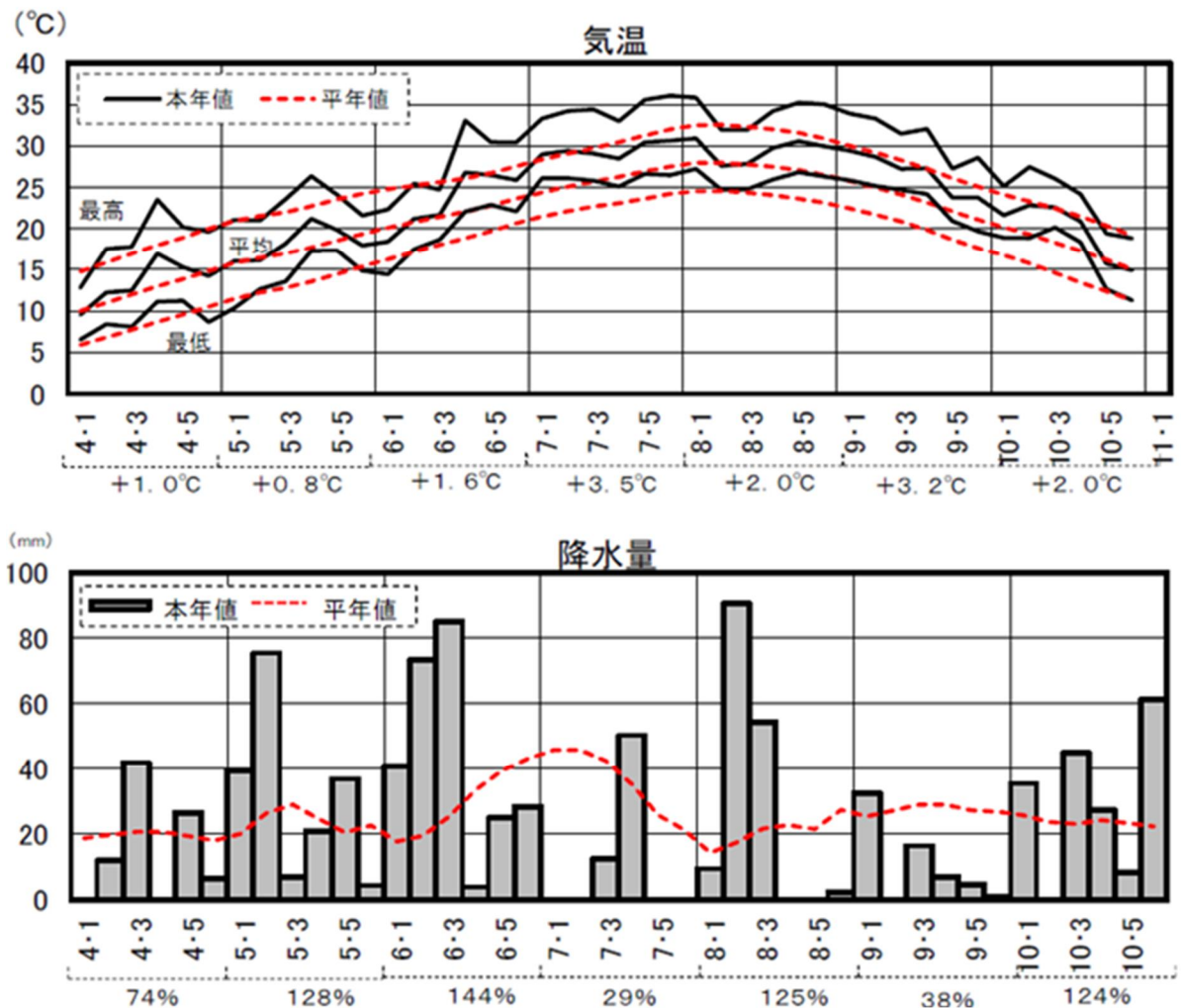


図4 令和7年度ダイズ作期間の気象推移（彦根アメダス）  
平年値は、1991～2020年の30年間の平均値である。

### 第3 侵入調査事業

令和5年度から植物防疫法に基づき、重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することを目的として全国で斉一的に重要病害虫の調査を行う「侵入調査事業」が行われることとなった。本県では表1の病害虫について、農林水産省作成の「侵入調査マニュアル」に基づき調査した。

トマトキバガの発生が認められ、フェロモントラップで10月2日に初誘殺され、11月までに計24頭誘殺された(表1)。なお、現地ほ場でも発生を認めた。その他の調査対象病害虫の発生はなかった。

表1 侵入警戒病害虫の調査結果

対象病害虫	調査方法	調査地点数	調査期間	発生地点数	発生頭数
ミカンコミバエ種群	トラップ(ユーゲルア)	2	4月～11月 (月4回)	0	-
ウリミバエ・セグロウリミバエ					
クインスランドミバエ					
トマトキバガ	フェロモントラップ	1	4月～11月 (月4回)	1	初誘殺： 10/2 10月：22頭 11月：2頭
イネミイラ穂病菌、イネクキセンチュウ、その他日本に産しない各種の検疫有害植物であってイネを害するもの	目視(イネ)	3	7/29	0	-
インゲンマメ萎ちよう細菌病菌	目視(ダイズ)	23	9/16～9/17	0	-
ウメ輪紋ウイルス	目視(もも、うめ)	2	5/28～5/29	0	-
火傷病菌	目視(なし)	2	4/24、5/7	0	-

## 第4 農薬安全使用等総合推進事業

農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理事務を行った。また、農薬取扱者（農薬販売者および農薬使用者）への巡回点検・指導を実施した。さらに、農薬取扱者、農業者および農業団体等に対し、研修会等を通じて農薬の安全使用について周知徹底を図った。これらのことで農薬の販売および使用の適正化と農薬による危被害防止の啓発に努めた。

### 1 農薬安全使用対策

農薬の安全使用は、農薬取扱者が農薬の特性を十分理解し、適正に使用することが重要である。このため、病虫害防除推進員、県、市町、農業協同組合などの関係職員や農薬取扱者を対象とした植物防疫研修会や農薬アドバイザー講習会等において、農薬の適正使用等について指導した。また、発生予察情報発信時に啓発資料を添付した。

### 2 農薬販売者の届出状況

(1) 令和7年度の届出件数は下表のとおりであった。

表 届出件数（令和7年4月1日～令和8年1月6日）

区分	新規届出数	変更届出数	廃止届出数	計
農薬販売者（営業所）	36	107	21	164

(2) 届出者(営業所)数

令和8年1月6日現在の届出者数は756件で、前年度より11営業所増加した。

### 3 農薬取扱者への巡回点検・指導の結果

農薬取扱者への巡回点検・指導を実施し、結果は下表のとおりであった。農薬取扱者のうち、農薬販売者の違反内容は、届出や帳簿に関する事項であった。

巡回点検・指導の結果（令和7年4月1日～12月23日）

対象 農薬 取扱 者数	違反の内容								
	農薬販売者					農薬使用者			
	届出 の不備	無登 録農 薬の 販売	虚偽 の 宣伝	帳簿 の 不備	点検 拒否	無登 録農 薬の 使用	農薬 使用 基準 違反	点検 拒否	ゴルフ場農薬 使用計画に関 する変更
104	3	0	0	9	0	0	0	0	1

## 第5 病害虫発生予察情報発表内容

### 1 予報

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	いもち病	5月13日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発生を認めていない。 (2) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み
		6月4日 (葉いもち)	やや早	平年並	(1) 余剰苗での発生時期はやや早い。 (2) 本田での発生を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		6月17日 (葉いもち)	やや早	平年並	(1) 余剰苗での発病時期はやや早い。 (2) 本田での発生を認めていない(平年値:6/23)。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) イネいもち病発生予測システム(BLASTAM)によると、6月上旬以降いもち病の感染好適条件が出現している。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月8日 (葉いもち)	遅	平年並	(1) ほ場での発生時期は遅い。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 6月下旬にBLASTAMによる準感染好適条件が県内各地で出現している。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月8日 (穂いもち、 極早生・早 生品種)	遅	平年並	(1) 葉いもちの発生時期は遅い。 (2) 水稻の生育時期は平年並～やや遅い。 (3) 現在の葉いもちの発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日 (穂いもち)	早	やや少	(1) 葉いもちの発生量は平年並。 (2) 水稻の生育時期は早い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日 (穂いもち、 中生・晩生 品種)	平年並	やや少	(1) 出穂期は平年並。 (2) 早生品種での穂いもちの発生時期は平年並。 (3) 葉いもちの発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
	紋枯病	6月17日	やや早	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない(平年値:6/20) (2) 前年の発生量は少ない。 (3) 水稻の茎数は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月8日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生時期はやや遅い。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 前年の発生量は少ない。 (4) 水稻の茎数は少ない。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生時期はやや遅い。 (2) 水稻の茎数は少ない。 (3) ほ場での発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日 (中生・晩生 品種)	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	白葉枯病	7月8日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量はやや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	平年並	やや少	(1) 前年の発生量はやや少ない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	やや少	(1) 前年の発生量はやや少ない。 (2) ほ場での発生は認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
	黄萎病(ツマグロヨコバイ)	4月15日	—	やや少	(1) 前年の刈株再生芽の発病は認められなかった。 (2) ツマグロヨコバイの越冬量はやや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
イネドロオイムシ(イネクビソハマシ)		4月15日	平年並	平年並	(1) 前年の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		5月13日	平年並	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。
		6月4日	平年並	平年並	(1) ほ場で成虫の発生を認めた。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多く、日照時間は平年並の見込み。
イネミズゾウムシ		4月15日	平年並	平年並	(1) 予察灯への飛来は確認されていない。 (2) 前年の発生量はやや少なかったが、前年の予察灯への飛来数は多かった。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		5月13日	平年並	平年並	(1) 本田への飛び込み時期は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少なかった。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
ニカメイガ		5月13日(第1世代)	平年並	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。 (3) 越冬世代成虫の発ガ最盛期は5月24日ごろと予想され、平年並(気象データ：彦根アメダス)。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日(第1世代)	平年並	平年並	(1) 予察灯での誘殺時期は平年並。 (2) 予察灯での誘殺数は平年並。 (3) フェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月8日(第2世代)	早	平年並	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) 第1世代成虫発ガ最盛期は早いと推定される。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日(第2世代)	早	やや少	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の発ガ最盛期の予測日は早い。 (3) ほ場での発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
トビイロウンカ		7月8日	—	—	(1) 本県では、現在までに予察灯での誘殺およびほ場での発生を認めていない。
		7月23日	—	—	(1) 本県では、7月10日頃までに飛来が認められた場合は多発する危険性が高いが、7月10日までに予察灯への飛来および本田での発生を認めていない。 (2) これまでに、九州～中国地方の各県、和歌山県で予察灯への飛来が確認されている。また、九州地方では本田での発生も確認されている。
		8月5日	平年並	平年並	(1) 予察灯への飛来を認めていない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
		8月26日	—	平年並	(1) 予察灯への飛来を認めていない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
イネ	セジロウンカ	7月8日	やや遅	平年並	(1) 予察灯への飛来は認められていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	遅	平年並	(1) 予察灯への飛来は認められていない。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	ヒメトビウンカ	7月8日	平年並	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並、越冬量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	—	やや少	(1) 予察灯への飛来数は平年並。 (2) ほ場での発生量は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	ツマグロヨコバイ	7月8日	やや遅	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は遅い。 (2) 前年の発生量は平年並で、越冬量はやや少なかった。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	—	平年並	(1) 予察灯への飛来数はやや多い。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	平年並	(1) 予察灯への飛来量はやや多い。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
斑点米カメムシ類		7月8日	平年並	やや多	(1) 水稻の生育時期は平年並～やや遅い。 (2) 予察灯でのアカスジカメムシの誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	早	多	(1) 水稻の生育時期は早い。 (2) 畦畔での発生量は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	多	(1) 本田・畦畔での発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
コブノメイガ		7月23日	早	平年並	(1) ほ場での発生は早い。 (2) 予察灯への飛来は認められていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
		8月26日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。
イチモンジセセリ(イネツトムシ)	7月8日	平年並	平年並	(1) 第1世代幼虫の発生時期は早かった。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。	
コバネイナゴ		6月4日	平年並	平年並	(1) 幼虫の発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少なかった。
		6月17日	平年並	やや少	(1) 幼虫の発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少ない。 (3) ほ場での発生量はやや少ない。
フタオビコヤガ(イネアオムシ)	7月8日	やや遅	少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。	
ムギ	赤かび病	3月18日	平年並	平年並	(1) 現在のところ、ムギの生育は平年並からやや遅く、出穂時期は平年並からやや遅いと予想される。 (2) 3か月予報(2月25日発表)では、向こう3か月の気温は平年並または少ない見込み。
		4月15日	やや遅	やや多	(1) 小麦の生育はやや遅い。 (2) 赤かび病は、ここ数年多発傾向にある。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
ダイズ	べと病	8月5日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		8月26日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。
	葉焼病	8月26日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。
	アブラムシ類		7月23日	—	平年並
8月26日			—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠	
			発生時期	発生量		
ダイズ	吸実性カメムシ類	8月5日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めている。 (2) 水稲や露地野菜ほ場でミナミアオカメムシの発生を認めた。 (3) ミナミアオカメムシの予察灯への飛来量が多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
		8月26日	—	多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 水稲でのミナミアオカメムシの発生量が多い。 (3) ミナミアオカメムシの予察灯への飛来量が多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
	ハスモンヨトウ	8月5日	平年並	やや多	(1) ほ場での発生を認めている。 (2) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (3) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
		8月26日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
	フタスジヒメハムシ	8月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
		8月26日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
	ハダニ類	7月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。	
		8月26日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや少ないが、発生ほ場率は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
	野菜全般	うどんこ病	6月4日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
			7月8日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		灰色かび病	6月4日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		アブラムシ類	4月15日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めた時期は早い。 (2) 黄色水盤での誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
5月13日			—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
6月17日			—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
7月8日			—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。	
8月5日			—	平年並	(1) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
8月26日			—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
9月24日			—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
ハダニ類			5月13日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
		7月8日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。	
		8月5日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
野菜全般	アザミウムマ類	5月13日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月8日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で平年並の見込み。
	ヨトウガ (ヨトウムシ)	5月13日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺を認めておらず、平年より少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	ハスモンヨトウ	8月5日	平年並	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
		8月26日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。
		9月24日	—	多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	タバコガ類	7月8日	—	多	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、タバコガでやや少なく、オオタバコガが多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月5日	—	多	(1) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。
		8月26日	—	多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。
		9月24日	—	多	(1) ほ場での発生量を認めている。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ネキリムシ類 (カブラヤガ)	8月26日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。
	キュウリ	べと病	6月4日	平年並	平年並
タマネギ	べと病	3月18日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
ナス科野菜	疫病	5月13日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。
		6月4日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
	ニジュウヤホシテントウ類	5月13日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
アブラナ科野菜	軟腐病	9月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	黒腐病	9月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	菌核病	9月24日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠	
			発生時期	発生量		
アブラナ科野菜	モンシロチョウ(アオムシ)	5月13日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		8月26日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
	コナガ	5月13日	平年並	やや多	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		8月5日	—	やや多	(1) 予察灯への飛来量は多い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
		8月26日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 予察灯への飛来量は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
		9月24日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めている。 (2) 予察灯での誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	ヨトウガ(ヨトウムシ)	8月5日	—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
		8月26日	—	少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少なく、日照時間は多い見込み。	
		9月24日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めている。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	ハイマダラノメイガ	8月5日	平年並	やや多	(1) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
		8月26日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めている。 (2) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または多く、県南部で多い見込み。	
		9月24日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 指標植物であるクレオメへの寄生幼虫数は多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	果樹全般	カメムシ類	4月15日	平年並	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺は確認されていない。 (2) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
			5月13日	やや遅	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺時期はやや遅い。 (2) チャバネアオカメムシ越冬成虫数は平年並。 (3) フェロモントラップでの誘殺数はやや少ない、予察灯での誘殺数は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
6月17日			—	平年並	(1) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は平年並。 (2) 予察灯、フェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
7月8日			—	やや少	(1) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや少なく、予察灯での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。	
7月23日			—	やや少	(1) チャバネアオカメムシの越冬成虫数は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数はやや少なく、予察灯での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。	
8月5日			—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数および予察灯での誘殺数はともにやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。	
8月26日			—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数および予察灯での誘殺数はともにやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少ない見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
ナシ	黒星病	4月15日	平年並	平年並	(1) ナシの生育は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月8日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月5日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年または多い見込み。
	ナシヒメシクイ	5月13日	平年並	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並、誘殺数はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月8日	—	やや少	(1) フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。 (2) ほ場での被害果を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月26日	—	やや少	(1) フェロモントラップでの7月以降の累積誘殺数はやや少ない。 (2) ほ場での被害果数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少ない見込み。
	アブラムシ類	5月13日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	ハダニ類	6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
ブドウ	べと病	7月8日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 前年の発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	平年並	平年並	(1) 前年の発生量は平年並。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	灰色かび病	5月13日	やや遅	平年並	(1) ブドウの生育はやや遅い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	チャノキロアザミウマ	6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
カキ	炭疽病	6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月26日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少ない見込み。
	カキノヘタムシガ	5月13日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育はやや遅。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		7月23日	—	平年並	(1) 第一世代成虫のほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
	カキクダアザミウマ	5月13日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) カキの生育はやや遅い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	カイガラムシ類	6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	カメムシ類	9月24日	—	平年並	(1) フェロモントラップおよび予察灯での誘殺数はともに平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
チャ	炭疽病	6月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少なかった。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月26日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少ない見込み。
	もち病	6月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少なかった。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
チャ	新梢枯死症	7月23日	—	やや少	(1) 感染源となる輪斑病葉の発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 感染源となる輪斑病葉の発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	輪斑病	7月8日	—	やや多	(1) 前年の秋芽における新梢枯死症の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
	チャノココク モンハマキ	4月15日 (第1世代幼虫)	やや遅	やや少	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は遅い。 (2) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの累積誘殺数はやや少ない。 (3) 前年の最終世代の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		6月17日 (第2世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 第1世代成虫の予察灯での誘殺時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯、フェロモントラップで平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月5日 (第3世代幼虫)	早	平年並	(1) 第2世代成虫の初飛来日はやや早い。 (2) 第2世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	チャハマキ	4月15日 (第1世代幼虫)	やや遅	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は遅い。 (2) 前年の最終世代の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		6月17日 (第2世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 越冬世代成虫の予察灯での誘殺時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯、フェロモントラップで平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	チャノホソガ	4月15日 (第1世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日はやや遅い。 (2) 越冬世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。 (3) 前年の最終世代の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		6月4日 (第2世代幼虫)	やや遅	やや少	(1) 第1世代成虫の予察灯での誘殺時期はやや遅い。 (2) 第1世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
7月23日 (第3世代幼虫)		やや早	やや少	(1) 第2世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期はやや早い。 (2) ほ場での発生量はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。	
8月26日 (第4世代幼虫)		やや早	やや少	(1) 第3世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 第3世代成虫の累積誘殺数はフェロモントラップでやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少ない見込み。	
チャノミドリ ヒメヨコバイ	6月4日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は多い。 (2) 黄色粘着板による発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。	
	7月8日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。	
	7月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。	
	8月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 黄色粘着板による誘殺数は平年並み。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
チャノキイロ アザミウマ	6月4日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。	
	7月8日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。	
	7月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。	
	8月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
チャ	カンザワハダニ	3月18日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		4月15日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
		5月13日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日	—	やや少	(1) ほ場での発生量はやや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		6月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月8日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		7月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月26日	—	やや多	(1) ほ場での発生量はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少ない見込み。
		9月24日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は多い見込み。
	ツマグロアオカスカメ	4月15日	平年並	平年並	(1) 一番茶の生育はやや遅。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は平年並の見込み。
クワシロカイガラムシ	(第1世代幼虫)	5月13日	やや早	やや少	(1) 幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(287日度、起算日1月1日、発育零点10.5℃)による予測日は平年並。 (2) 越冬世代成虫の寄生株率は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日	平年並	平年並	(1) 甲賀市水口町水口(茶業指導所)におけるふ化最盛期(50%ふ化卵塊が過半数に達した時期)は平年並。 (2) 調査茶園における寄生株率は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃)による予測日はやや早い。 (3) 第1世代成虫(雄繭)の寄生株率はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	遅	平年並	(1) 第1世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃、高温補正30℃)による予測日は遅い。 (3) 第1世代成虫の寄生株率(雄繭)は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月26日	やや早	やや少	(1) 第2世代幼虫の発生時期はやや早い。 (2) 第2世代成虫(雄繭)の寄生株率はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で少ない見込み。
チャトゲコナジラミ	(第1世代幼虫)	5月13日	やや早	やや少	(1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月4日	平年並	やや少	(1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または高く、降水量は県北部で平年並、県南部で平年並または多い見込み。
		7月23日	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で平年並または少なく、県南部で平年並の見込み。
		8月5日	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の発生ピークは平年並。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		9月24日	やや早	やや少	(1) 第2世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 第2世代成虫の黄色粘着板での誘殺数はやや少ない。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量はやや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	予報内容		予報の根拠
			発生時期	発生量	
キク	アブラムシ類	7月8日	—	やや少	(1) ほ場での発生はやや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数はやや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は県北部で少なく、県南部で平年並または少ない見込み。
		8月5日	—	平年並	(1) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または多い見込み。

## 2 注意報および警報

本年度、注意報は5回発表した。なお、警報の発表はなかった。

令和7年度病害虫発生予察注意報第1号

麦類赤かび病多発のおそれ

令和7年(2025年)4月21日

滋賀県

1. 病害虫名：赤かび病
2. 対象作物：麦類（小麦、大麦）
3. 発生地域：県内全域
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
  - (1) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台4月17日発表）では、気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並の見込みで、赤かび病菌の感染に好適な気象条件となると予想される。
  - (2) 農薬散布適期である麦類の開花が、4月中旬以降、県内全域で始まっている。
  - (3) 本県の小麦の主要品種である「びわほなみ」は赤かび病に弱く、感染に好適な気象条件により本病が多発する可能性がある。
6. 防除対策
  - (1) 小麦「びわほなみ」は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を合計2回散布する防除体系を基本とするが、本年は本病が多発する可能性があるため、散布2回目の7～10日後頃に3回目の農薬散布を実施する。
  - (2) 「びわほなみ」以外の小麦品種は、開花始め～開花期に農薬を1回散布する防除体系を基本とする。また、六条大麦は、赤かび病にやや弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を合計2回散布する防除体系を基本とする。なお、農薬散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、最終散布の7～10日後頃に追加散布（「びわほなみ」以外の小麦品種では2回目、六条大麦では3回目）を実施する。
  - (3) 農薬は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。農薬の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。
  - (4) 小麦については、食品衛生法においてデオキシニバレノールを1.0mg/kgを超えて含有するものであってはならない旨の成分規格が設定され、令和4年4月から適用されている。基準値を超過すると、流通できず、生産者が廃棄処分する必要がある。



写真1 小麦赤かび病  
穂の一部が褐変している



写真2 小麦赤かび病（拡大）  
穎（えい）の合わせ目や小穂と軸の間に、  
サーモンピンク色のかびが見られる。

令和7年度病害虫発生予察注意報第2号  
オオタバコガによる被害多発のおそれ

令和7年(2025年)7月14日  
滋 賀 県

1. 病害虫名：オオタバコガ
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：野菜類、花き類、ダイズ
4. 発生程度： 多
5. 注意報発表の根拠
  - (1) 近江八幡市安土町大中に設置のフェロモントラップにおいて、7月第2半旬までのオオタバコガ成虫の累積誘殺数は平年の約3.4倍であり、過去10年間で最も多い(図)。
  - (2) 露地野菜ではナス等でタバコガ類幼虫による被害が確認されており、平年よりも発生が早い。
  - (3) 向こう1か月の気象予報(大阪管区气象台7月10日発表)では、気温は高いと予想されており、今後も発生に好適な状況が続くおそれがあり、被害の増加が懸念される。
6. 防除対策
  - (1) 野菜類(トマト、ナス、キャベツなど)や花き(キク、バラなど)では、果実やつぼみを食害し、ダイズでは葉や莢を食害するため、適期に薬剤散布を実施する。
  - (2) 中齢以降の幼虫はトマトなどの果実(写真a)、ブロッコリーの花蕾、花き類のつぼみ、キャベツなどの結球部(写真b)に潜って食害するため、薬剤がかかりにくくなる。また、中齢以降の幼虫は薬剤に対する感受性も著しく低下するので、ほ場をよく見回り、幼虫の捕殺や薬剤散布などの防除を早期に実施する。
  - (3) 施設栽培では、開口部を防虫ネットで覆い、成虫の侵入を防ぐ。
  - (4) 防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯は、成虫の飛来を抑制し防除効果が高い。

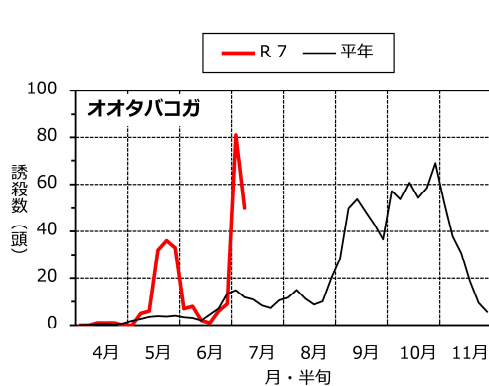


図 フェロモントラップによるオオタバコガ成虫の誘殺状況(近江八幡市安土町大中)

写真 タバコガ類幼虫による食害

- (a) トマト果実 (b) キャベツ結球部  
(c) ダイズ葉

令和7年度病害虫発生予察注意報第3号  
斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ

令和7年(2025年)7月17日  
滋 賀 県

1. 病害虫名：斑点米カメムシ類
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：水稲
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
  - (1) 7月9日～10日に県内36地点の畦畔雑草で実施したすくい取り調査において、斑点米カメムシ類の平均生息数は117.9頭であり(図1a)、平年(68.2頭)の約1.7倍と多い。特に、小型種のアカスジカスミカメの平均生息数は95頭であり(図1b)、平年(48.8頭)の約1.9倍と多く過去10年間で2番目に多い。水稲が出穂すると畦畔や雑草地の斑点米カメムシ類が水田内に侵入し、加害することが懸念される。
  - (2) すでに出穂している本田において、イネカメムシが局所的に生息している。
  - (3) 向こう1か月の気象予報(大阪管区気象台7月10日発表)では、気温は高いと予想されており、発生に好適な状況が続くおそれがあり、被害の多発が懸念される。
6. 防除対策
  - (1) 出穂した畦畔のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類がほ場周辺に誘引される要因となる。草刈りによるイネ科雑草の出穂抑制は、概ね3週間程度であるため、イネ出穂期の2～3週間前と出穂期頃に除草する。
  - (2) 雑草管理が不十分で畦畔や雑草地にイネ科雑草の出穂が多く認められる場合、本田の出穂後に除草すると斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草する場合は、本田での薬剤防除前日に実施する。
  - (3) 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に抜き取る。
  - (4) ほ場周辺の畦畔や雑草地にアカスジカスミカメの発生が多いほ場では、乳熟期頃(出穂7～10日後)に防除する。穂揃期に斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期頃(出穂16日後を中心に)出穂10～20日後)に防除する(図2)。
  - (5) イネカメムシが多いほ場では、出穂期に防除する(図2)。
  - (6) 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。
  - (7) 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類が多く生息している場合は、追加防除を行う。
  - (8) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

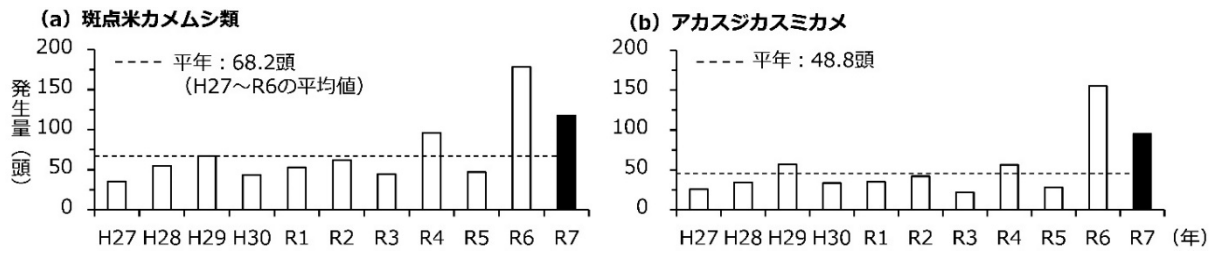


図1 畦畔雑草における (a) 斑点米カメムシ類および (b) アカスジカスミカメの発生量 (50回すくい取り調査)

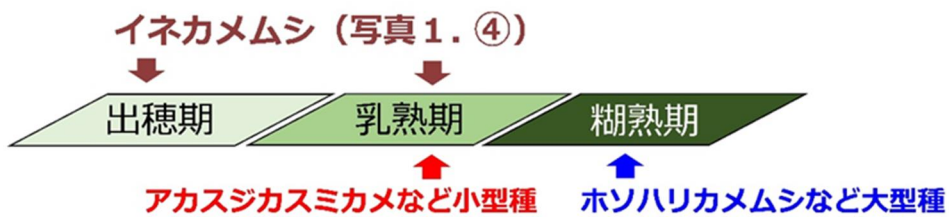


図2 斑点米カメムシ類の防除時期

写真1 斑点米カメムシ類：大型種



①ホソハリカメムシ



②クモヘリカメムシ



③ミナミアオカメムシ



④イネカメムシ

写真2 斑点米カメムシ類：小型種



①アカスジカスミカメ



②アカヒゲソホミドリカメ

写真3 斑点米 (着色しているもの)



---

令和7年度病害虫発生予察注意報第4号  
ミナミアオカメムシによる被害多発のおそれ

令和7年(2024年)8月25日  
滋 賀 県

1. 病害虫名：ミナミアオカメムシ

2. 発生地域：県内全域

3. 対象作物：ダイズ

4. 発生程度：多

5. 注意報発表の根拠

- (1) ミナミアオカメムシは県内で近年増加傾向にあり、吸汁能力が高い。
- (2) 県内5か所(大津市里、守山市矢島町、近江八幡市安土町大中、長浜市難波町、高島市今津町日置前)に設置している予察灯において、ミナミアオカメムシ成虫の平均誘殺数は平年の6.4倍で多い(図1a)。特に近江八幡市安土町大中に設置している予察灯では、8月第3半旬までのミナミアオカメムシ成虫の累積誘殺数は平年の約10.8倍であり、過去10年間で最も多い(図1b)。
- (3) 8月5日～6日に県内36地点の水稲ほ場で実施したすくいとり調査において、ミナミアオカメムシの平均生息数は1.2頭であり、平年(約0.03頭)よりも顕著に多く、過去10年間で最も多い(図2)。水稲の収穫後は、ダイズほ場へ移動する可能性が高く、ダイズでの被害が多くなるおそれがある。
- (4) 向こう1か月の気象予報(大阪管区気象台8月21日発表)では、気温は高いと予想されており、発生に好適な状況が続くおそれがあり、被害の多発が懸念される。

6. 防除対策

- (1) ミナミアオカメムシが多いほ場では、若莢期と子実肥大期に確実に防除する。
- (2) 農薬散布後もほ場内にミナミアオカメムシが多く生息している場合は、追加防除を行う。
- (3) 成幼虫は主に着莢部に生息するため、薬液が着莢部に十分付着するよう散布する。
- (4) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤連用は避ける。
- (5) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

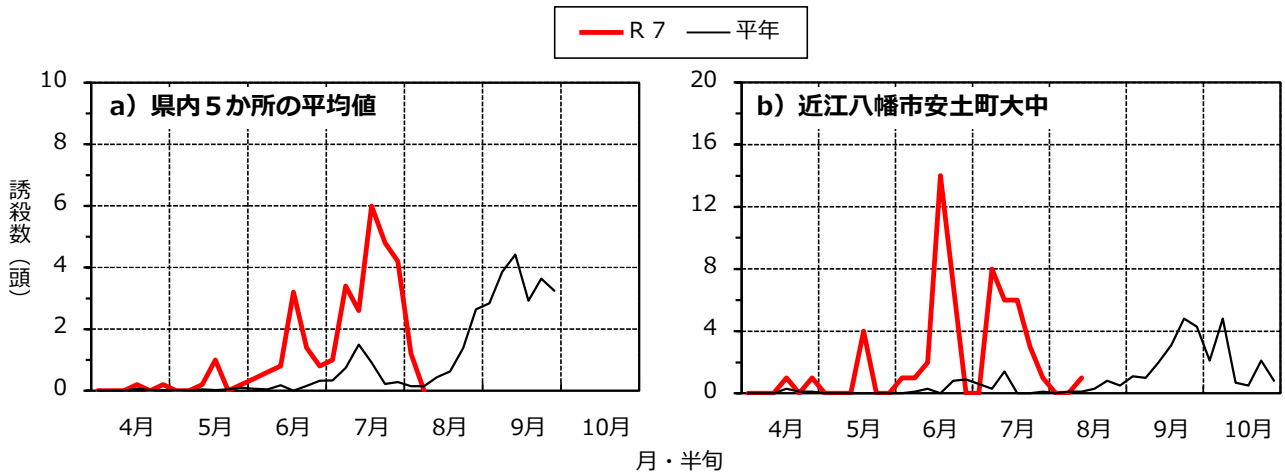


図1 予察灯によるミナミアオカメムシ成虫の誘殺状況（平年：H27～R6の平均値）

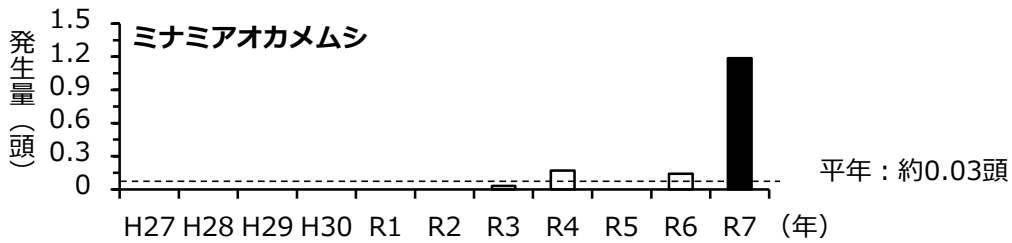


図2 水稲ほ場におけるミナミアオカメムシの発生量（50回すくい取り調査）

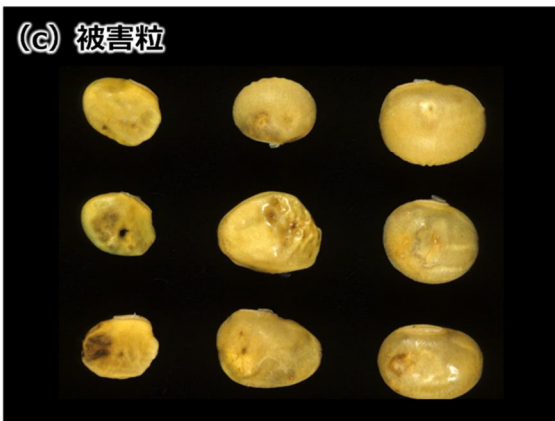


写真 ミナミアオカメムシ

(a) 成虫

(b) 幼虫による集中加害

(c) カメムシ類によるダイズ被害粒

令和7年度病害虫発生予察注意報第5号  
ハスモンヨトウによる被害多発のおそれ

令和7年(2025年)9月18日  
滋 賀 県

1. 病害虫名：ハスモンヨトウ
2. 発生地域：県内全域
3. 対象作物：ダイズ、野菜類、花き類
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
  - (1) 県内3カ所（近江八幡市安土町大中、長浜市難波町、高島市今津町日置前）に設置しているフェロモントラップでのハスモンヨトウの累積誘殺数が増加している。
  - (2) 9月16日、17日にかけて県内全域のダイズほ場で調査を行ったところ、ダイズ白変葉（若齢幼虫による被害葉）の発生ほ場率が76.1%と、平年値（54.5%）と比較して高い（図）。
  - (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台9月11日発表）では、気温は高いと予想されており、発生に好適な状況が続くおそれがあり、被害の増加が懸念される。
6. 防除対策
  - (1) ほ場をよく観察し早期発見に努める。中齢期以降の幼虫は分散するので、葉裏に群生している若齢幼虫のうちに捕殺することが効果的である。
  - (2) 中齢～老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期のうちに薬剤を散布する。また、成虫は次々に飛来して産卵するので、薬剤散布後も発生状況に十分注意する。
  - (3) 施設栽培では、開口部を防虫ネットで覆い、成虫の侵入を防ぐ。  
本虫は生育初期に成長点付近を食害するため、予防防除に努める。

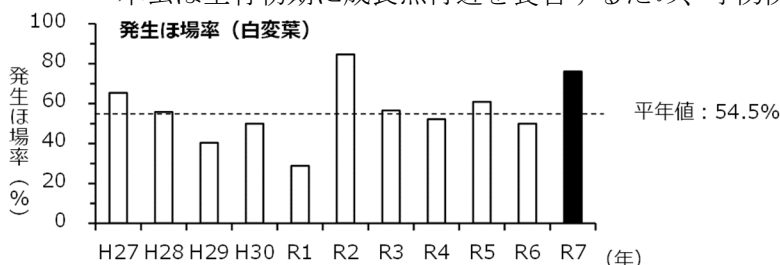


図 県内ダイズほ場における白変葉が発生したほ場の割合  
平年値は平成27年～令和6年の平均値



- 写真 ハスモンヨトウ幼虫による加害
- (左上) ダイズ白変葉（若齢幼虫による食害）
  - (左下) 葉裏に群がるハスモンヨトウ若齢幼虫
  - (右下) キャベツを加害するハスモンヨトウ老齢幼虫



### 3 特殊報

本年度は、2回発表した。

令和7年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和7年(2025年)7月17日  
滋賀県

1. 病害虫名 クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii*

2. 発生地域 長浜市

3. 発生経過

- (1) 令和7年7月中旬、長浜市のウメ園において、クビアカツヤカミキリと疑われる成虫が確認された(写真1)。
- (2) 滋賀県病害虫防除所において成虫の形態的特徴から同定した結果、本県では未発生のクビアカツヤカミキリであることを確認した。
- (3) 本種は、平成24年に国内で初めて発生が確認され、7月17日現在、本県を含め16都府県で確認されている。

4. 形態および生体

- (1) 成虫は体長2.5cm～4cmで6月～8月頃に見られる。体全体は黒く光沢があり、前胸背板(頭部の下部)は赤い。樹皮の隙間に産卵し、1匹の雌が1,000個以上の卵を産むこともある。
- (2) ウメ、モモ、スモモ、サクラなどの主にバラ科植物を加害する。
- (3) 幼虫期は基本的に2年間で木の内部を摂食することで、樹木を衰弱、枯死させる。この時、ひも状につながったフラス(幼虫の糞と木くずが混ざったもの)を排出する。また、幼虫の成長に従って樹木の株元に大量に排出する。

5. 防除対策\*

- (1) 成虫は、見つけしだいその場で捕殺する。本種は特定外来生物に指定されているため、生きたまま持ち運ぶことは禁止されている。
- (2) 幼虫は、フラスを排出口からかき出し、長い針金などを差し込んで刺殺する。
- (3) 樹内から発生する成虫の拡散を防ぐために、目合い4mm以下のネットなどを地際から2m程度の高さまで樹幹に巻き付ける。
- (4) 成虫の発生時期である6月～8月頃に化学合成殺虫剤を樹幹部に散布する。幼虫に対しては、フラスを排出口からかき出し、食入孔にスプレー剤を注入する。また、農薬の使用にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

\*：詳細は病害虫防除所HP (<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzuyo/315695/>) をご確認ください。



写真1 ウメで確認されたクビアカツヤカミキリ成虫

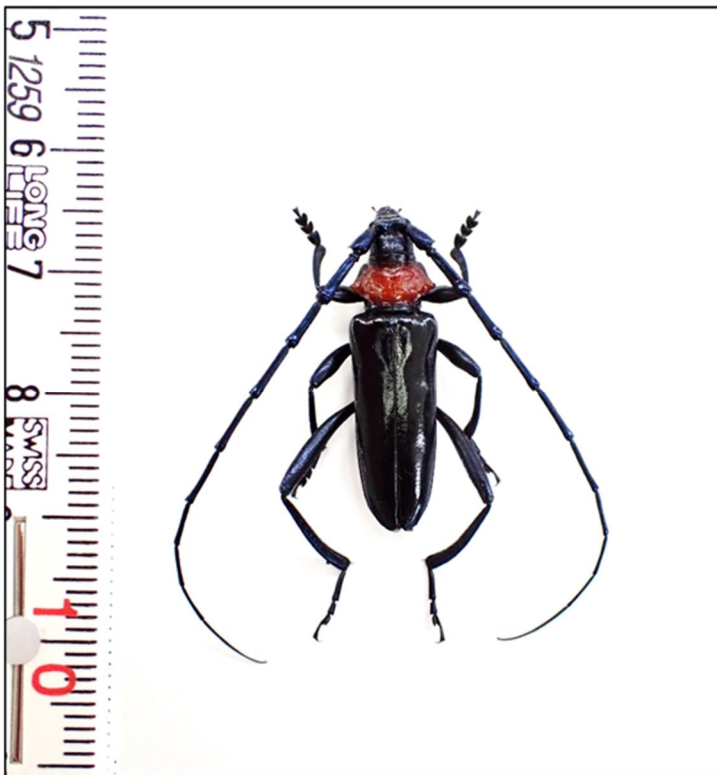


写真2 クビアカツヤカミキリ雄成虫

令和7年(2025年)10月1日  
滋賀県

1. 病原虫名 チュウゴクアミガサハゴロモ *Pochazia shantungensis* (Chou & Lu, 1977)
2. 対象作物 果樹類(イチジク、カキ、ブドウ、ナシ、オリーブ等)、チャ、花き類(ガマズミ等)
3. 発生地域 滋賀県南部
4. 発生経過
  - (1) 令和7年9月中旬、滋賀県南部のスダチにおいて、チュウゴクアミガサハゴロモと疑われる成虫が確認された(写真1)。
  - (2) 農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、本県では未発生のチュウゴクアミガサハゴロモであることが確認された。
  - (3) 本種は中国原産である。国内では、平成29年に大阪府で初めて確認され、令和7年9月26日現在、本県を含め14都府県で報告されている。
5. 形態および生態
  - (1) 本種はカメムシ目であり、成虫の体長14~15 mm。前翅は茶褐色~鉄さび色である。前翅前縁中央に三角形の白斑が存在する(写真4)。
  - (2) 幼虫は白色で、腹部から背中にかけて白い糸状の蠟(ろう)物質の毛束を広げる。背中には小さい黒点が見られる(写真3)。
  - (3) 成虫が樹皮を剥いで産卵するため、樹が損傷し、樹勢の衰弱や細枝の枯死が発生することがある。産卵痕は白い糸状の蠟物質で被覆される。
  - (4) 成虫および幼虫が枝を吸汁し、集団で吸汁すると排泄物により、すす病が発生する。
  - (5) 本種は極めて広食性であり、農作物ではリンゴ、ナシ、ウメ、モモ、スモモ、オウトウ、ブドウ、カンキツ、カキ、イチジク、ブルーベリー、オリーブ、キウイフルーツ、チャ、宿根アスター等での加害報告がある。
6. 防除対策
  - (1) 令和7年9月26日現在、本種を対象とした登録農薬はない。
  - (2) ほ場内をよく見回り、成虫や幼虫は見つけ次第捕殺する。
  - (3) 産卵された枝は切除してほ場外に持ち出し、土中深くへの埋設、または袋に密閉したうえでの処分など、適切に処分する。



写真1 羽化直後の成虫  
(スダチ)



写真2 チャに寄生する成虫



写真3 幼虫

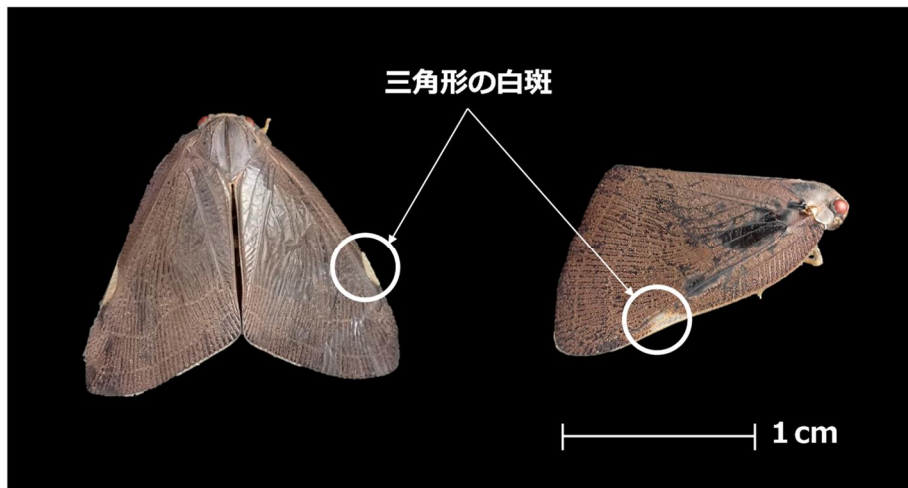


写真4 成虫

## 4 防除情報

本年度は、4回発表した。

令和7年度防除情報第1号

令和7年(2025年)7月29日  
滋賀県病虫害防除所

### ハスモンヨトウの多発に注意しましょう

対象作物：ダイズ、野菜類、花き類

病虫害名：ハスモンヨトウ

県内に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップのうち、近江八幡市での累積誘殺数は平年の約3.5倍であり(図)、過去10年間で2番目に多くなっています。また、長浜市でも平年の約1.8倍と多くなっています。さらに、サトイモにおいて幼虫による食害が平年より早く確認されています。

向こう1か月の気象予報(大阪管区气象台7月24日発表)では、気温は高いと予想されており、発生に好適な状況が続き、次世代成虫の発生量の増加、および幼虫による食害が懸念されます。

ほ場をよく見回り、若齢幼虫が群生している被害葉(写真)を除去しましょう。また、幼虫が老齢になると薬剤の効果が低下するので、薬剤散布は若齢期に実施しましょう。

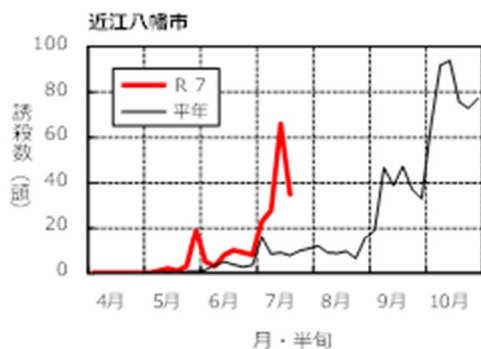


図 フェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫の誘殺状況



写真 若齢幼虫によるダイズの食害

斑点米カメムシ類による被害に注意しましょう

対象作物：水稲（中生・晩生品種）  
病害虫名：斑点米カメムシ類

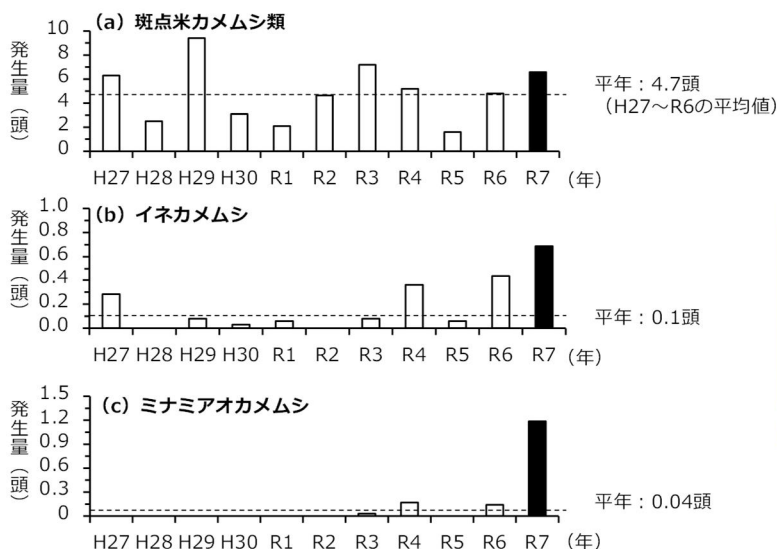
斑点米カメムシ類について、令和7年度病害虫発生予察注意報第3号（令和7年7月17日付け滋病防第59号）を発表したところです。

8月5日～6日に県内36地点の本田ですくい取り調査を実施したところ、斑点米カメムシ類の発生量が平年よりやや多い結果となりました。

その中でも、近年問題となっているイネカメムシが一部地域で、ミナミアオカメムシが県内全域で多くなっています。

引き続きほ場をよく観察し、イネカメムシが多いほ場では出穂期頃、大型種（ミナミアオカメムシなど）が多いほ場では糊熟期頃（出穂16日後を中心に出穂10～20日後）に防除しましょう。

（参考）農業技術振興センター内の5月10日頃移植の出穂期は、中生品種（日本晴）で8月7日頃、晩生品種（滋賀羽二重糯）で、8月13日頃が予想されています。



### ハイマダラノメイガの多発に注意しましょう

対象作物：アブラナ科野菜（キャベツ、ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー等）  
花き類（ストック、葉ボタン）  
病虫害名：ハイマダラノメイガ

ハイマダラノメイガの発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中で調査している誘致植物※（クレオメ）の寄生幼虫数は、9月第1半旬時点での累積誘殺数が約6.0頭となり、平年よりも顕著に多くなっています（図）。

※：対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台9月4日発表）では、気温は高く、降水量は少ないと予想されており、発生に好適な状況が続くおそれがあり、被害の増加が懸念されます。

本虫は生育初期に成長点付近を食害するため（写真）、幼虫の発生初期に薬剤を散布する、花き類の施設栽培では、開口部をネットで覆い、成虫の侵入を防ぐなど予防防除に努めましょう。

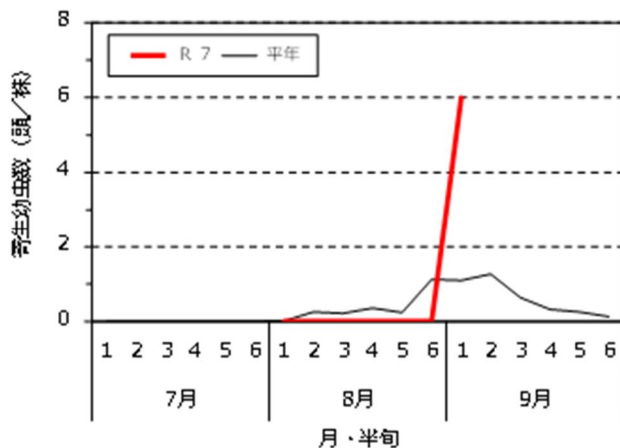


写真 幼虫によるキャベツの被害

図 誘致植物であるクレオメでのハイマダラノメイガの寄生状況（近江八幡市安土町大中）

果樹カメムシ類による被害に注意しましょう

対象作物：果樹（カキ）  
病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

果樹カメムシ類の予察灯（栗東市荒張）での誘殺数が、8月第5半旬から増加しており、9月第6半旬においても依然として増加傾向にあります（図）。

向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台9月25日発表）では、気温は高いと予想されており、果樹カメムシ類の活発な活動が続き、今後収穫を迎えるカキへの被害が懸念されます。

果樹カメムシ類は果実を吸汁し、落果や奇形果を生じさせます。園内をよく見回り、飛来を確認した場合は防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りを行う。
- (2) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性があるため、早朝か夕方に防除を行う。
- (3) 山林隣接園や過去に被害を受けた園では特に注意する。

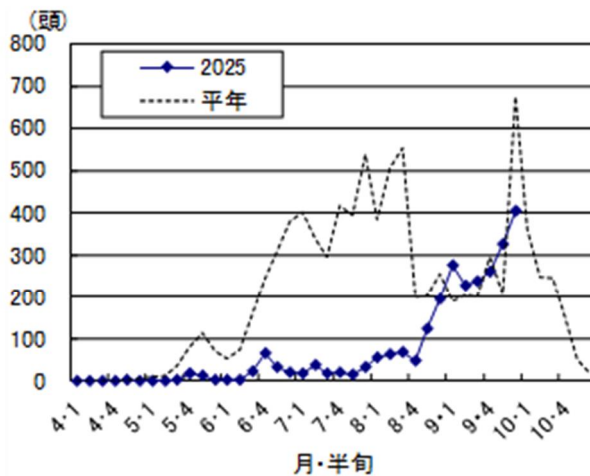


図 予察灯でのカメムシ類誘殺数の推移（栗東市荒張）

## 5 その他情報・発表・広報・研修会等

本年度、研修会などで発表した事例は3件あった。

- (1) 滋賀県農薬安全指導者協議会「農薬の安全使用」研修会  
令和7年7月9日(水) 滋賀県男女共同参画センター  
近年、新たに問題となっている病虫害について

・・・・・・・・角大樹

- (2) 令和7年度普及指導員専門養成研修における集合研修  
令和7年10月17日(金) 農業技術振興センター  
農薬の適正使用と危被害防止、主要農作物病虫害について

・・・・・・・・有元倫子、近藤篤、角大樹、岡本繁樹、松本敏幸、山口慧

- (3) 令和7年度滋賀県果樹組合連合会研修会  
令和8年3月18日(水) 滋賀県庁  
新たに発生した果樹の害虫2種

・・・・・・・・山口慧

## 第6 試験成績

### 1 効率的な予察手法の検討

#### (1) 令和7年のデータを用いた予測モデルの検証

##### ア 目的

令和6年に過去のイネ縞葉枯病のデータを用いた縞葉枯病発生予測モデルを作成した。令和7年の発生量データを用いてこの予測モデルの適合性を検証した。

##### イ 方法

令和6年に作成した縞葉枯病発生予測モデルに令和7年の発生量データを加え、適合性を検討した。なお、8月立毛中の発生量などのデータは発生が多くなった平成28～29年、平成31～令和7年の8か年を分析に用いた。なお、「供試虫数×保毒虫率」の値は、例年3月末に実施している縞葉枯病ウイルスの保毒虫検定で得られた値を用いた。検定は県内36地点調査地点ごとに未耕起田で枯れた稲株を50回掬い取りし、捕獲虫数を計数し供試虫数として行った。その供試虫を簡易エライザ法により判定し、保毒虫率を求めた。

##### ウ 結果

###### 【令和7年の発病状況】

令和7年の8月の本田での発病株率は0.380%と9年間（平成28年～令和6年（平成30年除く））の平均値0.940%に比べると低くなった。前年の令和6年の8月の本田での発病株率が1.890%と9年間で最も多かったが、令和7年は急激に低下した。また、令和6年の本田での発病が高かった割には、刈り株再生芽での発病である10月の発病株率は7.33%であり、8月の本田での発病株率が令和6年と同程度の令和5年の10月の発病株率12.187%よりも低くなった（表1）。

表1 縞葉枯病の発病と保毒虫率検定の結果

	H28	H29	H31	R02	R03	R04	R05	R06	R07	平均
8月発病株率	0.005	1.020	1.333	0.656	0.133	1.311	1.730	1.890	0.380	0.940
10月発病株率	2.153	3.303	2.228	0.760	0.853	8.228	12.187	7.330	-	-
前年10月発病株率	0.139	2.153	3.303	2.228	0.760	0.853	8.228	12.187	7.330	4.131
供試虫数	113	164	265	36	22	183	105	48	25	106.8
保毒虫率	0.9	1.8	1.9	5.6	0.0	4.4	9.5	20.8	8.0	5.9
保毒虫率×供試虫数	102	300	500	200	0	800	998	998	200	455.3

###### 【前年の刈り株再生芽と8月本田発病との関係】

平成28年～令和6年（平成30年を除く）のデータでは前年の刈り株再生芽と8月の発病株率との間では0.9053と高い相関関係が見られた（図1）。これに令和7年のデータを加えると、決定係数は0.5859と低下した（図2）。これは、令和7年のデータは前年の刈り株再生芽の発生状況からすると8月の発病株率が低くなったためと考えられた。

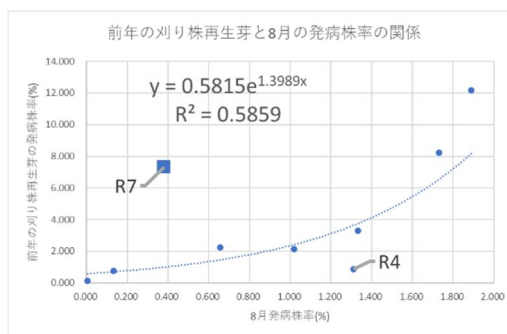
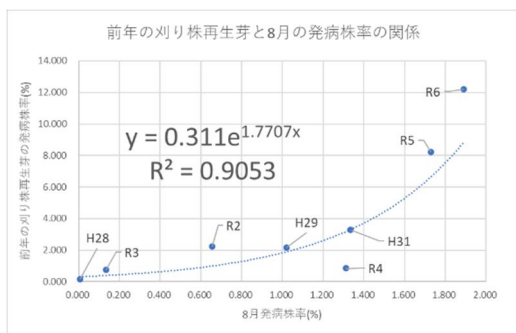


図1 令和6年までの再生芽と発病の関係 図2 令和7年を加えた再生芽と発病の関係

### 【供試虫数×保毒虫率と8月本田発病との関係】

平成28年～令和6年（平成30年を除く）のデータでは保毒虫率×供試虫数と8月の発病株率との間では決定係数0.9249と高い相関関係が見られた。これに令和7年のデータを加えると、決定係数は0.9247と同じく高い相関関係が見られた。これは、令和7年のデータを見てみると、越冬後のヒメトビウンカの虫数である供試虫数が平年値と比べても25頭と低く、ヒメトビウンカの保毒状況を示す保毒虫率も8%と前年の8月の本田での発病状況からみると低くなったことが要因と推測された。

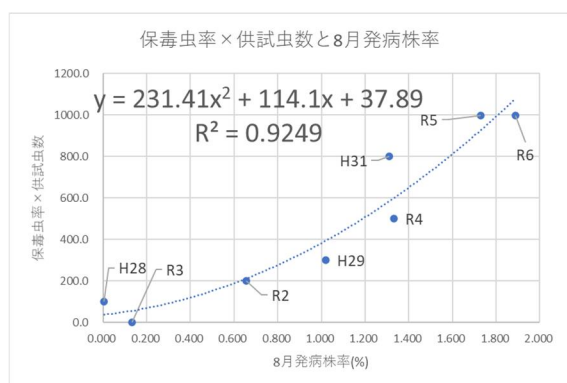


図3 令和6年までの保毒虫率×供試虫数と発病の関係

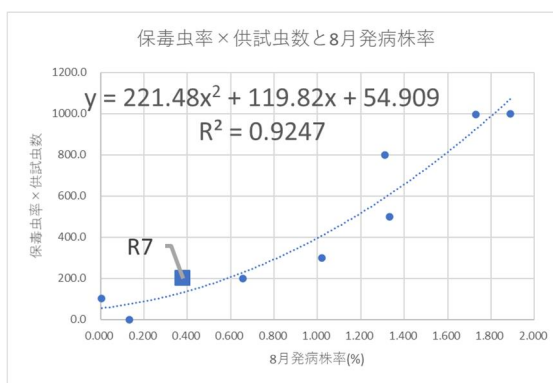


図4 令和7年を加えた保毒虫率×供試虫数と発病の関係

## エ 考察

前年の令和6年は8月の本田での発病が令和5年と同様に1.890%と高くなったものの、刈り株再生芽での発病は令和5年12.187%であったが、令和6年は7.33%となった。このことは、本田での発病状況のみで刈り株再生芽の発病が決まるわけでないことを示すものと考えられた。

これに比較して、越冬後のヒメトビウンカ虫数と保毒虫率を掛け合わせた値とその年の8月の本田での発病は令和7年の値もおおむね同様の傾向を示しており、決定係数も0.9247と高い相関を示した。令和7年は保毒虫率が前年の10月の発病株率が低かったことに加え、供試虫数が令和3年と同程度に低く、これらが要因と考えられた。

発生予察の実用的な面から考えると、できるだけ早い時期に当年の発病が予測できることが望ましく、越冬後の3月末の数値では田植え時期まで約1か月しか時間がなく、どのように活用するかを検討する必要がある。

## (2) イネカメムシの発生予察手法の検証

### ア 目的

1970年代には本県の斑点米カメムシの主要種であったイネカメムシ（小島・内田 1974）は、1980年代から発生が減少し、水田での発生は2000年頃まで確認されていなかった。2007年以降、局所的ではあるが県内で毎年発生が確認されており、特に山間地に近いほ場での発生が目立っている（北野・増田 2022）。本種は籾の基部を吸汁加害し、斑点米を生じさせるだけでなく、不稔を引き起こし減収させる（平江 2021）ため、その発生を予測する手法の確立が求められている。昨年度、作期の早い水田に多く集まる（北野・増田 2024）という本種の生態を応用した、極早生品種のポットイネを用いた予察手法の確立を試みたところ、ほ場よりも早いタイミングで出穂するポットイネをイネカメムシが加害することが示されたものの、加害のタイミングは不明なままであった（滋賀県病害虫防除所 2025）。そこで、ほ場よりも出穂が早い極早生品種をほ場内の一部に移植することによる予察手法の確立を試みた。

### イ 方法

調査地は甲賀市信楽町黄瀬および湖南市岩根の「みずかがみ」ほ場それぞれ2筆とした。

- 1) 試験区の設置：両地点とも4月28日に「みずかがみ」を移植し、当日中に極早生品種「あきたこまち」をほ場内2か所に3条×10株移植した。対照区は試験区近傍の3×10条に設置した。
- 2) 個体数調査：見取り法およびすくい取り法により個体数を調査した。見取り法は、試験区および対照区内の個体数を目視でカウントした。すくい取り法は、対照区付近の「みずかがみ」に対して、口径36cmの捕虫網を用いて1か所あたり10回振りで行った。調査は7月5日から31日まで週に1～4回行った。
- 3) 活動調査：試験区あたり1台のトレイルカメラ（㈱阪神交易 119932C またはオーム電機(株) BCM-HH662）を地表から80cmの高さに設置して、5時から19時の間、5分おきに写真を撮影し、イネカメムシのほ場への飛来時間帯や活動の様子を調査した（写真1）。調査は7月5日から24日まで行った。なお、時間帯は早朝（5時～8時半）、午前（8時半～12時）、午後（12時～15時半）、夕方（15時半～19時）とした。



写真1. トレイルカメラの設置によるイネカメの活動調査

### ウ 結果の概要

#### 1) 誘引調査

試験区は対照区よりも出穂始期は2～5日、出穂期は2～8日早く生育した（表1）。イネカメムシの初発日は試験区が出穂期を迎えた頃（岩根：7/12、黄瀬：7/17）で、その0～3日後、対照区でも確認した（表1、図1）。調査期間中の見取り調査による総確認頭数は試験区が131頭、対照区が36頭で、試験区で発生量が多くなった。特に、両地域とも出穂期が早い試験区（黄瀬：試験区3、岩根：試験区1，2）で発生が目立った。薬剤防除後の7月31日の調査では、見取り調査、すくい取り調査ともにイネカメムシは確認されなかった。

#### 2) 活動調査

試験区に設置したカメラには、岩根では見取り調査と同日、黄瀬では見取り調査の前日からイネカメムシが確認された（写真2）。各試験区のイネカメムシ初発時間帯は早朝が1か所、午前が2か所、午後が2か所、夕方が1か所であり、飛来時間帯に傾向はなかった。カメラで撮影されたイネカメムシ頭数を時間帯別にみると、早朝が最も少なく、夕方が最も多くなった。

(図2)。

以上の結果から、イネカメムシの試験区での初発日は対照区と同日または早く、飛来頭数は試験区の方が多いため、極早生品種を用いた発生予察手法は有効となる可能性が示された。また、イネカメムシのほ場への飛来は設置したカメラでも確認でき、調査間隔が長い場合はカメラでの撮影が効果的と考えられる。しかしながら、イネカメムシが試験区に飛来した0～3日後には対照区にも飛来していたことから、頻繁な調査が必要になることや、カメラでは試験区のすべてのイネカメムシを撮影できないことから、引き続き、検討が必要となる。

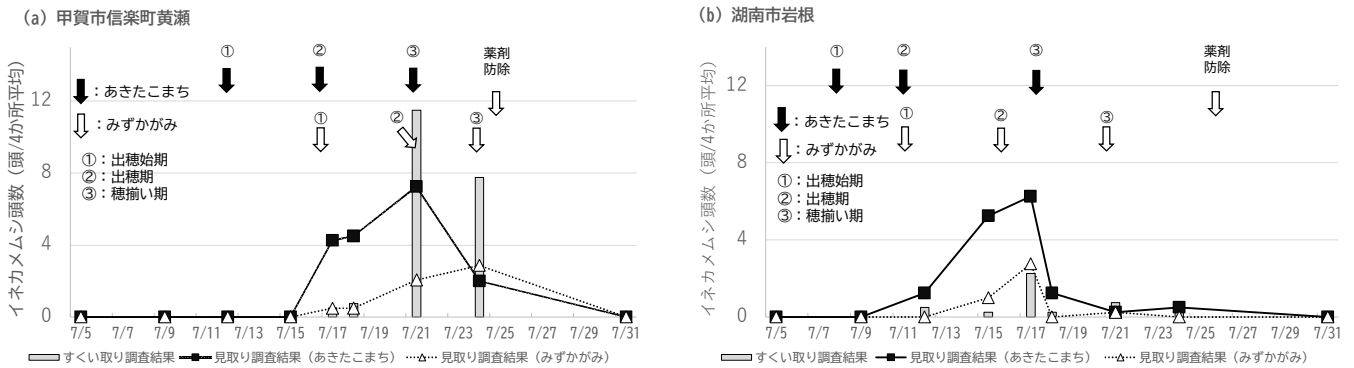
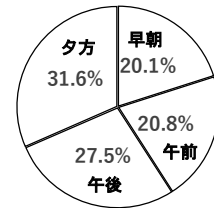
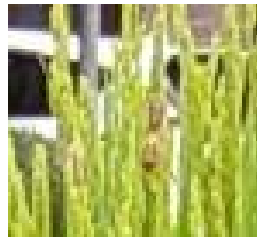


図1. イネカメムシの発生量の推移



写真2. カメラに撮影されたイネカメムシ (信楽町黄瀬 7/18 9:20)



□早朝 (5:00-8:30) □午前 (8:30-12:00)  
□午後 (12:00-15:30) □夕方 (15:30-19:00)

図2. 時間帯別のカメラで撮影されたイネカメムシ頭数の割合 (7/5-7/24)

引用文献

平江雅宏 (2021) イネカメムシの加害による水稻不稔の発生について. 関東東山病害虫研究会報 68: 24-26.  
 北野大輔・増田倫士郎 (2022) 滋賀県における水稻害虫イネカメムシ (カメムシ目: カメムシ科) の局所的な発生. 環動昆 33: 109-116.  
 北野大輔・増田倫士郎 (2024) 出穂期が異なる3品種のイネにおけるイネカメムシの発生パターンと不稔被害量. 環動昆 35: 67-74.  
 小島秀治郎・内田康雄 (1974) 滋賀県西部における斑点米の発生と防除について. 滋賀県農業試験場研究報告 16: 34-41.  
 滋賀県病害虫防除所 (2025) 令和6年度植物防疫事業年報 142-145

### (3) 新型害虫モニタリングシステムによる害虫誘殺数の調査

#### ア 目的

本県の発生予察事業では、60 w 白熱球もしくは 100 w 高圧水銀灯を光源とした乾式予察灯 (MT-7-N、株式会社池田理化。以下、従来予察灯とする) を使用して害虫の発生量を調査している。近年、LED を光源とし、記録写真を撮影して AI による害虫の診断と計数を自動で行う機能を備えた害虫モニタリングシステム (M30A2SA、RYNAN TECHNOLOGIES。以下、新型予察灯とする) が開発された。そこで本試験では、新型予察灯による害虫発生量調査の基礎的な知見を得るために、新型予察灯と、近隣に設置している従来予察灯の害虫誘殺数を比較した。加えて、新型予察灯の自動計数機能の精度について調査し、新型予察灯の利用方法を検討した。

#### イ 方法

##### (ア) 新型予察灯による害虫誘殺数の調査

新型予察灯の設置場所は滋賀県農業技術振興センター花・果樹研究部のほ場であり、同センター内に設置されている従来予察灯からおおよそ 100 m 離れた位置で互いに光が干渉しない位置に設置した。害虫発生量の調査は 2025 年 5 月 25 日から 10 月 30 日まで実施し、18 時～翌日 6 時まで LED ライト (青色、緑色、UV) を点灯した。この間、誘引された昆虫の記録写真の撮影と AI による自動計数が適宜行われ、撮影後、撮影装置内の昆虫は排出された。記録写真を目視で確認して害虫の個体数を計数し (以下、写真計数とする)、AI による自動計数の結果と比較した。写真計数において、複数の写真に全く同じ角度・位置で写っている個体は、同一と考え 1 個体として記録した。

なお、新型予察灯には殺虫剤を設置しておらず生体の写真を撮影しているが、便宜上、記録された害虫の個体数は「誘殺数」と表記した。調査対象種は、写真での種判別と計数が可能な果樹カメムシ類とした。

##### (イ) 従来予察灯との誘殺数の比較

新型予察灯と従来予察灯の害虫誘殺傾向の差異を評価するため、同センター内に設置している従来予察灯での害虫誘殺数の調査結果を、新型予察灯の結果と比較した。従来予察灯の光源には 100 w の水銀灯を使用し、点灯時間は新型予察灯と同じ 18 時～翌日 6 時までとした。

#### ウ 結果の概要

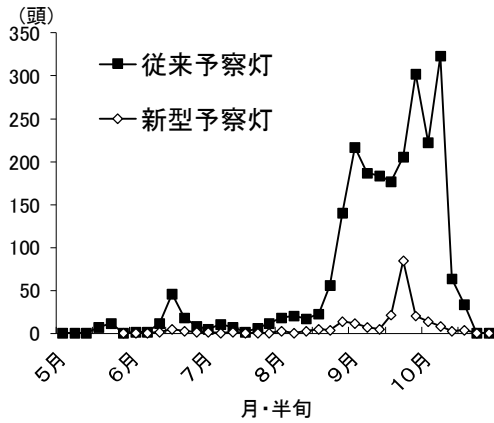
チャバネアオカメムシの従来予察灯での誘殺数は計 2311 頭であった。新型予察灯での誘殺数は自動計数で計 200 頭、写真計数で計 214 頭であり、写真計数による誘殺数が約 1.1 倍多かった (表 1 a)。両予察灯における誘殺数の多寡はほぼ一致していた (図 1 a)。自動計数で誘殺数が少なくなった要因として、写真撮影用装置の壁に止まった個体を計数できなかったことや、裏返って腹面が撮影された個体を本種と判別できなかったことが挙げられた。従来予察灯と比較して、新型予察灯の誘殺数は極めて少なく、増減の幅が小さいことからピークについての判断が難しかった (図 1 a)。

ツヤアオカメムシの従来予察灯での誘殺数は計 1578 頭であった。新型予察灯での誘殺数は自動計数で計 54 頭、写真計数で計 64 頭であり (表 1 b)、誘殺数の多寡は判断できなかった。チャバネアオカメムシと同様に、写真撮影用装置の壁にとまった個体は計数されず、また、ツヤアオカメムシがミナミアオカメムシとして計測された個体もあった。さらには、壁にとまり計数されるが外に排出されずに複数回記録された個体もみられた。チャバネアオカメムシと同様、新型予察灯の誘殺数は極めて少なく、増減の幅が小さいことからピークについての判断が

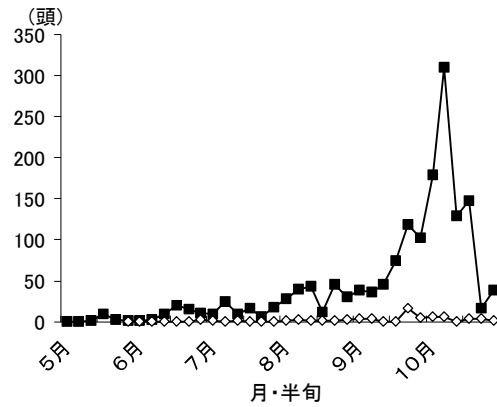
難しかった (図 1 b)。

クサギカメムシの従来予察灯での誘殺数は計 145 個体であった。新型予察灯での誘殺数は自動計数で計 42 頭、写真計数で計 44 頭であり、ほぼ一致していた (表 1 c)。また、誘殺数の多寡はほぼ一致していた (図 1 c)。新型予察灯の誘殺数は少ないものの、従来の予察灯と同様のピークがみられた (図 1 a)。

(a)チャバネアオカメムシ



(b)ツヤアオカメムシ



(c)クサギカメムシ

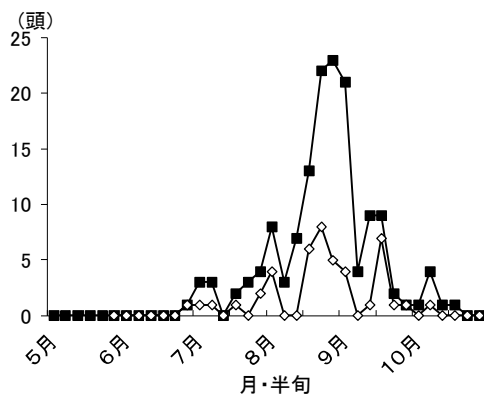


図1: 従来予察灯と新型予察灯(写真計測)の誘殺数の違い

これら果樹カメムシ類3種について、従来予察灯と新型予察灯を比較すると、新型は誘殺数が少なかったため、誘殺のピークなどを比較することができなかった (図 1)。また、AI による自動計測は、測定できない状況や同じ個体の連続のカウントがあったものの、おおむね目視による写真計測と同じ計測数であった (表 1)。

(a) チャバネアオカメムシ

		目視	AI	備考
5月	5・6	0	0	
6月	6・1	0	0	
	6・2	0	0	
	6・3	1	3	同じ虫3回カウント
	6・4	5	5	
	6・5	2	2	
	6・6	1	1	
7月	7・1	1	1	
	7・2	0	0	
	7・3	1	1	
	7・4	0	0	
	7・5	0	0	
	7・6	0	0	
8月	8・1	2	2	
	8・2	0	0	
	8・3	2	2	
	8・4	5	5	
	8・5	4	4	
	8・6	14	12	側面にいるためカウントできず
9月	9・1	11	10	ひっくり返ったものをミナミアオカメムシとしてカウント
	9・2	7	7	
	9・3	5	4	同じ虫をカウント、張り付きカウントできず
	9・4	21	21	
	9・5	85	76	側面張り付き多い
	9・6	20	17	
10月	10・1	14	14	
	10・2	8	8	
	10・3	2	2	
	10・4	3	3	
	10・5	0	0	
	10・6	0	0	
計		214	200	

(b) ツヤアオカメムシ

		目視	AI	備考
5月	5・6	0	0	
6月	6・1	0	0	
	6・2	0	0	
	6・3	0	0	
	6・4	0	0	
	6・5	0	0	
	6・6	3	3	
7月	7・1	1	1	
	7・2	0	0	
	7・3	1	1	
	7・4	0	0	
	7・5	0	0	
	7・6	0	0	
8月	8・1	1	1	
	8・2	2	1	ミナミアオとしてカウント
	8・3	1	1	
	8・4	1	1	
	8・5	1	1	
	8・6	2	2	
9月	9・1	4	5	ひっくり返った1頭をカウントできず同じ虫を3回カウント
	9・2	4	4	
	9・3	0	0	
	9・4	0	0	
	9・5	17	12	張り付き
	9・6	5	3	張り付き
10月	10・1	6	4	ミナミアオ、張り付き
	10・2	6	6	
	10・3	0	0	
	10・4	4	4	
	10・5	4	3	張り付き
	10・6	1	1	
計		64	54	

(c) クサギカメムシ

		目視	AI	備考
5月	5・6	0	0	
6月	6・1	0	0	
	6・2	0	0	
	6・3	0	0	
	6・4	0	0	
	6・5	0	0	
	6・6	1	1	
7月	7・1	1	1	
	7・2	1	1	
	7・3	0	0	
	7・4	1	1	
	7・5	0	0	
	7・6	2	2	
8月	8・1	4	4	
	8・2	0	0	
	8・3	0	0	
	8・4	6	5	1頭ひっくり返ってカウントできず
	8・5	8	7	1頭ひっくり返ってカウントできず
	8・6	5	5	
9月	9・1	4	4	
	9・2	0	0	
	9・3	1	1	
	9・4	7	7	
	9・5	1	1	
	9・6	1	1	
10月	10・1	0	0	
	10・2	1	1	
	10・3	0	0	
	10・4	0	0	
	10・5	0	0	
	10・6	0	0	
計		44	42	

表1：写真計測と自動計測による誘殺数の違い（目視：写真計測、AI：自動計測）

## 2 効果的な病害虫の防除技術の検討

### (1) イチゴ炭疽病薬剤耐性菌の県内分布調査

#### ア 目的

イチゴ栽培において重要な病害である炭疽病は、化学合成農薬の防除効果の低下が問題となっている。その原因として薬剤耐性菌の発生が考えられ、本県の平成 28 年度における調査の結果、県内で採取された 47 菌株はすべてアゾキシストロビンおよびベノミル耐性菌であった（滋賀県病害虫防除所、2016）。その後本県では、耐性菌の検定は行われていない。

そこで、現在の耐性菌の分布状況を確認するため、炭疽病の主要な防除薬剤であるアゾキシストロビンおよびベノミルに加え、ジエントフェンカルブに対して、耐性菌の発生状況を調査し、イチゴ炭疽病の防除における薬剤選定の資料とする。

あわせて、より簡易な検定手法が求められていることから、液体培地を用いた検定手法についても検証した。

#### イ 方法

##### 1) イチゴ炭疽病菌の採集

本年に県内の炭疽病が発生したイチゴ栽培施設 5 地点から炭疽病の発病株を採取した。クラウン等の組織片を 70%エタノールと 1%次亜塩素酸ナトリウムによる表面消毒、水道水による水洗後、抗生物質入り PDA 培地に置床した。培地上に形成した分生子を、単孢子分離後、検定に供試した。

##### 2) 菌種判別

菌種の判別は、佐藤・小金澤（1995）の方法に準じて、行った。供試菌株を PDA 培地において 28℃で 5 日間前培養し、形成された菌叢の周縁部を直径 4 mm のコルクボーラーで打ち抜き、ベノミル 1, 250ppm 添加 PDA 培地、ジエトフェンカルブ 625ppm 添加 PDA 培地および薬剤無添加 PDA 培地に、菌叢面が下になるように置床した。ベノミルはベノミル 50%水和剤（商品名：ベンレート水和剤）、ジエトフェンカルブはジエトフェンカルブ 25%水和剤（商品名：パウミル水和剤）を使用した。ベノミルはオートクレーブ殺菌前、ジエトフェンカルブは殺菌後に約 50℃に冷ました培地に添加した。25℃で 5 日間培養した後、培地上に生育した菌叢の直径を測定し、薬剤無添加培地に対する生育率を下記の式により算出した。

$$Y = A/B \times 100$$

Y：生育率（%）

A：薬剤添加 PDA 培地での菌叢直径（mm） B：薬剤無添加 PDA 培地での菌叢直径（mm）

判定は、ベノミル添加培地で 20%以下の生育率を示す菌株を *Colletotrichum gloeosporioides*、ベノミル添加培地で 20%以上の生育率を示し、かつジエトフェンカルブ添加培地で 20%以上の生育率を示す菌株を *C. acutatum* とした。

##### 3) アゾキシストロビン耐性菌検定

検定は、植物病原菌の薬剤感受性マニュアルⅡ（（社）日本植物防疫協会）に基づいて行った。すなわち、供試菌株を PDA 培地において 28℃で 5 日間前培養し、形成された菌叢の周縁部を直径 4 mm のコルクボーラーで打ち抜き、アゾキシストロビン 100ppm および SHAM1, 000ppm 添加 PDA 培地、SHAM1, 000ppm 添加 PDA 培地に置床した。アゾキシストロビンはアゾキシストロビン 20%水和剤（商品名：アミスター20 フロアブル）を使用した。アゾキシストロビン、SHAM はオートクレーブ殺菌後に約 50℃に冷ました培地に添加した。25℃で 4 日間培養した後、アゾキシストロビンおよび SHAM 添加培地での菌糸伸長がみられず、SHAM のみ添加培地で菌糸伸長がみられた菌株を感受性菌、アゾキシストロビンおよび SHAM 添加培地、SHAM の

- み添加培地の両方で菌糸伸長がみられた菌株を耐性菌とした。なお、反復は3反復とした。
- 4) ベノミル MIC (最小生育阻止濃度)  
検定は、植物病原菌の薬剤感受性マニュアル ((社) 日本植物防疫協会) に基づいて行った。すなわち、供試菌株を PDA 培地において 28℃ で 7 日間前培養し、形成された菌叢の周縁部を直径 4 mm のコルクボーラーで打ち抜き、ベノミルを 0、0.2、0.4、0.78、1.56、3.12、6.25、12.5、25、50、100、200、400、800、1600、3200ppm 添加した PDA 培地に置床した。28℃ で 3 日間培養した後、菌糸伸長の有無を調べて MIC (最小生育阻止濃度) を求めた。なお、反復は 3 反復とした。
  - 5) ベノミル、ジエトフェンカルブ耐性菌検定  
検定は、植物病原菌の薬剤感受性マニュアル ((社) 日本植物防疫協会) に基づいて行った。すなわち、供試菌株を PDA 培地において 28℃ で 7 日間前培養し、形成された菌叢の周縁部を直径 4 mm のコルクボーラーで打ち抜き、ベノミル 100ppm 添加 PDA 培地、ジエトフェンカルブ 100ppm 添加 PDA 培地、薬剤無添加培地に置床した。28℃ で 3 日間培養した後、菌糸伸長がみられた菌株を耐性菌とした。なお、反復は 2 反復とした。
  - 6) ジエトフェンカルブ液体培地検定  
検定は、液体培地による簡易耐性菌診断法 (農研機構、2019) に準じて行った。すなわち、ジエトフェンカルブ 100ppm 添加 PDB 培地および薬剤無添加 PDB 培地をねじ口試験管に 2ml ずつ分注した。なお、ジエトフェンカルブはオートクレーブ殺菌後に約 50℃ に冷ました培地に添加した。供試菌株を PDA 培地において 28℃ で 3 日間前培養し、形成された菌叢の周縁部を直径 4 mm のコルクボーラーで打ち抜き、分注した培地へ投入した。28℃ で 3 日間培養した後、菌糸伸長の有無を調査した。なお、反復は 6 反復とした。

## ウ 結果の概要

- 1) 4 市 5 施設から 14 菌株を分離した。また品種は 5 品種であった (表)。
- 2) 供試した 14 菌株のうち、12 菌株が *C. gloeosporioides*、2 菌株が *C. acutatum* と判定された (表)。また *C. acutatum* と判定された 2 菌株は同一施設から採取された菌株であった。なお、*C. gloeosporioides* については、種の再分類が行われ、イチゴに病原性を持つものは *C. fructicola* 他 2 種と分類されており、中でも *C. fructicola* が優占種とされている。*C. fructicola* については、ベノミル、ジエトフェンカルブの両剤に耐性を持つものが他県でも確認されているため、今回 *C. acutatum* と判定された 2 菌株に対しても、詳細な菌種の同定には、PCR を用いた同定手法により検討する必要がある。
- 3) 供試した 14 菌株のうち、13 菌株がアゾキシストロビン耐性菌であった。1 株については、菌糸は全く伸長せず感受性は不明であった (図 1)。
- 4) 供試した 14 菌株のベノミル MIC はすべて 3,200ppm 以上であった (図 2)。
- 5) 供試した 14 菌株はすべてベノミル耐性菌であった。また 14 菌株のうち、2 菌株がジエトフェンカルブ耐性菌であった (図 3)。
- 6) 感受性菌 (菌株 No. 1) と耐性菌 (菌株 No. 5) を液体培地により検定した結果、感受性菌はジエトフェンカルブ 100ppm 添加液体培地での生育はみられなかったのに対し、耐性菌では同培地での菌糸の生育がみられた (表、図 4)。固体培地と同様の結果が得られたことから、液体培地でも簡易に検定できる可能性が示唆された。

以上のことから、場所、品種を問わずにアゾキシストロビン、ベノミル耐性菌が発生していることが分かった。平成 28 年度の調査結果でも、両薬剤の耐性菌率は 100% であり、その傾向は変わっていなかった。また、平成 28 年度の調査ではみられなかったジエトフェンカルブ耐性菌が認められた。その理由として、従来から存在していた *C. gloeosporioides* だけでなく、*C. acutatum*

が発生している可能性が考えられた。液体培地を用いた検定手法について、固体培地と同様に検定できる可能性が示唆された。

これらの結果より、アゾキシストロビン、ベノミル、ジエトフェンカルブの使用に際しては、他系統剤を組み入れたローテーション散布を行うなど、耐性菌に十分注意した防除体系に努める必要がある。

表1 イチゴ炭疽病耐性菌検定結果

菌株番号	採取地	生産者	品種	生育率 (%)		菌種	薬剤感受性		
				ベノミル	ジエトフェンカルブ		アゾキシストロビン	ベノミル	ジエトフェンカルブ
1	近江八幡市	A	章姫	39.7	8.5	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
2	近江八幡市	A	章姫	44.2	7.1	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
3	近江八幡市	A	みおしずく	48.0	8.8	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
4	近江八幡市	A	よつぼし	39.5	7.6	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
5	長浜市	B	章姫	43.2	48.4	<i>C. acutatum</i>	耐性	耐性	耐性
6	長浜市	B	みおしずく	43.4	50.3	<i>C. acutatum</i>	耐性	耐性	耐性
7	長浜市	C	かおり野	39.0	8.2	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
8	長浜市	C	かおり野	41.0	6.8	<i>C. gloeosporioides</i>	不明	耐性	感受性
9	東近江市	D	スターナイト	36.4	6.8	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
10	東近江市	D	スターナイト	40.9	6.4	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
11	東近江市	D	スターナイト	41.1	5.5	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
12	野洲市	E	章姫	39.5	7.3	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
13	野洲市	E	章姫	42.1	9.3	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性
14	野洲市	E	章姫	41.2	7.7	<i>C. gloeosporioides</i>	耐性	耐性	感受性

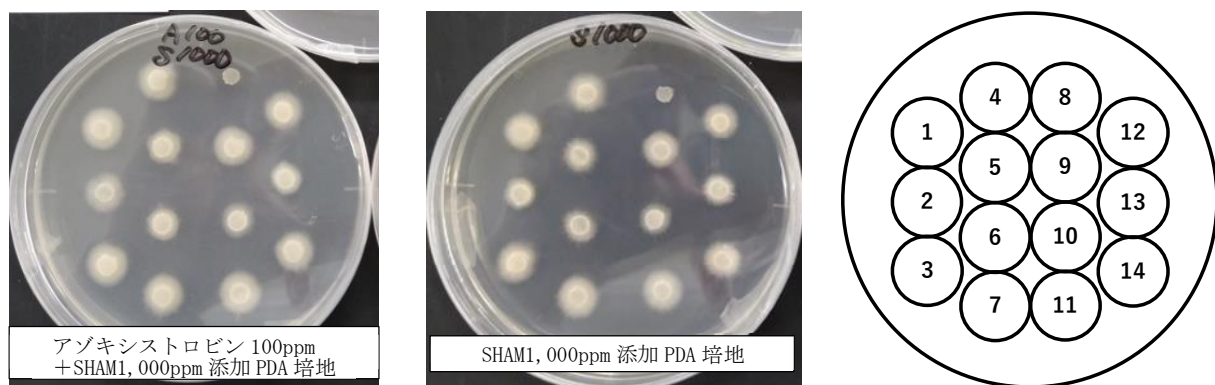


図1 アゾキシストロビン耐性菌検定結果

左図はアゾキシストロビン100ppmおよびSHAM1,000ppm添加PDA培地で、中図はSHAM1,000ppm添加PDA培地で25℃、4日間培養した結果を示す。どちらの培地においても、菌株No.8を除き菌糸の伸長がみられた。右図は菌株の配置を示し、数字は表1の菌株番号を表す。

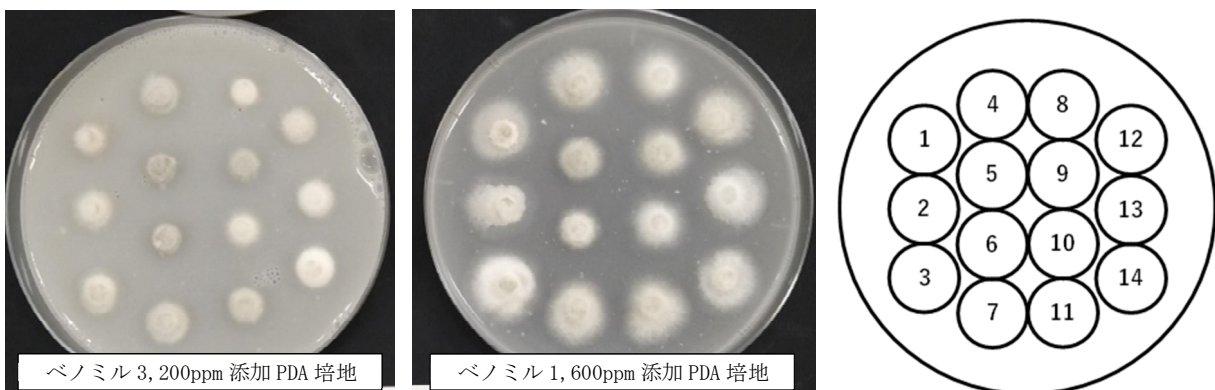


図2 ベノミル MIC (最小生育阻止濃度) 検定結果

左図はベノミル3,200ppm添加PDA培地で、中図はベノミル1,600ppm添加PDA培地で28℃、3日間培養した結果を示す。右図は菌株の配置を示し、数字は表1の菌株番号を表す。

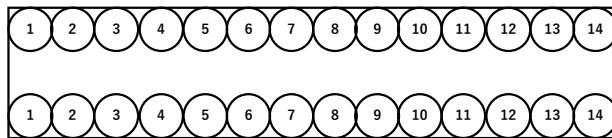


図3 ベノミルおよびジエトフェンカルブ  
耐性菌検定結果

上段は薬剤無添加 PDA 培地、中上段ベノミル 100ppm 添加培地、中下段はジエトフェンカルブ 100ppm 添加培地で 28℃、3 日間培養した結果を示す。下段は菌株の配置を示し、数字は表 1 の菌株番号を表す。

引用文献

滋賀県病害虫防除所 (2016) 平成 28 年度滋賀県植物防疫事業年報 113-114

農研機構 (2019) 殺菌剤耐性イネいもち病菌対策マニュアル<QoI 剤>

佐藤・小金澤 (1995) 日本産 *Colletotrichum acutatum* の *Colletotrichum gloeosporioides* 類似菌株と両種の判別法. 日植病報. 61 : 619-620 (講要)

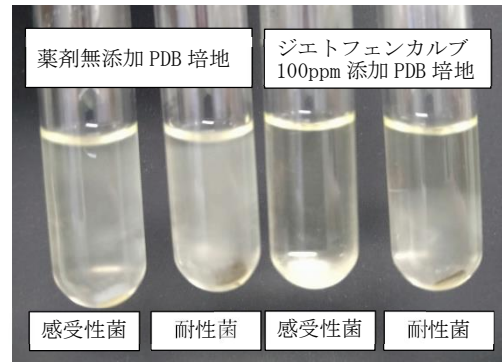


図4 ジエトフェンカルブ液体培地  
耐性菌検定結果

左 2 本薬剤無添加 PDB 培地、右 2 本はジエトフェンカルブ 100ppm 添加 PDB 培地で 28℃、3 日間培養した結果を示す。薬剤無添加培地では、感受性菌、耐性菌双方菌糸の伸長がみられたが、ジエトフェンカルブ添加培地では、耐性菌のみ菌糸の伸長がみられた。

## (2) トマト黄化葉巻病の管理手法の検証

### ア 目的

滋賀県において、トマトは野菜産出額の上位を占める重要な品目である。近年トマト栽培において、タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病が問題となっている。そこで、トマト黄化葉巻病による被害低減を図るため、タバココナジラミの発生を抑制する IPM 防除体系について検証した。

当所における 2021～2024 年の調査により、忌避剤、気門封鎖剤および微生物農薬の組み合わせは、それぞれを単独で施用した場合と比較して、コナジラミ虫数と黄化葉巻病の発病を抑制できる可能性があることが明らかとなっている。そこで本試験では、微生物農薬に加えて、天敵製剤を組み合わせた体系による、コナジラミ類の発生および黄化葉巻病の発病の抑制効果を検証した。

### イ 方法

#### 1) 耕種概要

耐候性ハウス（8m×13m）  
ベッドサイズ：0.2m×7.2m  
ベッド数：4  
播種：8月1日  
定植：9月1日  
供試品種：CF 桃太郎ファイト  
（黄化葉巻病罹病性）

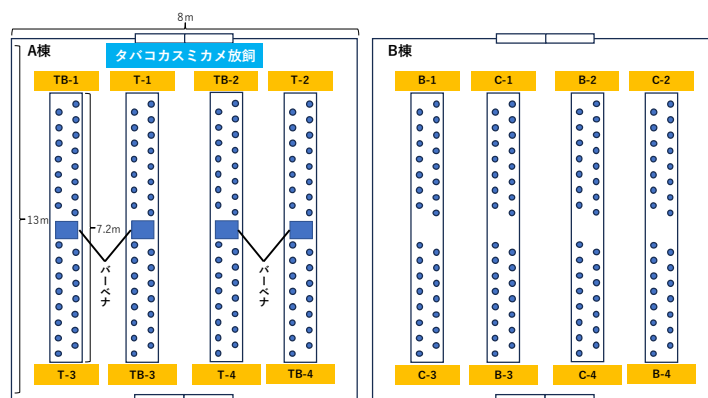


図1 試験区概要

#### 2) 試験区

微生物農薬として、パーティシリウム レカニ水和剤（マイコタール）、天敵製剤としてタバココナジラミ放飼剤（バコトップ）を使用し、それらの単用または併用により、下記のとおり試験区を設定した（図1）。

##### A棟

TB：タバココナジラミ放飼剤+パーティシリウム レカニ水和剤散布

T：タバココナジラミ放飼剤

##### B棟

B：パーティシリウム レカニ水和剤散布

C：無処理区

タバココナジラミ放飼剤は、9月18日に、2株あたり1頭、計60頭を、ベッドの中間に設置したバーベナへ放飼した。パーティシリウム レカニ水和剤は、9月9日から11月21日にかけて、約10日ごとに計8回、1000倍希釈で散布した。また、各区4反復とした。

#### 3) 調査項目

- 黄化葉巻病の発生量調査：9月9日から12月1日にかけて、約10日間ごとに発生量の推移を9回調査した。
- コナジラミ類の虫数調査：ベッドの上部に設置した黄色粘着版への付着数を9月9日から12月1日にかけて、約10日間ごとに8回調査した。

### ウ 結果の概要

コナジラミの虫数は、すべての区で定植3週間後以降増加傾向を示し、10月中下旬に一時的に

減少したが、11月上中旬にかけて再度増加した(図2)。タバコカスミカメを放飼したA棟において、タバコカスミカメ剤単用区と比較すると、タバコカスミカメ剤とパーティシリウム レカニ水和剤を併用した区では、コナジラミ捕殺数が少ない傾向がみられた。またB棟においては、無処理区に比較して、パーティシリウム レカニ剤を施用した区では、コナジラミ捕殺数が少ない傾向がみられた。

黄化葉巻病の発生については、タバコカスミカメを放飼したA棟では定植3週間後以降、B棟では10月下旬以降、発病株率が増加した(図3)。A棟において、タバコカスミカメ剤単用区、タバコカスミカメ剤およびパーティシリウム レカニ水和剤併用区ともにほぼ同様の推移を示し、最終的な発病株率は、いずれもほぼ100%に達した。B棟においても、パーティシリウム レカニ剤単用区、無処理区ともにほぼ同様の傾向を示し、いずれも発病株率は約50%となった。

以上のことから、黄化葉巻病の媒介昆虫であるタバココナジラミに対して、微生物農薬による発生抑制効果を再確認することができた。また、天敵製剤を組み合わせることにより、さらに発生を抑制できる可能性が示唆された。一方、黄化葉巻病の発病抑制効果はみられず、試験区間に大きな差は認められなかった。

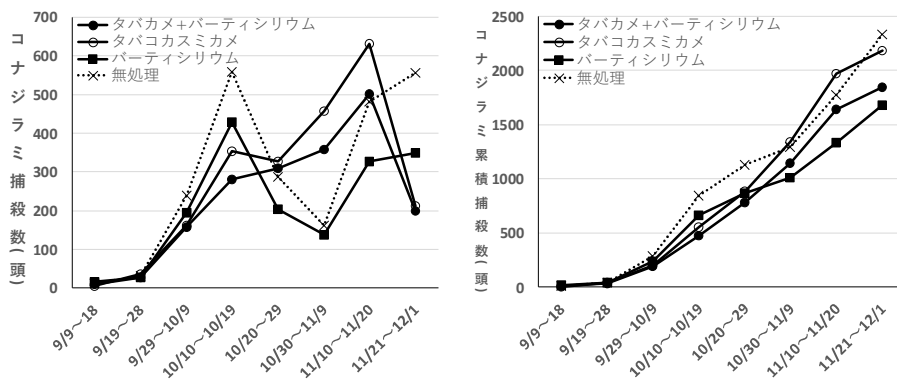


図2 黄色粘着版によるコナジラミ捕殺数および累積捕殺数  
4反復の平均値。黄色粘着版は、各区中央に1枚設置し、約10日間隔で回収し、虫数を計測した。

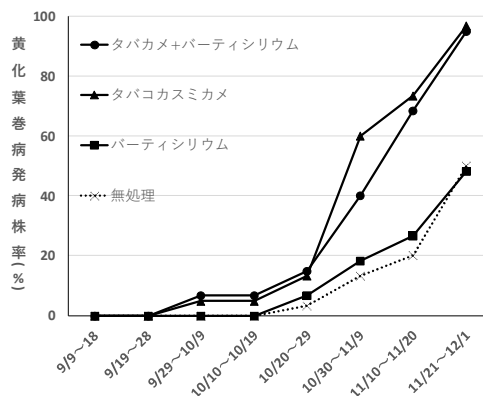


図3 黄化葉巻病発病確率  
4反復の平均値。発病の有無については、目視またはAgripalette トマト黄化葉巻ウイルス検出キット(株式会社FASMAC)を用いて確認した。

### (3) ミナミアオカメムシの天敵などを活用した防除体系の確立

#### ア 目的

滋賀県におけるミナミアオカメムシは大豆で発生・被害が拡大している。慣行の薬剤防除だけでは十分な防除効果が得られない場合もあり、化学合成農薬の使用量を削減した防除も併せて対策が必要である。このため、ミナミアオカメムシの発生を抑制できる天敵を探索した。

#### イ 方法

- 1) ミナミアオカメムシ卵塊の準備：野外で採集したミナミアオカメムシを、野田（1991）に従い、乾燥ダイズと吸水させたソラマメ催芽種子、水（0.05%のアスコルビン酸と 0.025%のシステインを含む）を導入したウンカ飼育用ケースを用いて室内で累代飼育した。ケース内にろ紙を貼りつけた台を設置することで、ろ紙に卵塊を産卵させた。Tsunashima et al. (2022) を参考に、産卵3日以内に $-80^{\circ}\text{C}$ で、最長132日まで保存した。
- 2) 卵寄生蜂の探索：保存した卵塊は $25^{\circ}\text{C}$ 下に1時間以上設置し、解凍したものを用いた。実験は近江八幡市安土町大中のダイズほ場で行い、9月29日から10月23日まで計8回、保存したろ紙上の卵塊を、ホッチキスを用いてダイズ葉の裏側に貼り付けた。設置3日後から8日後に卵塊を遠沈管（50 ml）に回収した。遠沈管を $25^{\circ}\text{C}$ （16L8D）で寄生蜂成虫の出現または1か月後まで保存した。回収した卵塊から羽化した寄生蜂はGoulet and Huber(1993)とManser(1976)に従って同定した。

#### ウ 結果の概要

- 1) 寄生率（寄生の有無/卵塊数）は16.7%～66.7%であり、10/6を除いたすべての調査期間において卵寄生蜂の寄生を確認した（図）。また、132日間冷凍保管した卵塊でも寄生蜂の脱出が確認された。
- 2) 得られた寄生蜂は細腰目ハラビロクロバチ上科タマゴクロバチ科タマゴクロバチ亜科 *Trissolcus* 属の1種であることが判明した（写真1～4）。

以上の結果から、ミナミアオカメムシの簡易な天敵探索に冷凍卵を用いた方法は有効であると考えられる。また、今回確認された寄生蜂と同属である *Trissolcus basalis* は愛知、和歌山、福岡、熊本県で発生が確認されており、ミナミアオカメムシの天敵として防除効果が認められている。本県で確認された *Trissolcus* 属が *T. basalis* ならばミナミアオカメムシの防除に寄与する可能性がある。今後、種の同定と、その発生活消長を把握する必要があると思われる。

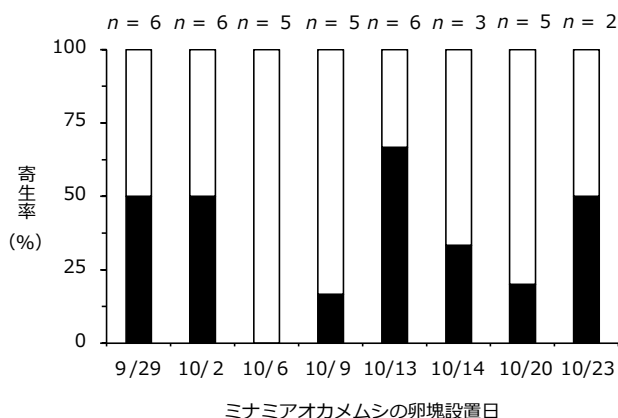


図 寄生蜂による  
ミナミアオカメムシ卵塊の寄生率  
(寄生の有無/卵塊数)  
注1) 棒グラフの黒色部分は寄生率を示す。  
注2)  $n$  は設置した卵塊数を示す。



写真1 全体像  
体の高さと同程度。

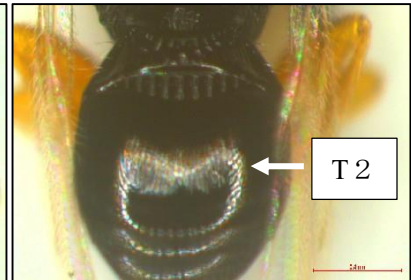
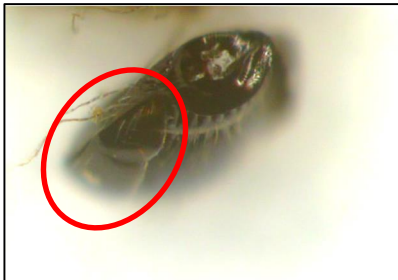


写真2 後体節（左：先端部、中央：側面、右：背面）  
後体節は全体的に黒色。  
幅広い側背板（丸で囲まれた部分）を持ち、T2は後体節背板の中で最も大きい。



写真3 触角  
（左：オス、右：メス）  
オスは12節、メスは11節で区切られている。



写真4 頭部  
前頭の下半分には溝があり、複眼は無毛。  
注) 前頭：中央単眼前縁から触角挿入孔下縁の間。

引用文献

Goulet, H. & Huber, J.T. (eds.) 1993, Hymenoptera of the world: an identification guide to families, Research Branch, Agriculture Canada Publication 1894/E, Ottawa.

Masner L., 1976. Revisionary notes and keys to world genera of Scelionidae (Hymenoptera: Proctorupoidea). *Memorires of the Entomological Society of Canada*, 97: 1-97.

Tsunashima, A., (Miura) Sato, A., Ozawa, Y. et al. Influence of host age and low-temperature storage on parasitization by the egg parasitoid *Trissolcus japonicus* (Hymenoptera: Scelionidae). *Appl Entomol Zool* 58, 127–132 (2023).

### 3 新たな診断技術の検討

#### (1) 野菜類の重要害虫であるタバココナジラミの簡易同定法の検証

##### ア 目的

タバココナジラミ（以下、コナジラミ）はトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を永続的に媒介し、トマト黄化葉巻病を引き起こす。本種にはバイオタイプ B と Q が存在している。Q タイプは薬剤感受性が低いため、本種のバイオタイプを同定することは重要であるが、簡易同定時に虫体をすりつぶす作業が一般的に組み込まれたため、形態を観察する機会は少ない。大西ら（2016）は虫体を破碎せずにバイオタイプを同定する技術を報告したが、採集には粘着版を用いるため、虫体を破損する恐れがあり、粘着版から取り出す作業は手間がかかる。そこで、本研究では、粘着版を使用せずに簡便に採集する、かつ虫体を破碎せずにバイオタイプを同定する手法が可能か調査した。

##### イ 方法

###### 1) コナジラミの採集：3

月2日に近江八幡市のミニトマトハウス内、高さ約2mにコナジラミLED誘引駆除機「ピカとる™」1機と黄色粘着板（ホリバー®）を設置し、3月4日にトラップを回収し

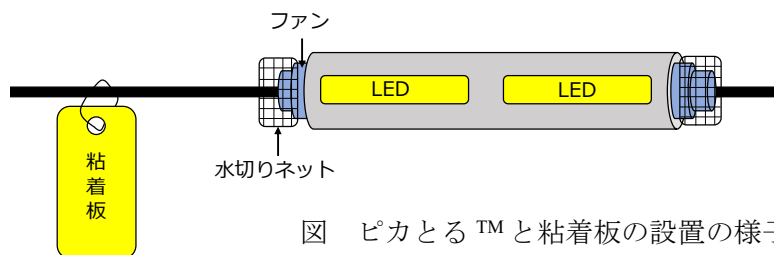


図 ピカとる™と粘着板の設置の様子

た（図）。ピカとる™では、ファン部両端に水切りネット（ストッキングタイプ）を被せ、ネット内に捕集されたコナジラミを検定に用いた。また、トラップに誘殺された個体数が少なかったため、ハウス内から直接採集した。採集した個体は-20℃で冷凍した。

###### 2) DNAの抽出

以下の3通りの方法で行った。

- ・大西ら（2016）を参考に、コナジラミ1個体を入れた1.5 ml チューブに抽出緩衝液 20 μl（10 mM Tris-HCl, 1 mM EDTA, 100 mM NaCl, 1 mg/ml プロテイナーゼ K, pH 8.0）を加えた。チューブを56℃で12時間処理し、その後に95℃で10分間処理した。遠心機により虫体を沈殿させ、上澄み液を別の新しいチューブに回収してDNA抽出液とした（サンプル1～3）。

- ・電子レンジ法1：Nurhadi et. al（2023）を参考に、コナジラミ1個体を入れた1.5 ml チューブに200μlの蒸留水を加え、電子レンジ（800 W）で10分加熱した。その後、遠心分離（12000 ×g 5分）し、上清液をDNA抽出液とした（サンプル4、5）。

- ・電子レンジ法2：駒場（2018）を参考に、蒸留水100 μlを入れた0.5 ml チューブにコナジラミを1匹移し、電子レンジ（500W）で1分間加熱した。攪拌後、遠心機により虫体を沈殿させ、上澄み液を別の新しいチューブに回収してDNA抽出液とした（サンプル6、7）。

3) バイオタイプの同定：得られたDNA抽出液2 μlとタバココナジラミバイオタイプQ検定キット（ニッポン・ジーン）のバイオタイプQ検査溶液とバイオタイプB/Q検査溶液を用いてバイオタイプを同定した。

###### 4) 外部形態の確認

DNA抽出に用いた個体について、Chenesh et al（2022）を参考に、タバココナジラミの同定

に重要な部位が識別可能か確認した。

## ウ 結果の概要

- 1) 粘着板ではコナジラミを誘殺されなかったが、ピカとる™では、コナジラミ 1 個体を誘殺することができた。
- 2) サンプル 1～3 の抽出液はバイオタイプ Q を検出した (表)。一方でサンプル 4～7 はいずれの検査溶液も反応しなかった。
- 3) サンプル 1～3 について、DNA 抽出後においても同定に重要な翅、複眼、触角、後脚を損壊しなかった。

以上の結果から、大西ら (2016) を参考にすることで、虫体を破砕せずに得た DNA 抽出物と市販のバイオタイプ検定キットを用いてバイオタイプの同定が可能であることが判明した。電子レンジ法 1 は虫体を潰す方法、電子レンジ法 2 では菌糸を採用しているため、DNA を抽出できなかった可能性がある。また、ピカとる™を用いたサンプルの回収は水切りネットを外すだけであるため、黄色粘着板より簡便だと思われる。

表 虫体を破砕しない DNA 抽出法を用いたバイオタイプ検定結果

検査溶液	大西ら (2016) による DNA 抽出法			電子レンジ法 1		電子レンジ法 2	
	サンプル 1	サンプル 2	サンプル 3	サンプル 4	サンプル 5	サンプル 6	サンプル 7
バイオタイプ Q	○	○	○	×	×	×	×
バイオタイプ B/Q	○	○	○	×	×	×	×

注) 表中の○×はそれぞれ陽性と陰性を示す。

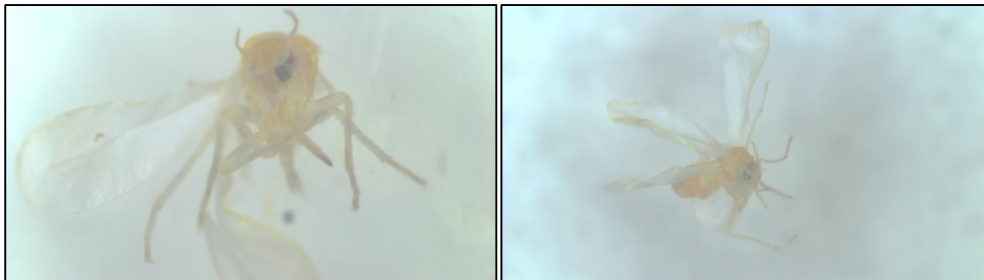


写真 大西ら (2016) を参考にした DNA 抽出法を実施した後のコナジラミ

## 引用文献

Chenesh Patel, Ravi Mohan Srivastava, Jeevakani Muthu Samraj 2022 Brazilian Archives Biology and Technology. Vol. 65: e22210034, 2022 [www.scielo.br/babt](http://www.scielo.br/babt)

大西純・豊田周子・北村登史雄・武田光能 (2016) 虫体を破砕しない簡易凍結 DNA 抽出法による粘着板から回収したタバココナジラミ成虫のトマト黄化葉巻ウイルス保毒虫検定. 植物防疫 70 : 653 - 658

駒場麻有佳・山城都・高橋怜子・山崎周一郎・福田充 (2018) LAMP 法によるオオムギ斑葉病菌保菌種子の迅速検定

Nurhadi Eko Firmansyah, Thaksaporn Thongseesuksai, Thidarut Boonmars, Saleha Sungkar, Porntip Laummaunwai 2023. Journal of Insect Science, 2023, Vol. 23, No. 5

## (2) クビアカツヤカミキリの排出するフラスからの遺伝子診断方法の検討

### ア 目的

クビアカツヤカミキリの幼虫は生育過程で加害樹の外側へフラス（木くずと糞の混合物）を排出する性質がある。クビアカツヤカミキリの加害を診断するには、外見による判定も一定は可能とされているが、クビアカツヤカミキリ以外のカミキリムシでもフラスを排出するため、判断が難しい場合が多い。このフラスから遺伝子を抽出し、解析することでクビアカツヤカミキリの加害の診断が可能になる。このため、フラスから遺伝子を抽出する方法を検討した。

### イ 方法

#### 【フラスの採集】

クビアカツヤカミキリのフラスは 2025 年に滋賀県湖北地域のウメで発生したクビアカツヤカミキリの被害樹から採集した。

サンプル 1：7 月 6 日に採集。被害樹 7 本から排出されていたなるべく樹外に排出されて間もないと思われる部分から約 1g をビニール袋に採集し、試験に用いるまで -20℃で保管した。

サンプル 2：8 月 27 日に採集。被害樹を伐倒する際に、樹外へ排出されたフラス（フラス①）と樹内の幼虫加害道に沿って残っていたフラス（フラス②）に分けて約 2g をビニール袋に採集し、試験に用いるまで -20℃で保管した。

#### 【フラスから抽出した DNA の PCR 増幅検定】

抽出した DNA は PCR 法により増幅できるかを検定した。PCR のプライマーはクビアカツヤカミキリのミトコンドリア遺伝子 C01 領域の前半部をカバーする 8F1 と 800R1 を設計して用いた。

F kubiaka8F1 5' cgaacaaatgattattttcaacca 3' 24mer

R kubiaka800R1 5' tattccgagagtgccaaagg 3' 20mer

PCR 反応条件 95℃1 分→95℃30 秒、55℃30 秒、72℃1 分を 30 回繰り返して→72℃7 分

PCR 反応使用酵素 TaKaRa Ex Premier™ DNA Polymerase キット

### ウ 検出方法の検討

#### 【市販 DNA 精製キット利用による検出方法】

市販されている DNA 精製キット（キアゲン社 DNeasyBlood&Tissue を使用）を利用した検出方法を検討した。8 月 27 日に採集したサンプル 2 の 2 種類のフラスを用いた。（ATL 溶液：キット内の溶出用溶液、TE 溶液：10mMTris-1mMEDTApH8.0）

#### ・試料の調整

試料①：フラス①溶液 100 μl（フラス①50mg を 1000 μl の 0.1%triton/TE 溶液で抽出）  
に ATL 溶液 80 μl、キットプロテアーゼ溶液 20 μl 添加

試料②：フラス②溶液 100 μl（フラス②50mg を 1000 μl の 0.1%triton/TE 溶液で抽出）  
に ATL 溶液 80 μl、キットプロテアーゼ溶液 20 μl 添加

試料③：フラス①50mg に ATL 溶液 180 μl、キットプロテアーゼ溶液 20 μl 添加

試料④：フラス②50mg に ATL 溶液 180 μl、キットプロテアーゼ溶液 20 μl 添加

試料⑤：クビアカツヤカミキリ幼虫血液 10 μl に ATL 溶液 180 μl、  
キットプロテアーゼ溶液 20 μl 添加

試料⑥：フラス②溶液 100  $\mu$  l に ATL 溶液 80  $\mu$  l、10%SDS20  $\mu$  l、10mg プロテアーゼ K20  $\mu$  l を添加

- ・各試料を 56°C1 時間に保温し、以降キットの取扱説明書に沿って精製を行った。
- ・PCR による増幅検定の結果

PCR による検定の結果、虫体を用いた試料⑤は明瞭な濃いバンドが観察された。

フラスを直接キットの溶出溶液で抽出した試料④、フラスを 0.1%triton/TE 溶液で抽出し、SDS とプロテアーゼ K を添加した試料⑥でやや薄いバンドが観察されたが、フラスを 0.1%triton/TE 溶液で抽出した試料①と試料②ではバンドは観察されず、PCR による増幅は確認できなかった。

この結果から、市販の DNA 精製キットを用いてフラスから PCR 用の DNA を調製できると考えられた。

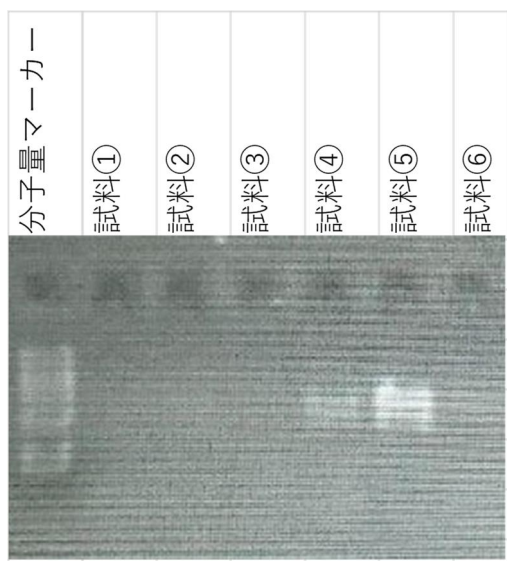


図 1 市販キットを利用した検出方法の PCR 増幅検定の結果

#### 【市販キットを利用しない検出方法】

市販されているキットでは検定に用いるフラスの量が少なく、安定した結果を得るためにはより多くのフラスからの抽出方法が確立されることが望ましい。このため、キットを用いない検出方法の検討を行った。

キットを用いた検出では、フラスからの抽出に 0.1%triton を用いたが、より抽出しやすい 1%SDS を用いることとした。

- ・フラス①とフラス②の 0.1g をそれぞれ 1.5ml 遠心チューブに計り取り、500  $\mu$  l の 1%SDS/TE 溶液を加えて十分に攪拌し、10 分間放置する。その後、上清を回収し、1/10 量の 10%プロテアーゼ K を添加し、56°C で 1 時間加温し、フラス溶液①および②とした。検定に用いるまで -20°C で保管した。
- ・試験区の設定
  - 試験①：フラス①溶液 100  $\mu$  l、析出試薬 NaOAc-エタノール
  - 試験②：フラス②溶液 100  $\mu$  l、析出試薬 NaOAc-エタノール
  - 試験③：フラス①溶液 10  $\mu$  l + 90  $\mu$  l TE 溶液、析出試薬 NaOAc-イソプロパノール
  - 試験④：フラス②溶液 10  $\mu$  l + 90  $\mu$  l TE 溶液、析出試薬 NaOAc-イソプロパノール
  - 試験⑤：フラス①溶液 10  $\mu$  l + 90  $\mu$  l TE 溶液、析出試薬 NaOAc-エタノール
  - 試験⑥：フラス②溶液 10  $\mu$  l + 90  $\mu$  l TE 溶液、析出試薬 NaOAc-エタノール
  - 試験⑦：フラス①溶液 10  $\mu$  l + 90  $\mu$  l TE 溶液、析出試薬 NaCl-エタノール

試験⑧：フラス②溶液 10 $\mu$ l+90 $\mu$ l TE 溶液、析出試薬 NaCl-エタノール

※TE 溶液：10mMTris-1mMEDTApH8.0

・抽出方法：

- a 各試験区の溶液に等量のフェノール・クロロホルム・イソアミルアルコール溶液を加え、十分に攪拌する。
- b 14,000rpm で5分間遠心し、上層（水層）を回収する。
- c 上清に 1/10vol の 3MNaOAc もしくは 5MNaCl を加え、攪拌後 2.5vol エタノールもしくは 1.0vol イソプロパノールを加え攪拌後、-20 $^{\circ}$ Cで 45分間冷却。
- d 14,000rpm10分間遠心後、沈殿を回収。チューブの蓋をあけ 20分間室温へ放置。
- e 各チューブに 30 $\mu$ l ずつ TE 溶液を加え、溶解後、PCR 増幅検定まで-20 $^{\circ}$ Cで保管。

・PCR による増幅検定の結果

試験④、⑥、⑧で明瞭なバンドが確認できた。いずれもフラス②であり、フラス①では増幅は認められなかった。

また、試験②はフラス②の試料を用いているが、濃度が高すぎるためか今回の抽出条件では増幅が検出できなかった。

これらのことから、フラスからの溶出は 1%SDS 溶液で、析出には NaCl、NaOAc、エタノール、イソプロパノールを用いると良いことが確認できた。

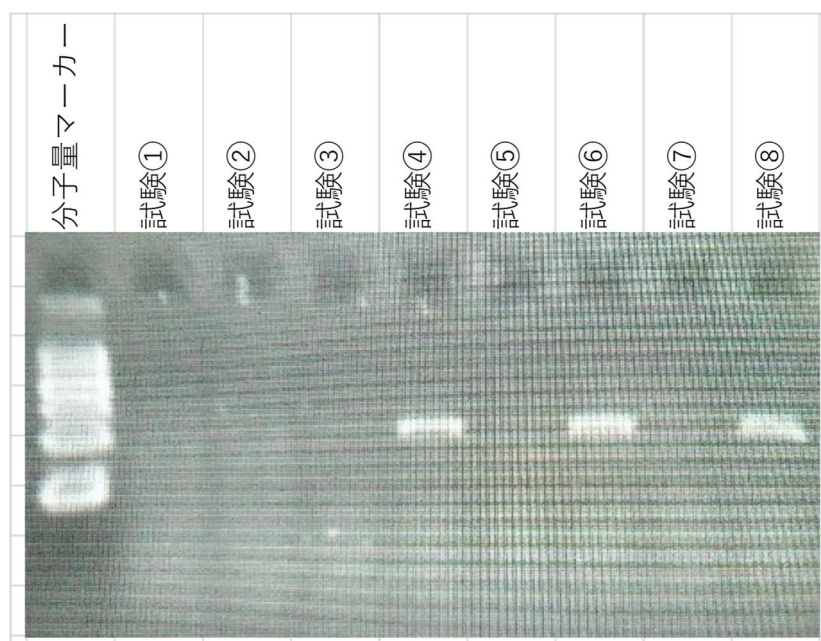


図2 市販キットを用いない検出方法のPCR 増幅検定の結果

#### 【クビアカツヤカミキリ発生樹園の樹外への排出フラスの検定】

検出方法が明らかとなったことから、クビアカツヤカミキリの発生樹園から樹外に排出された複数のフラスを用いて検定を実施した。

検定には、県内で初めてクビアカツヤカミキリの発生が確認されたウメ園から採集されたフラス、サンプル1を用いた。フラスは被害樹の中でも新鮮なフラスが確認できたフラスの塊からなるべく新鮮と思われる部分を 1g 程度採集し、検定までは-20 $^{\circ}$ Cで保管した。

・使用した試料

サンプル 1 : 被害樹①、②、④、⑤、⑥、⑦、⑧

サンプル 2 : フラス② (対照)

(被害樹③は状態の良いフラスは採集できなかった)

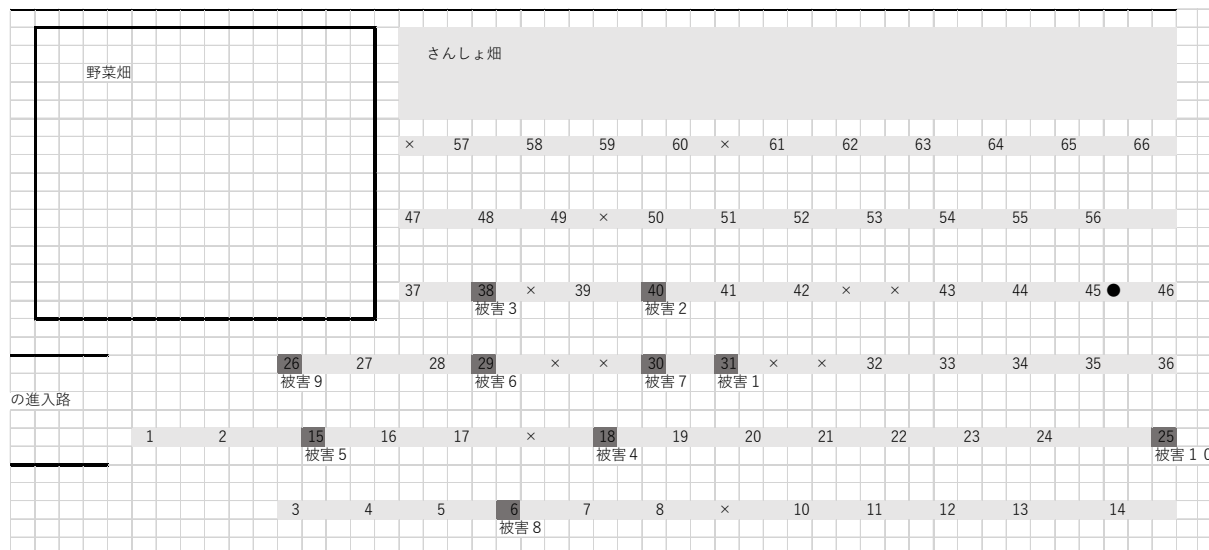


図 3 発生園地の被害樹の分布 (被害樹⑨、⑩は分析しなかった)

- ・各フラスを 0.1g ずつ 1.5ml 遠心チューブに入れ、500  $\mu$  l TE 溶液を加え、攪拌し、1/10vol の 10%SDS 溶液を加え、10 分間放置。
- ・「チビタン」で遠心し、上清 20  $\mu$  l を新しいチューブに回収。2  $\mu$  l の 10mg/ml プロテアーゼ K を添加し、56°C 1 時間保温。
- ・180  $\mu$  l の TE 溶液を加え、攪拌後、200  $\mu$  l のフェノール・クロロホルム・イソアミルアルコールを加え、十分に攪拌。
- ・14,000rpm 3 分間遠心し、上層 (水層) を回収。(約 150  $\mu$  l)
- ・15  $\mu$  l の 3MNaOAc を加え攪拌後、150  $\mu$  l の冷イソプロパノールを加え攪拌し、-20°C で 45 分間保管。

・PCR による増幅検定の結果

供試した 7 試料のうち、被害樹①、⑤、⑦、フラス②では明瞭なバンドが確認できた。試料はいずれも比較的新しいと思われる部分を採集していたが、検出できたのは 42%であった。このことから、今回の検出手法では比較的新鮮と思われるフラスからでも必ずしもクビアカツヤカミキリの遺伝子が検出できるわけでないことが明らかとなった。

エ 考察

クビアカツヤカミキリの被害樹から採集したフラスを回収し、DNA の検出を検討したところ、比較的新鮮なフラスであっても遺伝子が検出できるのは 42%であった。このため、今後、被害が疑われるフラスの診断ではなるべく新鮮と思われるフラスを複数採集する必要がある。できればフラス排出口付近のフラスや幼虫の加害道内のフラス、加害幼虫そのものを採集することが望ましいと考えられる。PCR で増幅された DNA は塩基配列の解析などを行うことで種の同定が可能であると考えられる。

なお、今回分析に用いたフラスはクビアカツヤカミキリの発生が多く、フラス発生状況と県内ではウメに寄生するカミキリムシ類は発生が少ないことから、ほとんどがクビアカツヤカミキリのフラスである可能性が高いと推測された。

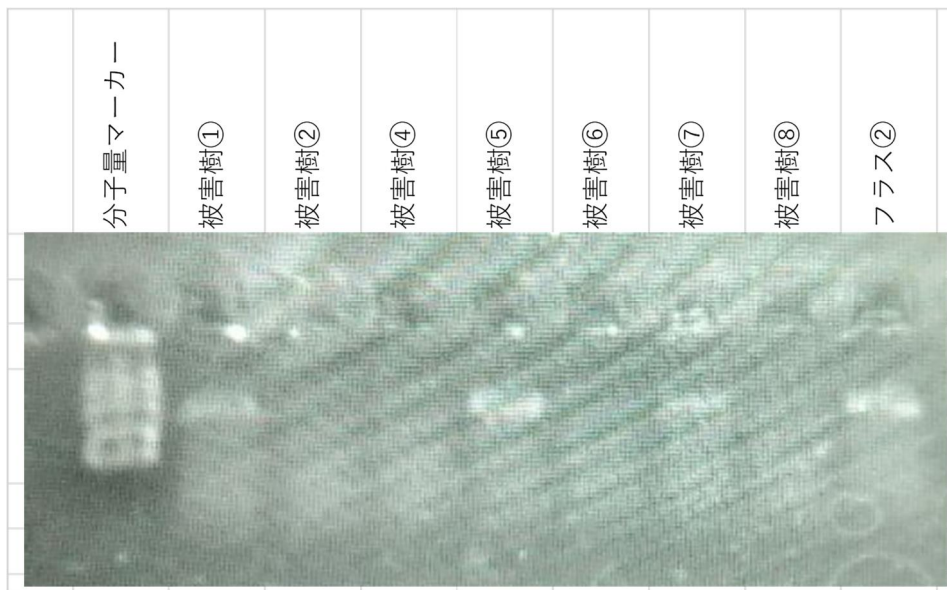


図4 被害樹のフラスから抽出したDNAのPCR増幅検定の結果

令和7年度植物防疫事業年報  
発行 令和8年(2026年)3月  
滋賀県病害虫防除所

〒521-1301 近江八幡市安土町大中516  
TEL : 0748-46-4926、6160  
FAX : 0748-46-5559  
Email : gc70@pref.shiga.lg.jp  
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>